

令和 2 年 度

社会調査実習報告書

第 9 号

淑徳大学

コミュニティ政策学部

はしがき

本報告書は、淑徳大学コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科の「社会調査実習」を履修した学生の調査研究の成果である。

コミュニティ政策学科では、専門科目（社会学分野）の教育目標に「社会事象や社会に関連する諸事実を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄を理論と方法の両面から理解する」ことを据え、コミュニティ研究の方法のひとつである社会調査を学生が体系的に学習するためのカリキュラムを組んでいる。1年次前期に「社会調査論」、1年次後期に「社会調査法」、2・3年前期に「統計解析法」と「社会統計学」、2・3年後期に「量的解析法」を履修する。これらの計5科目の単位を修得済みであることが、3・4年前期開講の「社会調査実習」の履修条件となっている。

「社会調査実習」は、それまでの各社会調査関連科目での学びの集大成として、研究テーマの設定から、テーマに関わる仮説および分析方法の検討、調査票の作成、実査、データの集計と解析、そして報告書による成果の公表という社会調査の一連の過程に、学生が主体となって取り組むものである。

2020年度の担当教員は山本功と青柳涼子、社会調査助手は渡辺由希であり、履修学生は15名であった。15名は「社会調査実習」の単位修得をもって「社会調査士資格」取得に必要な科目をすべて履修済みとなる。

2020年度は歴史的な記憶として残る年であった。いわずもがな、全世界を襲ったコロナ禍である。本来は前学期配当であったこの科目を、前学期中に対面授業ができず、メーリングリストやZoomを駆使して授業を展開することとなった。参加学生にとっても教員にとっても、初めての経験であった。

しかしながら、オンラインを駆使して社会調査の準備をすすめることは、全国の、あるいは海外の研究者と共同して調査研究にたずさわる研究者であれば、すでになされていることとも言える。参加学生にとっては、困難でありつつも、将来の職業生活にとってなにがしか糧となる経験であった部分もなくはないであろう。

この調査報告書の調査研究課題は、特殊詐欺に対する人びとの知識・意識・対策行動である。第1章に概略を記してあるが、いまだ減少の目処がたたない、喫緊の犯罪問題である。コロナ禍に便乗した手口の出現も報道されているところである。

調査課題の設定にあたっては、千葉県環境生活部くらし安全推進課防犯対策推進室に相談にのっていただいた。千葉県として調査研究を要請したい課題として特殊詐欺対策が提示され、これを受けて決定した調査課題である。

参加学生はまず、千葉県・千葉県警察の施策をはじめ、警察庁や関係省庁の施策、先行研究などを学んだ。何が問題で、どのような対策がなされており、何が不足しているのか、さらにどんな対策の可能性があるのかをオンラインで報告し合い、ディスカッションした。

先行研究の調査票も参照し、調査項目の策定、設問文のワーディング、選択肢の検討、統計解析手法の検討といった社会調査に必要な作業を着々と進めていった。

千葉県民を調査対象として指定していたこの社会調査実習の調査設計をベースに、他機関の研究者も参加し、さらに山形県、滋賀県、奈良県をも調査対象とし、加えて特殊詐欺の前兆電話経験者などを抽出しての第2波、第3波調査も設計されるなど、この調査は当初想定していなかった規模に拡大した。

最終的な調査票案には、千葉県警察、山形県警察、滋賀県警察、奈良県警察からのリクエスト項目も盛り込まれることとなった。

本報告書は、この大規模調査のうち、千葉県民を対象とした第1波調査を本授業の担当部分として分析し、報告するものである。

統計解析作業にあたっては、さらなる困難も待ち受けていた。本学で使用している統計解析ソフトはSASであるが、通常の教室使用が困難な状況下にあつて、参加学生は創意工夫して大学でSASを操作し、アウトプットを自宅に持ち帰って分析結果をまとめるという作業を行った。分析結果の検討もオンラインでなされた。これまで経験のない、イレギュラーな事態の連続する社会調査実習であった。

しかしながら、この調査研究の分析結果には、特殊詐欺対策に対していくばくかの貢献ができる知見がある。特殊詐欺対策として様々な広報啓発活動がなされているが、それらにどれくらいの効果があるのかは、社会調査を行ってはじめて分かることである。

また、人びとの、とりわけ高齢者や高齢者家族と同居する世帯の、固定電話の使用状況がどうなっているのか、何が特殊詐欺対策行動を規定しているのかといった分析も、施策の構想にあたって重要な知見であると思われる。

本学コミュニティ政策学部の社会調査実習として、参加学生が社会調査の技法を身につけると同時に、その成果が社会問題の解決・軽減にいくばくかの貢献ができれば、望外の喜びである。

最後に、本調査にご助言・ご協力いただいた千葉県・千葉県警察の担当者をはじめ、関係各機関に御礼申し上げます。

淑徳大学コミュニティ政策学部
教授 山本 功
准教授 青柳涼子

目 次

はしがき	山本 功・青柳涼子	i
第1章 特殊詐欺の概要と調査概要	山本 功	1
第2章 特殊詐欺のリスク認知	井上 龍	7
第3章 特殊詐欺の知識	藤原百花	11
第4章 防犯情報の認知	川口紗希	15
第5章 特殊詐欺対策情報の接触の分析	高島愛里	19
第6章 特殊詐欺防止ポスター	富永春香	23
第7章 特殊詐欺リスクコミュニケーション	種村 霞	27
第8章 前兆電話経験の分析	中村達哉	31
第9章 固定電話の防犯機能の使用について	戸澤くるみ	35
第10章 特殊詐欺対策コールセンターからの荷電経験と対策行動の分析	渡邊清成	39
第11章 スマホ等・PCメールの接触行動の分析	鈴木佐和子	43
第12章 SNS利用と特殊詐欺知識との関連	飯島華恋	47
第13章 新聞購読と特殊詐欺知識の関連性	三浦結里菜	51
第14章 千葉県の4地域別の集合的効力感の分析	関 奈央	55
第15章 メディア接触と特殊詐欺対策への関心の分析	石島 奨	59
第16章 何が特殊詐欺対策への対策意図を規定しているか	東條文哉	63
付録		
基礎集計表		69
調査画面		97

第1章 特殊詐欺の概要と調査概要

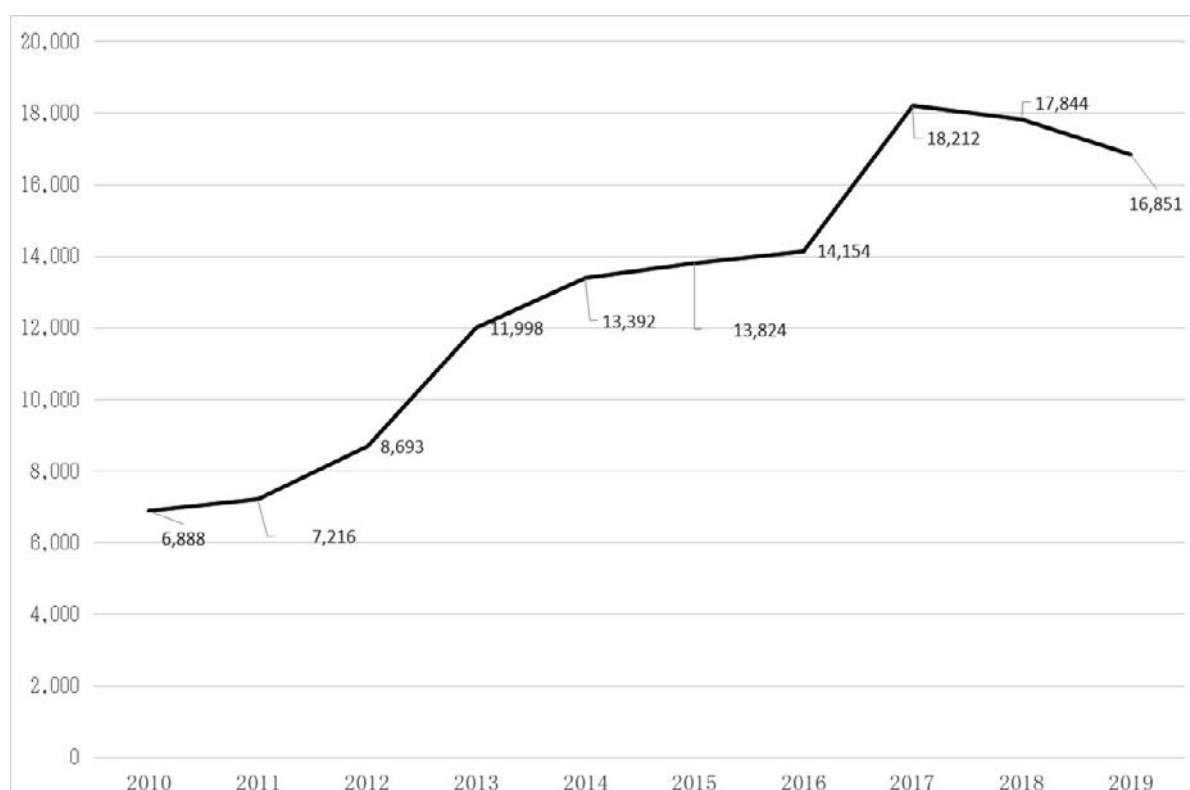
山本 功

1. 特殊詐欺の概要

駅や電車内、バスや街頭、銀行ATMなど、様々な場所で特殊詐欺に対する注意を喚起するポスターを目にすることは珍しくない。すっかり日常的な風景となった感がある。相当量の広報啓発活動が展開され始めてから久しいと言ってよかろう。

しかしながら、警察や自治体などの様々な工夫をこらしたキャンペーンにもかかわらず、特殊詐欺は減少傾向をみせていない。この10年の全国の特特殊詐欺の認知件数を図表1-1に示した。

図表1-1 全国の特特殊詐欺認知件数（2010-2019）



※出典:警察庁捜査第二課・生活安全企画課「令和元年における特殊詐欺認知・検挙状況等について（確定値版）」

https://www.npa.go.jp/bureau/criminal/souni/tokusyusagi/hurikomesagi_toukei2019.pdf

図表1-1 から見てとれるように、2010年時点と比較すると、特殊詐欺の認知件数はこの数年、3倍弱程度で推移している。今もって重要な社会問題となっているわけである。

警察庁をはじめとし、犯罪対策閣僚会議は2019年6月に「オレオレ詐欺等対策プラン」を策定した。このプランにおいて、特殊詐欺は以下のように定義されている。

特殊詐欺とは、面識のない不特定の者に対し、電話その他の通信手段を用いて、預貯金口座への振込みその他の方法により、現金等をだまし取る詐欺をいい、振り込み詐欺（オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融

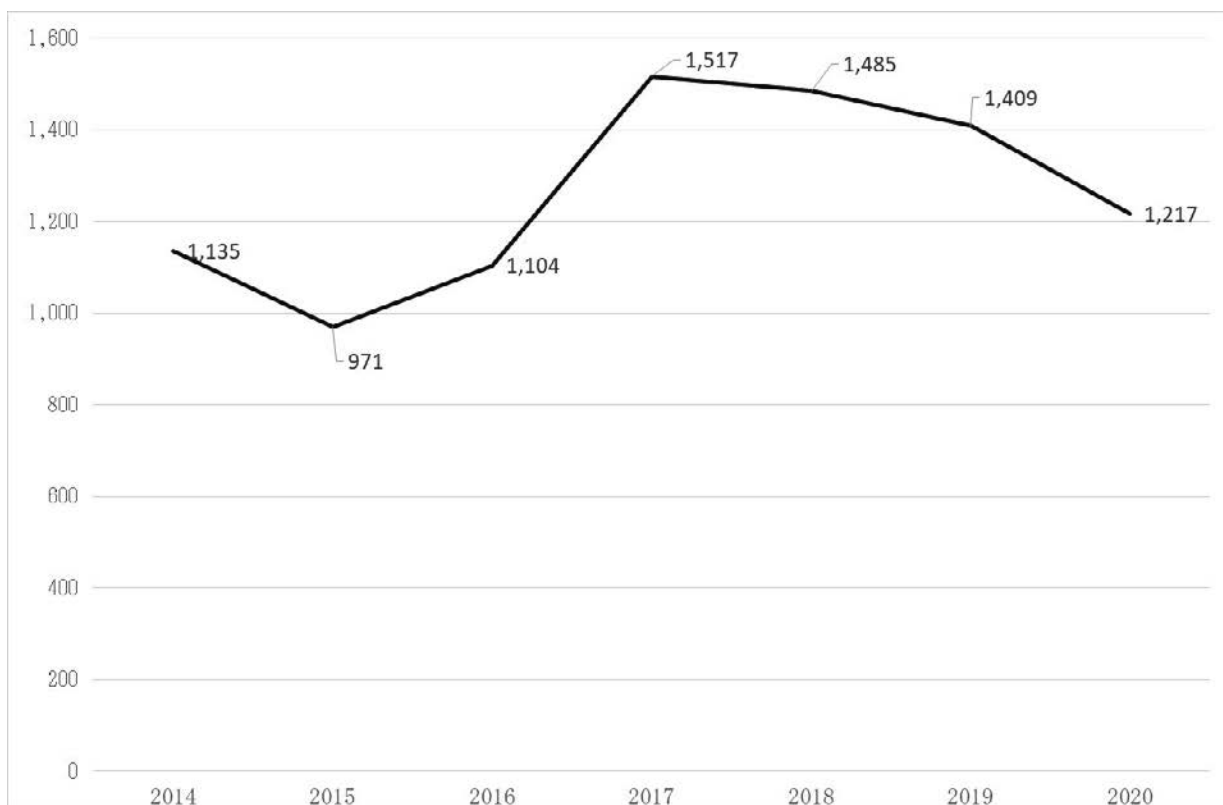
資保証金詐欺及び還付金等詐欺）及び振り込め詐欺以外の特殊詐欺（例えば、金融商品等取引名目、ギャンブル必勝法情報提供名目等の詐欺）を総称したものである。（犯罪対策閣僚会議 2019「オレオレ詐欺等対策プラン」 1 頁）

なお、警察庁等が発表する特殊詐欺の統計には、「現金等を脅し取る恐喝及び隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗（キャッシュカード詐欺盗）を含む」ものとなっており、刑法上の「詐欺罪」よりも広い概念となっている。このため、犯罪統計上の区分とは一致しない。

警察庁が掲げている特殊詐欺の主な手口として、以下のものがある。オレオレ詐欺、預貯金詐欺、キャッシュカード詐欺盗、架空料金請求詐欺、還付金詐欺、その他の手口（融資保証金詐欺、金融商品詐欺、ギャンブル詐欺、交際あっせん詐欺）。

千葉県においても、千葉県・千葉県警察が特殊詐欺に対応すべく様々な施策を実施している。図表 1-2 に千葉県における特殊詐欺の認知件数を示した。年間に 1,000 件を超す認知件数となっていることがわかる。

図表 1-2 千葉県の特殊詐欺認知件数（2014-2020）



※出典：千葉県警察HPより著者作成 https://www.police.pref.chiba.jp/seisoka/safe-life_fraud-damage.html 最終閲覧 2021 年 3 月 6 日

なお、千葉県・千葉県警察は特殊詐欺を「電話 de 詐欺」と呼称し、独自の対策を展開している。たとえば、「電話 de 詐欺・悪質商法被害抑止コールセンター」を運用し、「NTT 電話帳や、警察が

押収した電話 de 詐欺等の犯人グループが使用していた名簿などに、連絡先が掲載されていた方」を対象とした電話がけの実施、千葉県警察ホームページにおける実際にあった電話 de 詐欺の電話音声の公開、相談専用ダイヤルの設置、等々である。

また千葉県環境生活部くらし安全推進課が中心となり、県内の小学校 5 年生から祖父母などに電話 de 詐欺への注意喚起のはがきを発送する「STOP! 電話 de 詐欺カクニンダーはがき大作戦」といった施策も実施されている。県内の小学校 5 年生約 52,000 人が対象となった施策である。

特殊詐欺の現況と、特殊詐欺対策の施策の展開という社会状況に鑑みれば、人びとが特殊詐欺についてどれほどの知識をもっているか、特殊詐欺対策の情報にどれほど接触しているのか、特殊詐欺対策の行動をとっているかといった知見を得ることが必要とされていた。

こうした課題に応えるには、社会調査という手法が必要とされる。そのため、2020 年度の淑徳大学コミュニティ政策学部の授業「社会調査実習」において、特殊詐欺に対する人びとの知識、意識、対策行動等を調査課題として設定することとなった。

2. 調査概要

(1) 調査対象

千葉県内に在住する 20 歳～69 歳を調査対象とした。まず、市町村別・男女別・年齢別の人口を確認するために、「千葉県年齢別・町丁字別人口令和 2 年度」を参照した。これは、千葉県が「市町村からの報告を取りまとめたもので、人口と世帯は全て令和 2 年 4 月 1 日午前零時現在のものである」とされている。当該の統計情報は以下のサイトから入手した。

千葉県庁HP：ホーム＞県政情報・統計＞統計情報＞統計情報総合案内＞統計情報の広場(千葉県の統計情報)＞分野別検索＞総合＞千葉県年齢別・町丁字別人口＞千葉県年齢別・町丁字別人口令和 2 年度＞第 2 表年齢(5 歳階級, 各歳)別, 男女別人口-県・市区町村・11 地域(令和 2 年度)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/r02/r02-nenreibetu02.html>

千葉県の地域振興事務所の所管区域をベースとした。当該区域は以下のとおりである。これに、以下の図表 1-3 には掲載されていない、千葉県庁が所管する千葉市、市原市を加えると、千葉県内を 12 の地域に区分することができる。

図表 1-3 千葉県 地域振興事務所所管区域

名称	所管区域
葛南地域振興事務所	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
東葛飾地域振興事務所	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ケ谷市
印旛地域振興事務所	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
香取地域振興事務所	香取市、香取郡
海匝地域振興事務所	銚子市、旭市、匝瑳市
山武地域振興事務所	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
長生地域振興事務所	茂原市、長生郡
夷隅地域振興事務所	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
安房地域振興事務所	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
君津地域振興事務所	木更津市、君津市、富津市、袖ケ浦市

以上の12の区域を、以下の4地域に再分類した。なお、県の区分では市原市は千葉市と同区域であるが、人口等を勘案して内房地域に組み入れた。

- ・東葛地域＝葛南地域＋東葛飾地域
- ・千葉市
- ・内房地域＝市原市＋印旛地域＋君津地域
- ・外房地域＝香取地域＋海匝地域＋山武地域＋長生地域＋夷隅地域＋安房地域

以上の手続きのうえ、年齢層を10歳刻みとし、性別かつ年齢層別の人口を算出した。その結果が図表1-4である。

図表1-4 千葉県4地域別の性別・年齢層別人口（2020年4月1日現在）

年齢	千葉市		東葛		内房		外房		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
20～29	53,558	50,571	186,068	178,107	70,150	61,243	35,630	30,124	665,451
30～39	57,624	53,256	209,499	196,530	79,449	71,060	39,955	35,257	742,630
40～49	79,626	76,109	268,088	249,004	103,636	93,220	54,207	49,766	973,656
50～59	70,903	65,332	221,709	204,220	86,148	81,592	53,538	52,194	835,636
60～69	53,731	53,786	163,947	171,967	90,387	89,790	65,657	64,518	753,783
合計	315,442	299,054	1,049,311	999,828	429,770	396,905	248,987	231,859	3,971,156

10,000サンプルを回収目標数とした。10,000サンプルを上記の4地域・性別年齢層別に割り付けたサンプル数が図表1-5である。

図表1-5 回収目標数10,000としたサンプル割り付け数

年齢	千葉市		東葛		内房		外房		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
20～29	135	127	469	449	177	154	90	76	1,676
30～39	145	134	528	495	200	179	101	89	1,870
40～49	201	192	675	627	261	235	137	125	2,452
50～59	179	165	558	514	217	205	135	131	2,104
60～69	135	135	413	433	228	226	165	162	1,898
合計	794	753	2,642	2,518	1,082	999	627	584	10,000

回収サンプル数は、11,326サンプルとなった。全サンプルを分析に用いることとした。4地域・性別年齢層別回収数は図表1-6のとおりである。

図表1-6 回収サンプル数

年齢	千葉市		東葛		内房		外房		計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20～29	33	84	103	334	40	100	17	46	757
30～39	99	169	415	588	117	166	49	84	1,687
40～49	285	267	1,038	880	295	254	127	113	3,259
50～59	339	222	1,045	678	384	212	185	142	3,207
60～69	264	138	810	425	358	167	178	76	2,416
合計	1,020	880	3,411	2,905	1,194	899	556	461	11,326

回収サンプル数／割り付け数の比を、百分率で図表 1-7 に示した。

図表 1-7 回収サンプル数／割り付け数の比

年齢	千葉市		東葛		内房		外房		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
20～29	24.5%	66.0%	22.0%	74.5%	22.6%	64.8%	18.9%	60.6%	45.2%
30～39	68.2%	126.0%	78.7%	118.8%	58.5%	92.8%	48.7%	94.6%	90.2%
40～49	142.1%	139.3%	153.8%	140.3%	113.0%	108.2%	93.0%	90.2%	132.9%
50～59	189.9%	134.9%	187.2%	131.8%	177.0%	103.2%	137.2%	108.0%	152.4%
60～69	195.1%	101.9%	196.2%	98.1%	157.3%	73.9%	107.7%	46.8%	127.3%
合計	128.4%	116.9%	129.1%	115.4%	110.3%	89.9%	88.7%	79.0%	113.3%

年齢層別にみると、20～29 歳の回収数が割り付け数の 45.2%と低かった。特に外房地域の男性 18.9%、東葛地域の男性 22.0%、内房地域の男性 22.6%、千葉市の男性 24.5%と、4 地域とも 20 代男性の回収率が 2 割前後であり、分析の際に注意を要する点である。

50 代の回収率 152.4%、40 代の回収率 132.9%、60 代の回収率 127.3%となっており、母集団に対して中高年層が多いサンプル構成となっている。特に千葉市 60 代男性が 195.1%、東葛地域 60 代男性 196.2%、千葉市 50 代男性 189.9%、東葛地域 50 代男性 187.2%と、割り付け数の 2 倍近い回収数となっており、分析に際して注意が必要である。千葉県内の、都市化が進行した地域の中高年男性が多いサンプル構成である。

地域別に見ると、外房地域の男性 88.7%、外房地域の女性 79.0%と、外房地域の回収率がやや低い。逆に千葉市の男性 128.4%、東葛地域の男性 129.1%となっており、割り付け数に対して回収数が多くなっている。

(2) 調査方法

調査方法は、調査会社の登録モニタに対するインターネット調査である。実査は、株式会社クロス・マーケティングに委託した。

(3) 調査期間

調査期間は、2020 年 11 月 19 日（木）に配信を開始し、11 月 27 日（金）に回収を終了した。

(4) 設問項目

主な設問項目は、以下である。調査画面は本報告書巻末に資料として掲載している。

- ・ 犯罪被害リスク認知（同年代・同性と比較しての相対リスク認知）
- ・ 特殊詐欺知識
- ・ 防犯・防災広報の認知
- ・ 特殊詐欺対策広報との接触
- ・ 特殊詐欺対策ポスターとの接触経験（画像提示）
- ・ 電話機購入
- ・ 特殊詐欺リスクコミュニケーション

- ・電話・メールの不安全行動
- ・特殊詐欺予兆電話経験
- ・迷惑電話防止機能など固定電話での特殊詐欺対策行動
- ・新聞等メディア接触、テレビニュース視聴
- ・SNS 利用
- ・集合的効力感
- ・特殊詐欺に対する意見
- ・基本属性（性別、年齢、居住地域、家族構成、居住形態など）

（５）付記

本調査は淑徳大学コミュニティ政策学部の授業「社会調査実習」として実施したものであり、本報告書は授業の範囲で取り扱った千葉県居住者のデータについて報告するものである。

ただし、実際の調査はより大規模に実施されたことを付記しておく。実際の調査は、千葉県居住者 1 万人対象（本授業担当部分）に加え、山形県、滋賀県、奈良県をも対象として実査された。回収数は山形県 2,411、滋賀県 3,279、奈良県 3,076 であり、総サンプル数は 20,092 である。

また、この調査の回答者から抽出した追加調査も実施された。抽出対象者は、特殊詐欺前兆電話経験者群、自宅への警察官の訪問経験群、電話機新規購入群、迷惑防止機能の使用群等である。

本授業以外の調査は、島田貴仁（科学警察研究所）、荒井崇史（東北大学）、高木大資（東京大学）が参加して実施された。

調査票の設問項目の策定にあたっては、千葉県警察、山形県警察、滋賀県警察、奈良県警察の意見・希望を取り込んだ。

第2章 特殊詐欺のリスク認知

井上 龍

本章では、自身が犯罪にあう可能性をどの程度に見積もるかのリスク認知について分析する。特殊詐欺の類型であるオレオレ詐欺、還付金等詐欺、架空請求詐欺と、これと比較するために他の5つの罪種・手口のリスク知覚についてたずねた結果を分析する。

また、特殊詐欺の一類型であるオレオレ詐欺について、さらに詳細なクロス集計分析を行う。性別、年代、配偶、地域、世帯、65歳以上の高齢者とそれ以外、前兆の電話の有無の7通りでクロス集計を行い、関連性を分析する。

1. 罪種・手口別のリスク認知

罪種・手口別の犯罪リスク認知について、以下の設問でたずねた。「あなたは、同じ性別の同じ年代の人に比べて、以下のような犯罪の被害にあう可能性が高いと思いますか、低いと思いますか、それとも同じ程度でしょうか」。絶対的なリスク認知ではなく、同性の同世代と比べてどう思うか、と相対的なリスク認知をたずねた設問である。選択肢は、とても低い、低い、同じ程度、高い、とても高い、の5件法である。

8つの罪種・手口を単純集計した結果は、以下の図表2-1の通りである。

図表2-1 罪種・手口別のリスク認知の単純集計 (N=11326)

	とても低い	低い	同じ程度	高い	とても高い
オレオレ詐欺	41.9%	29.6%	25.7%	1.9%	1.0%
還付金等詐欺	39.9%	31.0%	25.9%	2.3%	1.0%
架空請求詐欺	36.7%	29.5%	28.9%	3.8%	1.2%
空き巣等どろぼう	17.2%	23.1%	51.8%	6.5%	1.5%
自宅等への落書きなど器物破損	18.8%	21.9%	50.4%	7.0%	2.0%
乗物や持ち物の盗難	16.4%	22.2%	53.3%	6.4%	1.8%
屋外での犯罪（ひったくり、ちかんなど）	17.9%	24.3%	50.9%	5.3%	1.5%
生命にかかわる犯罪（殺人、テロなど）	21.8%	23.0%	51.4%	2.8%	1.1%

「とても高い」と「高い」という回答の合計でみると、オレオレ詐欺2.9%、還付金等詐欺3.3%、架空請求詐欺5.0%と、いずれも数パーセント台であった。空き巣等では8.0%、器物損壊では9.0%、乗物等盗難では8.2%、屋外での犯罪では6.8%、凶悪犯罪では3.9%であった。罪種・手口によってリスク認知が高い割合にあまり違いはみられなかった。

逆に、「とても低い」と「低い」という回答の合計をみると、オレオレ詐欺71.5%、還付金等詐欺70.9%、架空請求詐欺66.2%と、7割前後であった。空き巣等では40.3%、器物損壊では40.7%、乗物等盗難では38.6%、屋外での犯罪では42.2%、凶悪犯罪では44.8%であった。特殊詐欺に関しては、ほかの罪種・手口にくらべ、犯罪リスク認知を低く見積もる人が多いという結果であった。

2. 特殊詐欺手口3種類の年代別クロス集計

上記で単純集計結果を紹介したが、特殊詐欺の被害は高齢者が多いことが知られている。年齢層によってリスク認知の高低に違いがあることが予想される。そこで、特殊詐欺の手口3類型（オレオレ詐欺、還付金等詐欺、架空請求詐欺）に関してのみ、年代別のクロス集計を行った。

なお、もともとの設問の5件法の回答を統合し、3件法に再分類して分析を行った。「とても低い」と「低い」を統合して「低い」とし、「とても高い」と「高い」を統合して「高い」とした。その結果が図表2-2である。

図表2-2 特殊詐欺手口3種類の年代別クロス集計

		低い	同程度	高い	χ^2 値	p値	
オレオレ詐欺	20-29歳 (n=757)	71.7%	25.6%	2.6%	63.05	p<0.001	***
	30-39歳 (n=1687)	70.2%	26.5%	3.3%			
	40-49歳 (n=3259)	67.7%	29.2%	3.1%			
	50-59歳 (n=3207)	71.5%	25.7%	2.8%			
	60-69歳 (n=2416)	77.1%	20.3%	2.6%			
還付金等詐欺	20-29歳 (n=757)	67.8%	28.0%	4.2%	82.22	p<0.001	***
	30-39歳 (n=1687)	68.4%	27.5%	4.1%			
	40-49歳 (n=3259)	67.5%	29.5%	3.0%			
	50-59歳 (n=3207)	71.3%	25.5%	3.2%			
	60-69歳 (n=2416)	77.3%	20.0%	2.7%			
架空請求詐欺	20-29歳 (n=757)	58.9%	31.7%	9.4%	172.04	p<0.001	***
	30-39歳 (n=1687)	61.2%	31.9%	6.9%			
	40-49歳 (n=3259)	62.2%	32.8%	5.0%			
	50-59歳 (n=3207)	68.4%	28.0%	3.7%			
	60-69歳 (n=2416)	74.2%	21.9%	3.9%			

***: $p < 0.001$

オレオレ詐欺に関しては、年代によって明確な違いがあるとはいえない結果であった。カイ二乗検定の結果は0.1%水準で有意な差であったが、サンプルサイズが大きいため、これは参考程度にみるべきであろう。60～69歳の高齢者層に注目すると、リスク認知が低い割合がわずかに高い。高齢者のオレオレ詐欺に対するリスク認知は若年層よりも低いとみるべきであろう。

還付金等詐欺に関しても同様の傾向であった。20～49歳の若年層と比べると、60～69歳の高齢者層においてはリスク認知の「低い」割合が10ポイント程度多い。

架空請求詐欺も同様の傾向であった。20～49歳の若年層と比べると、60～69歳の高齢者層においてはリスク認知の「低い」割合が10ポイント程度多い。

総じて、60～69歳の高齢者の特殊詐欺リスク認知は低い傾向にあった。

3. オレオレ詐欺リスク認知のクロス分析

オレオレ詐欺の回答と性別、世代、配偶、地域、世帯、65歳以上の高齢者とそれ以外、前兆の電話の有無それぞれのクロス集計をして、カイ二乗検定を行った。結果は以下の図表2-3の通りである。

図表2-3 オレオレ詐欺リスク認知のクロス分析

		低い	同程度	高い	χ^2 値	p値	
性別	男性(n=6181)	71.5%	25.5%	3.0%	0.98	0.614	
	女性(n=5145)	71.4%	25.9%	2.7%			
未既婚	未婚(n=3270)	69.1%	27.2%	3.7%	34.45	p<0.001	***
	既婚(n=7210)	71.8%	25.7%	2.5%			
	離別・死別(n=846)	77.2%	19.5%	3.3%			
地域	千葉(n=1900)	70.4%	26.6%	3.0%	7.55	0.273	
	東葛(n=6316)	71.0%	26.1%	2.9%			
	内房(n=2093)	73.0%	24.4%	2.6%			
	外房(n=1017)	73.0%	23.6%	3.4%			
単身世帯／ 二人以上世帯	単身世帯(n=1993)	72.0%	23.9%	4.1%	15.32	p<0.001	
	二人以上世帯(n=9333)	71.3%	26.0%	2.6%			
65歳以上 同居家族有無	同居者なし(n=8106)	71.2%	26.1%	2.6%	9.14	0.010	*
	同居者あり(n=3220)	72.0%	24.5%	3.5%			
予兆電話 経験有無	経験なし(n=10726)	72.2%	25.5%	2.3%	242.10	p<0.001	***
	経験あり(n=600)	58.0%	29.0%	13.0%			

***: $p < 0.001$ 、*: $p < 0.05$

1) 性別のクロス集計

オレオレ詐欺の被害に遭う可能性を男女別にクロス集計した結果、有意な差はなかった。

2) 未既婚別のクロス集計

オレオレ詐欺の被害に遭う可能性を未既婚の別にクロス集計した結果、0.1%水準で有意差がみられた。「低い」という回答比率に注目すると、離別・死別において数ポイント高い。「同程度」という回答をみると、未婚、既婚に比べて数ポイント低くなっている。「高い」という回答比率は同程度である。

ただし、離死別群は年齢層が高い可能性もあり、年齢の効果による見せかけの関連である可能性に留意すべきである。

3) 地域とのクロス集計

千葉県の4地域（千葉市、東葛、内房、外房）別にクロス集計を行ったところ、有意な差はなかった。地域による違いはみられないということである。

4) 単身世帯／二人以上世帯別のクロス集計

単身世帯／二人以上世帯別にクロス集計を行ったところ、0.1%水準で有意差がみられた。ただし、構成比をみるとほとんど違いはない。サンプルサイズの大きさゆえに有意な差となっている

が、同水準とみるべきであろう。

5) 65 歳以上高齢者との同居の有無別のクロス集計

65 歳以上高齢者との同居の有無別にクロス集計したところ、5 %水準で有意な差がみられた。ただし、前項同様、構成比をみるとほとんど違いはない。サンプルサイズの大きさゆえに有意な差となっているが、同水準とみるべきであろう。

6) 予兆電話の有無別のクロス集計

ここで分析に用いた予兆電話経験の有無は、調査票 SQ7_1 から SQ7_3 の 3 項目を用いた。すなわち、「あなたの子や孫を装った人間からの、様子を探ったり「お金が必要だ」などの電話」「金融機関を装った人間からの「口座やキャッシュカードが悪用されている」などの電話」「公的機関を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話」の 3 項目である。これらについて、「自分が受けた／対応した」場合、「家族が受けた／対応した」場合、「自分と家族の両方が受けた／対応した」場合のいずれかに回答した場合は「経験あり」として分析に投入した。

予兆電話経験の有無別にクロス集計したところ、0.1%水準で有意な差であった。「低い」という回答比率に注目すると、経験あり群の方が 14.2 ポイント少ない。逆に「高い」という回答比率に注目すると、経験あり群の方が 10.7 ポイント多い。この結果からすると、特殊詐欺の予兆電話の経験がある人は、リスク認知が高くなる傾向にあるということになる。

4. 考察

本章では犯罪にあうリスク認知の単純集計と、特殊詐欺手口 3 類型についての年代別のクロス集計、オレオレ詐欺のリスク認知の性別、配偶、地域、世帯類型、65 歳以上高齢者との同居の有無別、予兆電話の有無の 6 通りでクロス集計を行った。

罪種・手口別の単純集計結果からは、特殊詐欺のリスク認知は、他の罪種・手口と比べて低いということが明らかになった。人びとは、自身が特殊詐欺の被害にあう可能性を低く見積もっているということが明らかになった。

特殊詐欺の被害は高齢者に多いことが知られていると思われるので、特殊詐欺の手口 3 類型について、年代別のクロス集計を行った。その結果、総じて、60～69 歳の高齢者の特殊詐欺リスク認知は低い傾向にあった。本調査におけるリスク認知は、「同じ性別の同じ年代の人に比べて」と相対的なリスク認知をたずねたものである。それゆえ、回答者は、他の年代と比較して回答したのではなく、同性の同世代と比較して回答したものであるが、高齢者層においてリスク認知が低いという結果は注目すべき点であろう。

オレオレ詐欺のリスク認知のクロス分析からは、予兆電話経験がリスク認知を高めていることが示唆された。

本章では 2 変数のクロス分析のみしか報告できなかったが、性別、年齢、高齢者との同居の有無別と予兆電話経験との交絡の可能性など、より詳細な分析が必要であろう。

第3章 特殊詐欺の知識

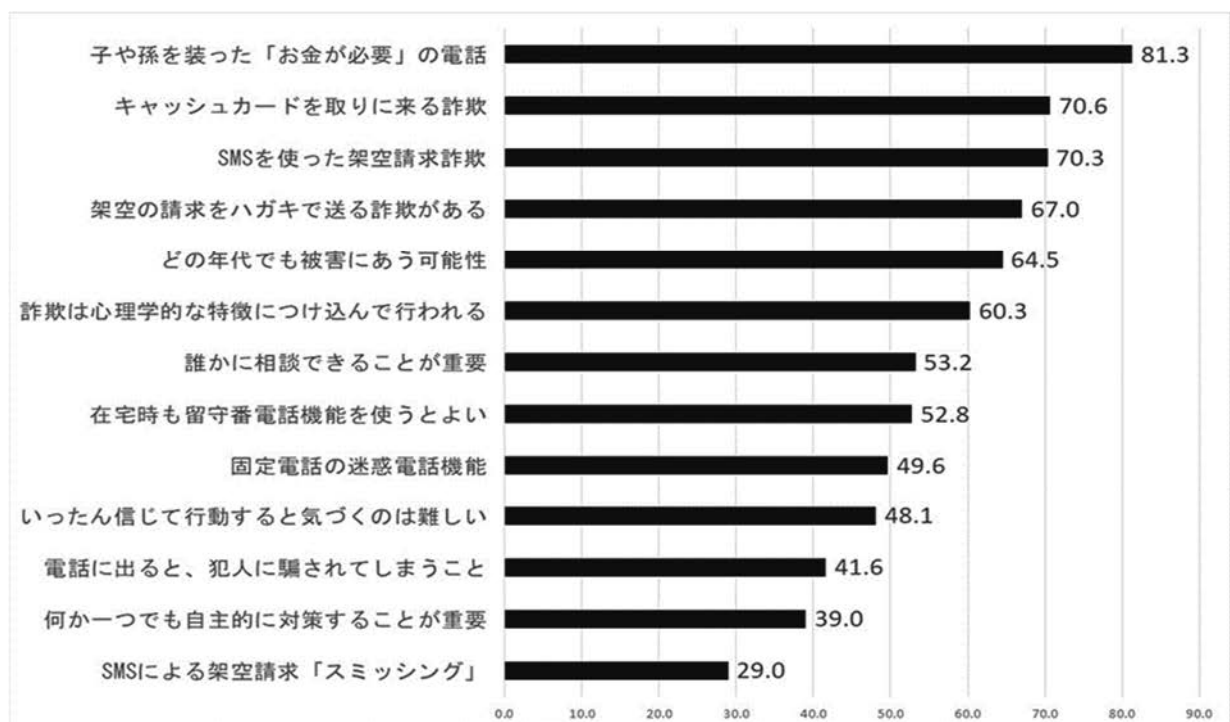
藤原百花

本章では、特殊詐欺の知識の多寡について分析する。独立変数として千葉県の4地区（千葉市、東葛、内房、外房）、町内会加入の有無、地域活動への加入の有無、年代を用いる。

1. 特殊詐欺の知識の測定

特殊詐欺の知識は以下のように測定した。SQ2 において 13 の項目で特殊詐欺の知識を尋ねた。

図表 3-1 特殊詐欺の知識をたずねた各項目の「知っている」率（%）（N=11326）



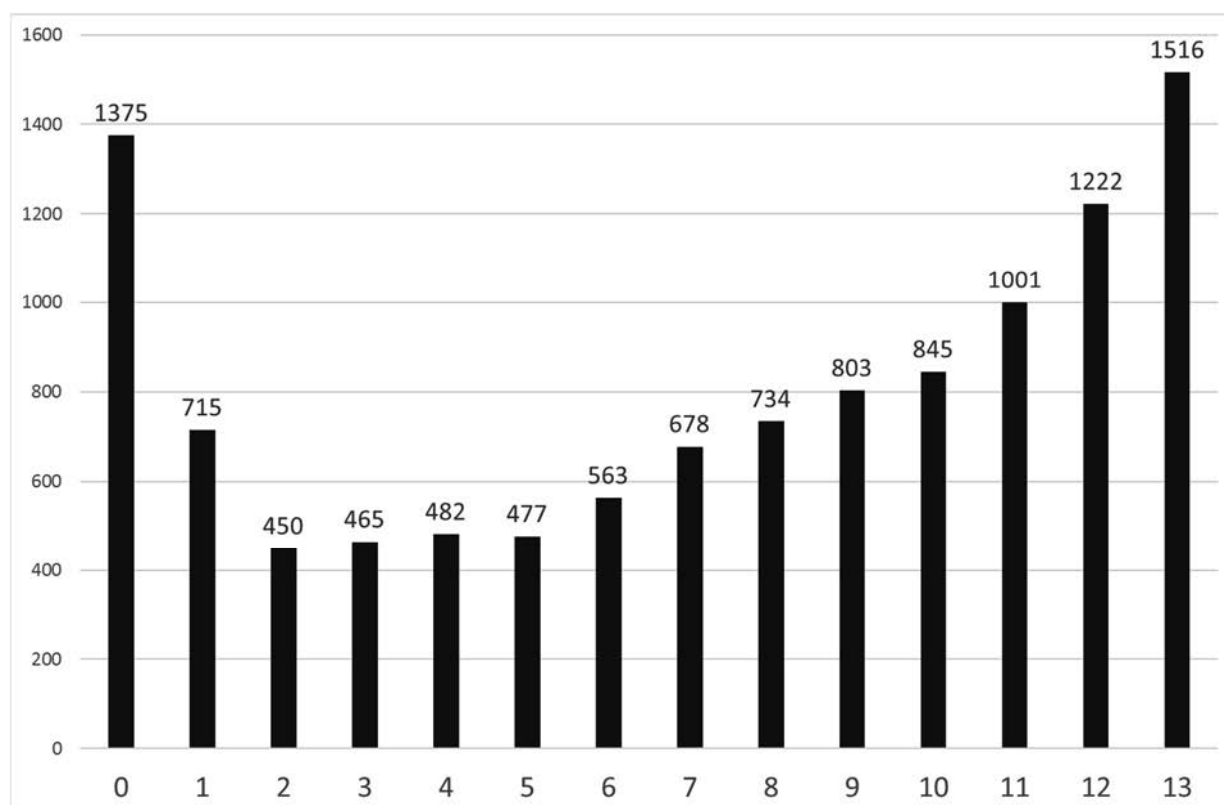
図表 3-1 から、「知っている」という回答比率の多い項目に注目していく。「子どもや孫を装った人間からの、様子を探ったり『お金が必要だ』などの電話があること」が 81.3% で 1 番多かった。「自宅にキャッシュカードを取りに来るタイプの詐欺があること」が 70.6% で 2 番目に多かった。「スマートフォン・携帯電話のショートメール（SMS）を使った架空詐欺があること」が 70.3% で 3 番目に多かった。

逆に、「知っている」という回答比率の低い項目に注目すると、以下のとおりであった。「スマートフォン・携帯電話のショートメール（SMS）による架空詐欺を『スミッシング』という」が 29.0% で 1 番少なかった。「特殊詐欺を防ぐには、何か一つでも自主的に対策することが重要なこと」が 39.0% で 2 番目に少なかった。「電話に出ると、犯人に騙されてしまうこと」が 41.6% で 3 番目に少なかった。

2. 特殊詐欺知識得点の算出

上記の13項目について、「知っている」を1点、「知らない」を0点とし、総和を算出した。図表3-2はその得点分布図である。横軸が得点、縦軸が人数である。

図表3-2 特殊詐欺知識得点の分布（人）（N=11326）



得点が0点である、まったく知らないという回答者と、全項目知っているという得点13点の回答者が多いという、U字型の分布が見られた。

得点の低い順から四分値を取ったところ、第1四分値が0～3点、中央値8、第4四分値が11点～13点であった。第2四分値と第3四分値を結合して「中知識群(n=5047, 49.3%)」とした。第1四分値を「少知識群(n=2540, 24.2%)」、第4四分値を「多知識群(n=3739, 26.5%)」とし、全体を3群化して以下のクロス分析に用いることとした。

3. 性別、年代別の分析

性別と年齢(10歳刻み)別でクロス集計したところ、男女別では、0.1%水準で有意差がみられた。多知識群では男女に違いはみられないが、中知識群において女性が多く、少知識群において男性が多かった。男性の方が特殊詐欺の知識が低い傾向がみられた(図表3-3)。

年代別でも、0.1%水準で有意差がみられた。多知識群に注目すると、年代が高い人の構成比が多くなる傾向がみられた。逆に少知識群に注目すると、年代の若い人の構成比が多い傾向にあった(図表3-4)。

図表 3-3 男女別特殊詐欺知識

性別	多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
男性(n=6181)	24.0	45.6	30.4	112.77	<.001	***
女性(n=5145)	24.4	53.7	21.9			

***: $p < 0.001$

図表 3-4 年代別特殊詐欺知識

年齢	多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
20代(n=757)	11.6	49.1	39.2	281.58	<.001	***
30代(n=1687)	18.0	49.5	32.5			
40代(n=3259)	22.6	48.1	29.3			
50代(n=3207)	28.5	47.7	23.8			
60代(n=2416)	28.7	52.9	18.3			

***: $p < 0.001$

4. 町内会加入の有無、地域活動への加入の有無

調査対象者の町内会加入と地域活動の入会の有無を測定するため、SQ9 で「自治会・町内会に加入している」、「地域のスポーツ団体、ボランティア団体などに参加している」かどうかを「はい」「いいえ」でたずねた。

町内会に加入している人と町内会に非加入の人の特殊詐欺の知識には 0.1%水準で有意差がみられた。多知識群に注目すると、町内会に加入している人は非加入の人よりも 8 ポイント多かった。少知識群に注目すると、町内会に加入している人は非加入の人よりも 11.8 ポイント少なかった。町内会加入群の方が特殊詐欺の知識が高いことがわかった(図表 3-5)。この結果からは、町内会を経由して特殊詐欺の知識が浸透している可能性が示唆される。

図表 3-5 町内会加入の有無別特殊詐欺知識

	多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
町内会加入(n=6172)	27.8	51.0	21.2	228.70	<.001	***
町内会非加入(n=5154)	19.8	47.2	33.0			

***: $p < 0.001$

地域団体への加入の有無も、町内会と同様に 0.1%水準で有意差がみられた。ただし、町内加入と比べ、構成比をみる限りは明確な関連があるとはいえない。中知識群は地域団体に加入していない人の構成比が多い。多知識群、少知識群ともに地域団体加入群の方がごくわずかに多く、直線的な関連になっていなかった(図表 3-6)。

図表 3-6 地域団体への加入の有無別特殊詐欺知識

	多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
地域団体加入(n=1006)	28.7	42.4	28.9	22.67	<.001	***
地域団体非加入(n=10320)	23.7	50.0	26.3			

***: $p < 0.001$

町内会加入と地域団体加入とで異なる傾向がみられた点は興味深い。地域団体は目的や活動内容において多様な団体があるため、その性質も一義的ではないであろう。特殊詐欺知識との関連の分析からは、町内会経由の広報・啓発活動が安定的な効果を有している可能性が示唆される。

5. 千葉県内 4 地域別かつ町内会加入の有無別の特殊詐欺知識

最後に、千葉県内の 4 地域別に、町内会加入の有無別に特殊詐欺知識について分析した。千葉県内の 4 地域によって町内会加入率が異なるであろうし、また町内会の活動実態も異なるであろう可能性を考慮しての分析である。

図表 3-7 にその結果を示した。4 つの地域すべてにおいて、町内会に加入している人と町内会に非加入の人の特殊詐欺の知識には 0.1%水準で有意差がみられた（図表 3-7）。

千葉市、東葛、内房、外房の 4 地域とも、町内会加入の有無と特殊詐欺知識との間に直線的な関連がみられた。どの地域にあっても、町内会加入群は多知識群の構成比が高く、少知識群の構成比が少なかった。

この結果からは、都市的な地域であるかどうかにかかわらず、町内会が特殊詐欺知識の浸透に安定的な効果をもっていることが示唆される。

図表 3-7 地域別町内会加入の有無別特殊詐欺知識

地域		多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
千葉市	町内会加入(n=1041)	26.6%	52.0%	21.4%	32.77	<.001	***
	町内会非加入 (n=859)	19.8%	47.7%	32.5%			
東葛	町内会加入 (n=3291)	27.8%	50.1%	22.2%	99.38	<.001	***
	町内会非加入(n=3025)	20.0%	47.9%	32.1%			
内房	町内会加入(n=1235)	28.3%	53.2%	18.5%	67.26	<.001	***
	町内会非加入(n=858)	20.9%	45.1%	34.0%			
外房	町内会加入(n=608)	28.9%	50.1%	21.0%	41.34	<.001	***
	町内会非加入(n=412)	16.8%	45.4%	37.9%			

***: $p < 0.001$ **: $p < 0.01$

6. 考察

以上の分析から得られた知見は、以下の通りである。

男女別でみると、男性より女性の方が特殊詐欺の知識が多かった。年代別で見ると、年齢の高い方が特殊詐欺の知識が多かった。町内会への加入は特殊詐欺の知識を増大させる効果があることが示唆された。

本章の分析は 2 変数のクロス集計にとどまったが、性別、年齢、町内会加入の交絡を考慮したより詳細な分析が必要であろう。

第4章 防犯情報の認知

川口紗希

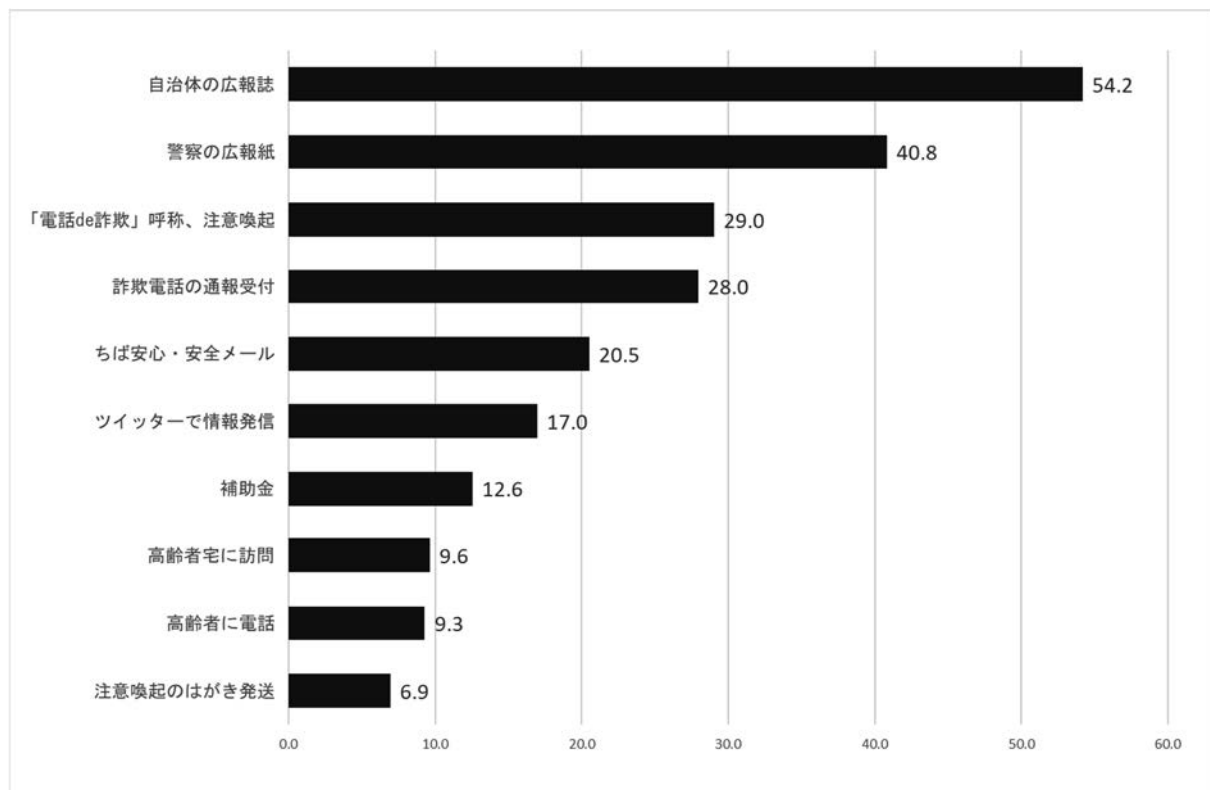
本章では防犯情報の認知について分析する。単純集計と町内会加入、非加入の場合と地域団体の加入、非加入の場合とのクロス集計を行い、防犯情報の認知との関連性があるかどうかを分析する。

1. 単純集計

SQ3 において公的機関による防犯情報の広報についてたずねた。設問文は「あなたは、防犯や防災に関して次のような広報や対策が行われていることを知っていますか」（複数回答）である。全部で14項目を設定したが、これらのうち千葉県回答者に該当する10項目について分析していく。

単純集計によって得られた結果は以下のようになった。県、市町村などの自治体広報誌があることが54.2%と最も多く認知されていた。次いで警察の広報誌が40.8%認知されていた。また、警察、県コールセンターが高齢者の世帯に電話をかけること、県内の小学5年生から祖父母などに対して、注意喚起のはがきを発送する「STOP！電話de詐欺カクニンダーはがき大作戦」が行われていることはあまり認知されていないことが明らかになった。

図表4-1 防犯情報の認知度（%）（N=11326）



2. 防犯情報認知度のクロス分析

防犯に関する自治体や警察の情報発信についての認知をたずねた設問 SQ3 の 10 項目の総和を算出した。すなわち 0～10 の範囲の得点となり、得点が高いほうが防犯情報の認知度が高いということである。この防犯情報の認知得点は、平均値 2.27、標準偏差 2.36、中央値 2 (n = 11326) であった。

この得点の四分位をとった。第 1 四分位を「少防犯群」(0 点のみ)とし、第 2、3 四分位を統合して「中防犯群」(1～3 点)、第 4 四分位を「多防犯群」(4 点以上)とした。そして男女別、年代別、地域別にそれぞれクロス集計を行った。

1) 男女別のクロス集計

先ほど分けた 3 群を男女別にクロス集計を行った。結果は以下のようになった(図表 4-2)。1%水準で有意な差であったが、サンプルサイズが大きいため、参考程度とすべきであろう。構成比をみるとごくわずかな違いである。性別による防犯情報認知度の違いはほとんどないとみるべきであろう。

図表 4-2 性別と防犯情報認知クロス集計結果

	多防犯群	中防犯群	少防犯群	χ^2 値	P 値	
男(n=6181)	22.7%	49.0%	28.3%	13.05	0.0015	**
女(n=5135)	24.0%	50.0%	25.3%			

**: $p < 0.01$

2) 年代別のクロス集計

次に年代別に防犯情報のクロス集計を行った。以下のように 0.1%水準で有意であった。若い世代に比べて高齢の世代の方が防犯情報の認知が高いことが明らかになった。20 代、30 代では「多防犯群」は 2 割弱、40 代、50 代で 2 割強だが 60 代で 3 割弱となっていた。

図表 4-3 年代と防犯情報の認知クロス集計結果

	多防犯群	中防犯群	少防犯群	χ^2 値	p値	
20代 (n=757)	16.1%	50.0%	33.8%	250.56	<.001	***
30代 (n=1687)	17.7%	48.6%	33.8%			
40代 (n=3259)	22.2%	47.4%	30.4%			
50代 (n=3207)	24.8%	49.3%	26.0%			
60代 (n=2416)	29.0%	54.5%	16.5%			

***: $p < 0.001$

3) 地域別のクロス集計

次に地域別に防犯情報の認知のクロス集計を行った。以下のように5%水準で有意差であったが、サンプルサイズの大きさから参考程度とすべきであろう。地域別にみると防犯情報の認知はあまり差がなかった。ごくわずかに、外房地域が高かったが、同程度とみるべきであろう。

図表 4-4 地域と防犯情報の認知クロス集計結果

	多防犯群	中防犯群	少防犯群	χ^2 値	p値	
千葉市 (n=1900)	23.0%	50.3%	26.8%	16.06	0.0134	*
東葛 (n=6316)	22.7%	49.3%	28.0%			
内房 (n=2093)	23.8%	51.4%	24.8%			
外房 (n=1017)	26.7%	48.6%	24.8%			

*: $p < 0.05$

4) 防犯情報の認知と町内会の加入、非加入の関連

防犯情報の認知には地域住民の相互の結びつきが関係しているのではないかと考えた。そこで町内会への加入、非加入は防犯情報の認知につながっているのか、千葉県内4地域別にクロス集計を行った。

結果は以下のようになった。4地域いずれも0.1%水準で有意な差であった。「少防犯群」に注目すると、いずれも町内会非加入群が多い。「多防犯群」に注目すると、内房では同水準だがそれ以外では町内会加入群の方が多くなっている。

本章で分析対象としているのは、防犯情報の内容ではなく、防犯情報の伝達手段の種類であるが、町内会加入群の方が情報伝達の手段の種類を多く知っていることは興味深い知見であるように思える。町内会を経由して防犯情報が住民に伝わっていることが示唆される。

図表 4-5 地域と町内会加入、非加入による防犯情報認知のクロス集計結果

		多防犯群	中防犯群	少防犯群	χ^2 値	p値	
千葉市	町内会加入 (n=1041)	27.7%	52.8%	19.5%	71.03	<.001	***
	町内会非加入 (n=859)	17.2%	47.2%	35.6%			
東葛	町内会加入 (n=3291)	28.8%	51.5%	19.7%	289.47	<.001	***
	町内会非加入 (n=3025)	16.0%	46.9%	37.1%			
内房	町内会加入 (n=1235)	28.2%	54.5%	17.3%	97.29	<.001	***
	町内会非加入 (n=858)	28.2%	46.9%	35.6%			
外房	町内会加入 (n=605)	32.7%	50.6%	16.7%	61.35	<.001	***
	町内会非加入 (n=412)	17.7%	45.6%	36.7%			

***: $p < 0.001$

5) 年齢別に見た近隣小中学生の認知と防犯情報の認知の関連

防犯情報の認知について、近隣の小中学生を認知しているか認知していないかが関連しているか、年代別に二重クロス集計し関連性があるのか検証した。

近隣の小中学生の認知は、このようにたずねた。SQ9_13「近隣の小中学生がどの子どもか知っている」という設問に対して、「はい」「いいえ」で回答をえた。この変数を分析に用いた。結果は以下のようになった。

図表 4-6 年代別に見た近隣小中学生の認知と防犯情報の認知度

		多防犯群	中防犯群	少防犯群	χ^2 値	p 値	
20代	近隣小中学生認知 (n=108)	30.6%	47.2%	22.2%	21.51	<.001	***
	近隣小中学生非認知 (n=649)	13.7%	50.5%	35.8%			
30代	近隣小中学生認知 (n=324)	25.0%	52.5%	22.5%	28.53	<.001	***
	近隣小中学生非認知 (n=1363)	15.9%	47.6%	36.5%			
40代	近隣小中学生認知 (n=878)	30.3%	51.0%	18.7%	93.62	<.001	***
	近隣小中学生非認知 (n=2381)	19.2%	46.0%	34.8%			
50代	近隣小中学生認知 (n=628)	34.1%	50.0%	15.9%	57.84	<.001	***
	近隣小中学生非認知 (n=2579)	22.5%	49.1%	18.4%			
60代	近隣小中学生認知 (n=536)	39.2%	51.5%	9.3%	47.03	<.001	***
	近隣小中学生非認知 (n=1880)	26.1%	55.4%	18.5%			

***: $p < 0.001$

どの年代で見ても近隣の小中学生のことを知っているか知っていないかは防犯情報の認知にかかわりがあることがわかる。特に 20 代は小中学生の子供を認知していると、多防犯群が 30.6%であるが、認知していないと 13.7%と半分以下にとどまる。20 代から 60 代まで、すべての年代において 0.1%水準で有意な差であった。

先にみた町内会加入の有無は、制度的に情報を得る機会があるかどうかにかかわるということは予想されたことであったが、ここで分析対象とした近隣小中学生の認知は、制度的なことではない。そうであるにもかかわらず、近隣小中学生の認知と防犯情報の認知との間に関連がみられたという結果は興味深いように思える。

どのようなメカニズムによってこうした関連が生じているのか、さらなる分析が必要であろう。

第5章 特殊詐欺対策情報の接触の分析

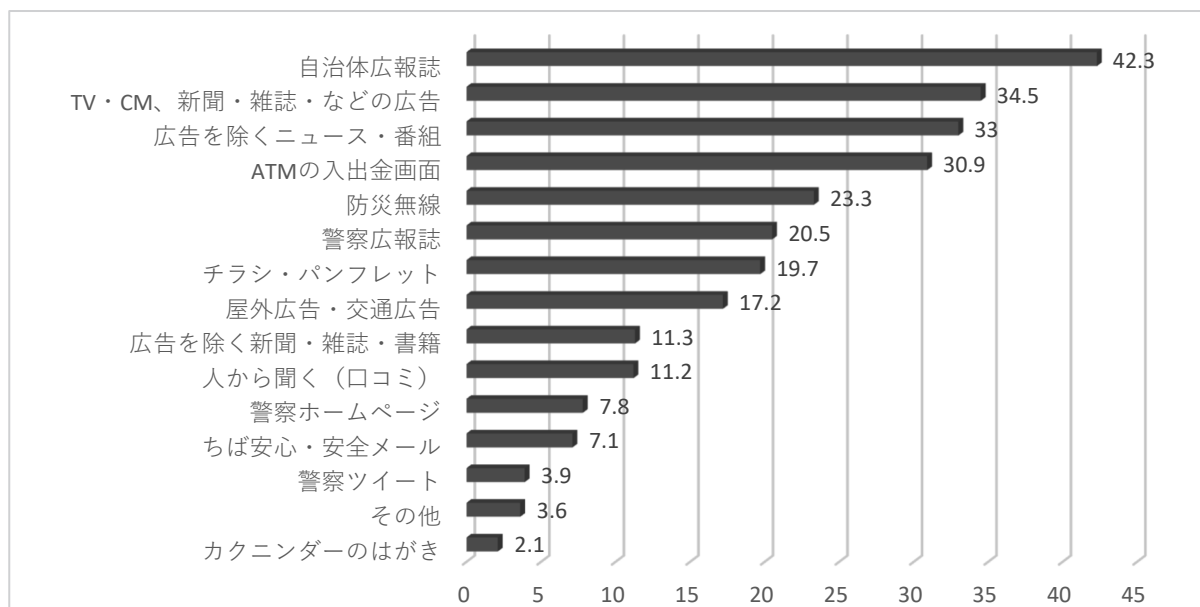
高島愛里

本章では特殊詐欺の対策情報の接触度を、調査し分析する。特殊詐欺の接触度を性別・地域・年代別に分けて、接触度に関連性があるかを分析した。

1. 特殊詐欺対策情報接触度の単純集計

SQ4 において「過去1年間の間に特殊詐欺（オレオレ詐欺や還付金等詐欺、架空請求）の注意の呼びかけで実際に、あなたが見たり聞いたりしたものは何ですか」と尋ねた。単純集計によって得られた結果は以下ようになった。県・市町村などの自治体広報誌が1番認知されていた。TV・ラジオ・CM・新聞・ネットの広告が次に認知度が高かった。しかし、「STOP！電話 de 詐欺カクニンダーはがき大作戦」が行われていることはほとんど接触されていなかった。

図表 5-1 殊詐欺対策の認知度（%）（N=11326）



図表 5-1 を見ると、SNS よりも TV やラジオ、新聞、広告などのほうが人の目に入りやすく、見たり聞いたりされていることがわかる。逆に SNS は目にすることは少なく特殊詐欺の対策呼びかけとしてはあまり認知されていないということが分かった。

2. 特殊詐欺対策情報の接触度の3群化手続き

特殊詐欺の接触度を訪ねた設問 SQ4 の 15 の項目の総和を算出した。すなわち 0～15 の範囲の得点となり、得点が高いほうが詐欺対策情報の接触度が高いということである。この詐欺対策接触得点は、平均値 2.68、SD=2.62、中央値 2（N=11326）であった。

この得点の四分位をとった。第1四分位を「少接触群」（0点のみ）、とし第2・第3四分位を統合して「中接触群」（1～3点）、第4四分位を「多接触群」（4点以上）とした。

これら3群を従属変数とし、男女別・年代別・地域別を独立変数としたクロス集計を行った。

3. 男女別のクロス集計

先ほど分けた3群を男女別にクロス集計し、カイ二乗検定を行った。結果は図表5-2のようになった。5%水準で有意な差であったが、構成比をみると男女であまり違いはなかった。

図表5-2 性別と特殊詐欺対策の接触（%）

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
男性（n=6181）	19.5	37.4	43.2	6.49	0.0391
女性（n=5135）	20.4	38.8	40.8		

4. 年代別のクロス集計

年代別に特殊詐欺対策の接触度に有意差があるかクロス集計を行った。図表5-3のように1%水準で有意差が見られた。多接触群に注目すると、20代では1割に満たないが、年代が上がるにつれて構成比が高くなり、直線的な関連があることがわかる。60代では3割弱が多接触群となる。

高齢者になるにつれて特殊詐欺対策との接触度が高くなることが分かった。

図表5-3 年代と特殊詐欺対策の接触（%）

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
20代（n=757）	9.1	32.8	58.1	460.36	0.001
30代（n=1687）	13.4	34.0	52.6		
40代（n=3259）	16.6	36.8	46.6		
50代（n=3207）	22.7	38.5	38.8		
60代（n=2416）	28.4	43.5	28.0		

5. 地域別のクロス集計

千葉県内の4地域別に特殊詐欺対策の接触はあるのかをクロス集計した。図表5-4のように1%水準で有意差があった。

地域別の構成比をみると、特殊詐欺対策の接触度は外房地域でわずかに高かった。

図表5-4 地域と特殊詐欺対策の接触（%）

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
千葉市（n=1900）	18.1	38.2	43.7	40.04	0.001
東葛（n=6316）	18.8	38.1	43.2		
内房（n=2093）	22.2	38.4	39.4		
外房（n=1017）	25.5	36.5	38.1		

6. 年代別かつ地域別のクロス集計

ここから、年代別かつ千葉県内の4地域別の分析を行っていく。

1) 20代

20代に関して、地域別に特殊詐欺対策の接触度は有意差があるのかをクロス集計した。有意な差はなかったが、千葉市・東葛に比べ、内房・外房が、わずかに多接触群が多かった。

図表5-5 20代地域別と殊詐欺対策の接触度(%)

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
千葉市 (n=117)	6.8	35.0	58.1	7.9	0.2454
東葛 (n=437)	8.0	34.6	57.4		
内房 (n=140)	11.4	27.1	61.4		
外房 (n=63)	15.9	28.6	55.6		

2) 30代

30代に関して、地域別に特殊詐欺対策の接触度は有意差があるのかをクロス集計した。有意な差はなかった。構成比をみても、明確な違いはみられなかった。

図表5-6 30代地域別と殊詐欺対策の接触度(%)

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
千葉市 (n=268)	15.3	37.3	47.4	9.75	0.1354
東葛 (n=1003)	12.6	33.6	53.8		
内房 (n=283)	12.4	36.0	51.6		
外房 (n=133)	18.1	25.6	56.4		

3) 40代

40代に関して、地域別に特殊詐欺対策の接触度は有意差があるのかをクロス集計した。図表5-7のように5%水準で有意差があった。千葉市・東葛地域と比べ、内房・外房地域の方が接触度がわずかに高い傾向がみられた。

図表5-7 40代地域別と殊詐欺対策の接触度(%)

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
千葉市 (n=552)	14.5	33.9	51.6	16.54	0.0111
東葛 (n=1918)	15.8	38.1	46.1		
内房 (n=549)	19.9	35.2	45.0		
外房 (n=240)	21.7	36.3	42.1		

4) 50 代

50 代に関して、地域別に特殊詐欺対策の接触度は有意差があるのかをクロス集計した。図表 5-8 のように 1 %水準で有意差があった。外房地域がほかの 3 地域に比べて接触度が高かった。

図表 5-8 50 代地域別と殊詐欺対策の接触度 (%)

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
千葉市 (n = 561)	20.0	38.3	41.7	27.00	0.001
東葛 (n = 1723)	21.3	38.4	40.3		
内房 (n = 596)	23.8	40.1	36.1		
外房 (n = 327)	32.4	37.0	30.6		

5) 60 代

60 代に関して、地域別に特殊詐欺対策の接触度は有意差があるのかをクロス集計した。有意な差はなかった。構成比をみても、明確な関連はみられなかった。

表 5-9 60 代地域別と殊詐欺対策の接触度 (%)

	多接触群	中接触群	少接触群	χ^2 値	p値
千葉市 (n = 402)	25.6	45.5	28.9	6.10	0.4122
東葛 (n = 1235)	28.7	42.6	28.7		
内房 (n = 525)	31.1	44.2	24.8		
外房 (n = 254)	26.4	43.7	29.9		

20 代、30 代、そして 60 代においては 4 地域の有意差はなかった。しかし、40 代においては内房・外房地域が、50 代においては外房地域の接触度が高い傾向がみられた。

こうした地域差がどのような要因によってもたらされているのかは、4 地域について町内会加入率やメディア接触状況など、さらに変数を追加した分析が必要であろう。

第6章 特殊詐欺防止ポスター

富永春香

本章では、特殊詐欺防止ポスターを見たことがあるかの有無について、単純集計を行い、「特殊詐欺防止ポスターを見たことの有無」と「特殊詐欺に対する意見」が関連するかについて、分析を行った。

1. 調査対象とした特殊詐欺防止ポスター

回答者に提示した特殊詐欺防止ポスターは全部で 10 種類であるが、警察庁・山形県警・奈良県警・滋賀県警ポスターは除外し、本章で分析対象としたのは以下の千葉県・千葉県警察の 3 種類である。

SQ5 4

ポスター 1 (ATM)



SQ5 5

ポスター2 (電話 de 対策)



SQ5 6

ポスター3 (カクニンダー)

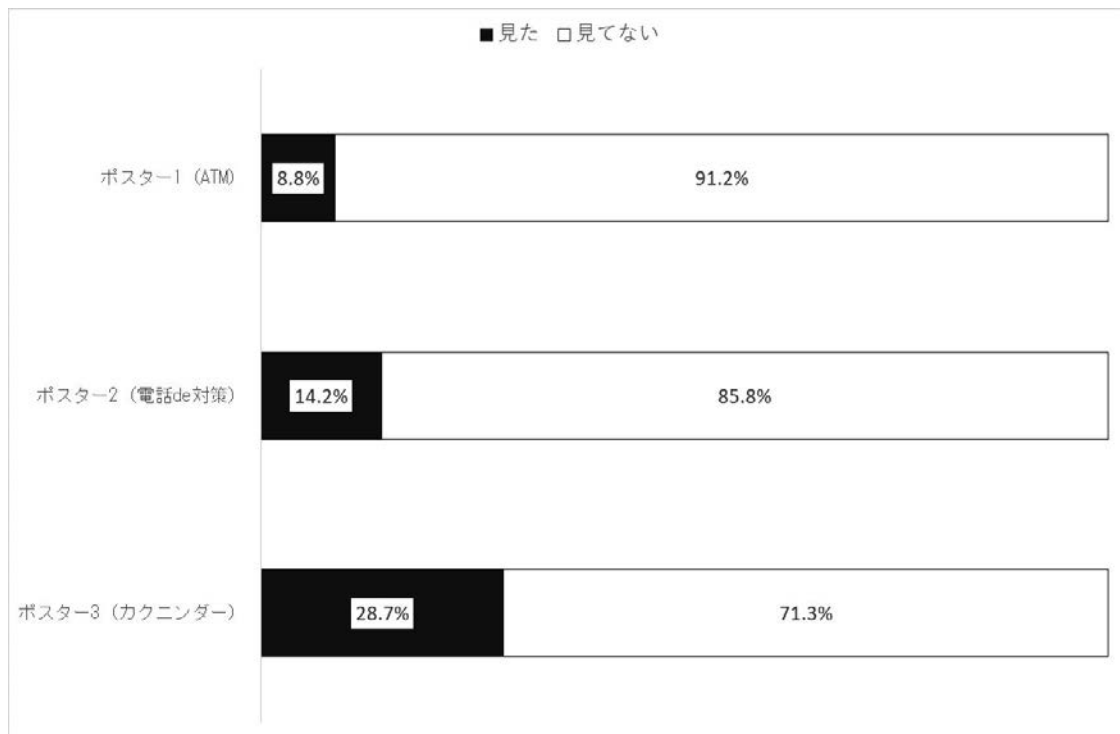


2. 特殊詐欺防止ポスター接触経験の単純集計

「あなたは特殊詐欺の防止について、次のようなポスターを見たことはありますか。見たことがあるものを選択して下さい」と複数回答でたずねた。上記の3種類の特殊詐欺防止ポスターの接触経験の単純集計結果は以下の図表6-1のとおりである。

この問5の4～6までの特殊詐欺防止ポスターの中で、一番多く接触したことがあるのはSQ5_6 ポスター3（カクニンダー）という結果であった。28.7%と、3割弱の回答者が見たことがあるという回答であった。もっとも接触率が低いのはポスター1（ATM）であり、8.8%と1割に満たなかった。

図表 6-1 特殊詐欺防止ポスター接触経験の単純集計 (N=11326)



3. 特殊詐欺に対する意見の質問項目

特殊詐欺に関する質問に関して、たずねた質問項目は以下の 10 項目である。

- Q15S1 私も詐欺の被害にあうかもしれない
- Q15S2 気をつけていても、だまされてしまう
- Q15S3 詐欺でお金を取られたら、大変なことになる
- Q15S4 被害にあわないよう対策する
- Q15S5 私の大事な人も、私に対策することを望む
- Q15S6 自分で対策をするかどうか決められる
- Q15S7 詐欺の手口について、よく知っている
- Q15S8 詐欺電話がかかってきても撃退できる
- Q15S9 気をつけているので詐欺に合わない
- Q15S10 自分の家に詐欺の電話はかかってこない

それぞれの項目は「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の 5 件法で回答をしてもらった。分析では「とてもそう思う」「そう思う」を「そう思う」に統合し、「あまり思わない」「全く思わない」を「思わない」に統合し、3 件法を用いて、行った。

4. 特殊詐欺防止ポスターと特殊詐欺に対する意見のクロス集計

「特殊詐欺防止ポスター」の3項目と「特殊詐欺に対する意見」の10項目をクロスしてカイ二乗検定を行った結果は図表6-2のとおりである。

結果として、全てのクロス集計の組み合わせで、0.1%水準で有意差が見られた。ただし、サンプルサイズが大きいため、参考程度とすべきであろう。

特殊詐欺防止ポスターを見たという人の方が、特殊詐欺防止ポスターを見てない人よりも特殊詐欺に対する対策意識が高いということが分かる。

図表6-2 特殊詐欺防止ポスターの接触有無と特殊詐欺に対する意見（%）

			そう思う	どちらでもない	思わない	χ^2 値	p値	
詐欺の被害にあうかもしれない	ポスター1（ATM）	見てない(n=10333)	39.4	35.4	25.3	56.3	<.001	***
		見た(n=993)	50.9	25.5	23.7			
	ポスター2（電話de対策）	見てない(n=9716)	39.2	35.6	25.3	46.4	<.001	***
		見た(n=1610)	47.6	28.2	24.2			
	ポスター3（カクニンダー）	見てない(n=8081)	37.5	36.9	25.6	106.5	<.001	***
		見た(n=3245)	47.5	28.5	24.0			
気をつけていても、だまされてしまう	ポスター1（ATM）	見てない(n=10333)	40.6	37.0	22.4	65.2	<.001	***
		見た(n=993)	53.0	25.8	21.3			
	ポスター2（電話de対策）	見てない(n=9716)	40.3	37.3	22.3	63.9	<.001	***
		見た(n=1610)	50.1	28.1	21.8			
	ポスター3（カクニンダー）	見てない(n=8081)	38.6	38.7	22.8	125.0	<.001	***
		見た(n=3245)	49.6	29.4	21.0			
詐欺でお金を取られたら、大変なことになる	ポスター1（ATM）	見てない(n=10333)	74.3	20.3	5.4	85.1	<.001	***
		見た(n=993)	87.5	10.0	2.5			
	ポスター2（電話de対策）	見てない(n=9716)	74.0	20.6	5.4	88.0	<.001	***
		見た(n=1610)	84.8	11.7	3.5			
	ポスター3（カクニンダー）	見てない(n=8081)	72.6	21.8	5.6	131.3	<.001	***
		見た(n=3245)	82.7	13.2	4.0			
被害にあわないよう対策する	ポスター1（ATM）	見てない(n=10333)	76.6	19.3	4.1	99.1	<.001	***
		見た(n=993)	90.3	8.2	1.5			
	ポスター2（電話de対策）	見てない(n=9716)	76.4	19.4	4.2	83.0	<.001	***
		見た(n=1610)	86.5	11.4	2.1			
	ポスター3（カクニンダー）	見てない(n=8081)	75.1	20.6	4.3	117.4	<.001	***
		見た(n=3245)	84.5	12.6	2.9			
私の大事な人も、私が対策することを望む	ポスター1（ATM）	見てない(n=10333)	56.3	37.5	6.2	81.7	<.001	***
		見た(n=993)	71.1	24.8	4.1			
	ポスター2（電話de対策）	見てない(n=9716)	55.2	38.4	6.4	155.9	<.001	***
		見た(n=1610)	71.8	24.2	4.0			
	ポスター3（カクニンダー）	見てない(n=8081)	54.0	39.5	6.5	146.0	<.001	***
		見た(n=3245)	66.4	28.7	4.9			

***: $p < 0.001$

「詐欺の被害にあうかもしれない」という特殊詐欺被害リスク認知をみると、ポスター1、ポスター2、ポスター3のいずれであっても、「見た」群の方が「そう思う」という回答割合が高い。ポスター1では「見た」が50.9%と「見てない」の39.4%よりも多かった。ポスター2では「見た」が47.6%と、「見てない」の39.2%よりも多かった。ポスター3では「見た」が47.5%と、「見てない」の37.5%よりも多かった。

図表 6-2-2 特殊詐欺防止ポスターの接触有無と特殊詐欺に対する意見 (%)

			そう思う	どちらでもない	思わない	χ^2 値	p値	
自分で対策をするかどうか決められる	ポスター1 (ATM)	見てない(n=10333)	61.1	32.7	6.2	58.9	<.001	***
		見た(n=993)	73.4	21.8	4.8			
	ポスター2 (電話de対策)	見てない(n=9716)	60.5	33.1	6.4	79.5	<.001	***
		見た(n=1610)	72.2	23.4	4.4			
	ポスター3 (カクニンダー)	見てない(n=8081)	59.1	34.6	6.3	120.1	<.001	***
		見た(n=3245)	69.9	24.5	5.6			
詐欺の手口について、よく知っている	ポスター1 (ATM)	見てない(n=10333)	29.3	53.1	17.5	35.1	<.001	***
		見た(n=993)	38.3	45.3	16.4			
	ポスター2 (電話de対策)	見てない(n=9716)	28.3	53.7	18.0	109.7	<.001	***
		見た(n=1610)	41.2	44.8	14.0			
	ポスター3 (カクニンダー)	見てない(n=8081)	27.4	54.5	18.1	100.6	<.001	***
		見た(n=3245)	37.0	47.3	15.8			
詐欺電話がかかってきても撃退できる	ポスター1 (ATM)	見てない(n=10333)	38.6	50.0	11.4	24.6	<.001	***
		見た(n=993)	45.6	41.8	12.6			
	ポスター2 (電話de対策)	見てない(n=9716)	38.1	50.3	11.6	41.3	<.001	***
		見た(n=1610)	46.3	42.6	11.1			
	ポスター3 (カクニンダー)	見てない(n=8081)	37.5	51.2	11.2	45.5	<.001	***
		見た(n=3245)	43.5	44.3	12.3			
気をつけているので詐欺に合わない	ポスター1 (ATM)	見てない(n=10333)	28.1	54.0	18.0	32.7	<.001	***
		見た(n=993)	31.7	44.9	23.4			
	ポスター2 (電話de対策)	見てない(n=9716)	27.7	54.3	18.1	33.1	<.001	***
		見た(n=1610)	32.7	46.6	20.7			
	ポスター3 (カクニンダー)	見てない(n=8081)	27.5	55.0	17.5	36.5	<.001	***
		見た(n=3245)	30.5	48.8	20.7			
自分の家に詐欺の電話はかかってこない	ポスター1 (ATM)	見てない(n=10333)	17.2	48.7	34.2	27.6	<.001	***
		見た(n=993)	20.3	40.0	39.7			
	ポスター2 (電話de対策)	見てない(n=9716)	16.7	49.0	34.3	41.8	<.001	***
		見た(n=1610)	22.0	41.3	36.7			
	ポスター3 (カクニンダー)	見てない(n=8081)	16.6	49.7	33.7	36.4	<.001	***
		見た(n=3245)	19.4	43.5	37.1			

*** : $p < 0.001$

この分析で、注目すべきは、いずれのポスターであっても、見たという郡は、「被害にあうかもしれない」「だまされてしまう」といった被害リスク認知を高めていることである。それと同時に、「対策する」「私の大事な人も望む」といった、対策意図も高めているということが注目される。

第7章 特殊詐欺リスクコミュニケーション

種村 霞

本章では特殊詐欺リスクコミュニケーションについて分析する。同居家族内、別居家族・親戚、近隣と3つの領域におけるリスクコミュニケーションを調査対象としたが、主に同居家族におけるリスクコミュニケーションに焦点をあてた分析を行う。

1. 特殊詐欺リスクコミュニケーションについての質問項目

過去1か月間の特殊詐欺についての会話の有無について尋ねた。尋ねた質問は以下の3項目である。設問文は、「あなたは、過去1年間(または過去1か月間)に次のようなことはありましたか。あてはまるもの全てを選んで下さい」である。

SQ6-4 同居の家族と特殊詐欺について話した

SQ6-5 別居の家族・親戚と特殊詐欺について話した

SQ6-6 隣近所の知り合いと特殊詐欺について話した

2. 特殊詐欺リスクコミュニケーションの単純集計

特殊詐欺リスクコミュニケーションの単純集計を図表7-1に示した。

図表7-1 特殊詐欺に関するリスクコミュニケーションの有無

		話した	話してない
同居家族	(N=9333)	11.5%	88.5%
別居の家族・親戚	(N=11326)	5.0%	95.0%
隣近所の知り合い	(N=11326)	2.0%	98.0%

※SQ6-4は同居家族のみが対象になるため、二人以上世帯のみを対象に集計を行った。そのため「同居家族」のみNが異なる。

図表7-1を見ると、同居家族と詐欺リスクコミュニケーションがあったのは11.5%であった。別居家族等とは5.0%、隣近所とは2.0%であった。

3. 基本属性と同居家族内の特殊詐欺リスクコミュニケーションのクロス集計

基本属性の5項目を独立変数とし、特殊詐欺コミュニケーションの3項目を従属変数としたクロス集計を行い、カイ二乗検定を行った。その結果を図表7-2に示した。同居家族との過去一か月間においての特殊詐欺についての会話において、それぞれ項目別にみても。

男女別でみると、会話が合ったのは男性が11.6%、女性が11.5%であり、男女間での差はないことが分かった。

年齢別にみると、会話が合ったのは20代が6.7%、30代が7.9%、40代が10.4%、50%が

11.8%、60代が16.3%であり、年齢別では0.1%水準で有意差がみられた。この結果から、年代が上がっていくごとに同居家族との特殊詐欺についての会話も増加していることが分かった。

地域別にみると、会話があったのは千葉市が11.2%、東葛が11.2%、内房が11.9%、外房が13.4%であり、地域別による差はほとんどないことが分かった。

同居家族における65歳以上の有無別にみると、会話があったのは65歳以上の同居人がいる世帯は18.8%、65歳未満の同居人のみの世帯は7.9%であり、0.1%水準で有意差があった。この結果から、65歳以上の同居人がいる世帯は、65歳未満のみの世帯よりも過去一か月間の特殊詐欺についての会話が多いことが分かった。

図表 7-2 同居家族内における特殊詐欺リスクコミュニケーション

			話した	話してない	χ^2 値	P 値	
性別	男性	(n=4913)	11.6%	88.4%	0.04	0.8429	
	女性	(n=4420)	11.5%	88.5%			
年代	20代	(n=550)	6.7%	93.3%	81.04	0.0001	***
	30代	(n=1367)	7.9%	92.1%			
	40代	(n=2687)	10.4%	89.6%			
	50代	(n=2628)	11.8%	88.2%			
	60代	(n=3101)	16.3%	83.7%			
地域	千葉市	(n=1556)	11.2%	88.8%	4.07	0.254	
	東葛	(n=5127)	11.2%	88.8%			
	内房	(n=1802)	11.9%	88.1%			
	外房	(n=848)	13.4%	86.6%			
同居	65歳以上同居	(n=3100)	18.8%	81.2%	242.25	0.0001	***
	65歳未満のみ	(n=6233)	7.9%	92.1%			

***: $p < 0.001$

※同居家族のいる人が対象になるため、二人以上世帯のみを分析対象とした。

4. 特殊詐欺対策の広報への接触有無と同居家族内リスクコミュニケーション

調査票 SQ4 でたずねた過去一年間における特殊詐欺対策の広報 14 項目と、同居家族との特殊詐欺リスクコミュニケーションの 1 項目をクロス集計し、カイ二乗検定を行った。その結果を図表 7-3 に示す。なお、分析対象は、同居家族がいる二人以上世帯の回答者のみである。

特殊詐欺対策広報の接触の有無をたずねた設問文は、以下である。「過去の 1 年間に、特殊詐欺(オレオレ詐欺や還付金等詐欺、架空請求等)の注意の呼びかけで、実際に、あなたが見たり聞いたりしたものは何ですか」。設問項目は、以下である。

- SQ4-1 県・市町村などの自治体の広報紙
- SQ4-2 警察の広報紙(交番だより、県警だより)
- SQ4-3 警察のツイート
- SQ4-4 警察のホームページ

- SQ4-6 警察による防犯情報メール（ちば安心・安全メール）
- SQ4-10 「STOP!電話 de 詐欺カクニンダー」のはがき
- SQ4-11 ATM（金融機関）の入金画面
- SQ4-12 チラシやパンフレット
- SQ4-13 屋外の広告や交通情報
- SQ4-14 テレビやラジオのCM、新聞・雑誌・ネットの広告
- SQ4-15 テレビやラジオのニュース・番組（広告は除く）
- SQ4-16 新聞・雑誌・書籍（広告は除く）
- SQ4-17 防災無線
- SQ4-18 人から聞いた（口コミ）

図表 7-3 特殊詐欺対策の広報への接触有無と同居家族内リスクコミュニケーション

		話した	話していない	χ^2 値	p 値
県・市町村などの自治体の 広報紙	見た (n=4166)	17.7%	82.3%	276.74	0.0001 ***
	見ていない (n=5167)	6.6%	93.4%		
警察の広報紙	見た (n=2028)	20.4%	79.6%	197.69	0.0001 ***
	見ていない (n=7305)	9.1%	90.9%		
警察のツイート	見た (n=360)	25.0%	75.0%	197.69	0.0001 ***
	見ていない (n=8973)	11.0%	89.0%		
警察のHP	見た (n=733)	21.4%	78.6%	76.05	0.0001 ***
	見ていない (n=8600)	10.7%	89.3%		
防犯情報メール(ちば安全・安心 メール)	見た (n=716)	22.6%	77.4%	93.37	0.0001 ***
	見ていない (n=8617)	10.6%	89.4%		
「STOP! 電話de詐欺カクニン ダー」のはがき	見た (n=217)	27.7%	72.4%	56.48	0.0001 ***
	見ていない (n=9116)	11.2%	88.8%		
ATMの入金画面	見た (n=2918)	18.8%	81.2%	218.01	0.0001 ***
	見ていない (n=6415)	8.3%	91.8%		
チラシやパンフレット	見た (n=1933)	22.6%	77.4%	289.81	0.0001 ***
	見ていない (n=7400)	8.7%	91.3%		
屋外の広告や交通広告	見た (n=1616)	22.0%	78.0%	208.20	0.0001 ***
	見ていない (n=7717)	9.4%	90.6%		
テレビ・ラジオのCM、 新聞・雑誌・ネットの広告	見た・聞いた (n=3286)	18.8%	81.2%	260.20	0.0001 ***
	見て・聞いていない (n=6047)	7.6%	92.4%		
テレビやラジオのニュース・ 番組(広告は除く)	見た・聞いた (n=3152)	19.5%	80.5%	296.29	0.0001 ***
	見て・聞いていない (n=6181)	7.5%	92.5%		
新聞・雑誌・書籍(広告は除く)	見た (n=1115)	26.9%	73.1%	292.90	0.0001 ***
	見ていない (n=8218)	9.5%	90.6%		
防災無線	聞いた (n=2272)	20.6%	79.5%	239.71	0.0001 ***
	聞いていない (n=7056)	8.6%	91.4%		
人から聞いた(口コミ)	聞いた (n=1103)	28.3%	71.7%	343.65	0.0001 ***
	聞いていない (n=8230)	9.3%	90.7%		

***: $p < 0.001$

※同居家族のいる人が対象になるため、二人以上世帯のみを分析対象とした。

県・市町村などの自治体の広報紙を見た人で特殊詐欺についての会話があった人は17.7%、広報紙を見ずに特殊詐欺について会話があった人は6.6%であった

警察の広報紙を見た人で特殊詐欺について会話があった人は20.4%、見ずに特殊詐欺について会話があった人は9.1%であった。

警察のツイートを見た人で特殊詐欺について会話があった人は25.0%、見ずに特殊詐欺について会話があった人は11.0%であった。

警察のHPを見た人で特殊詐欺について会話があった人は21.4%、見ずに会話があった人は10.7%であった。

防犯情報メール(ちば安全・安心メール)を見た人で特殊詐欺について会話があった人は22.6%、見ずに会話があった人は10.6%であった。

「STOP!電話 de 詐欺カクニンダー」のはがきを見た人で特殊詐欺について会話があった人は27.7%、見ずに会話があった人は11.2%であった。

ATMの入金画面を見た人で特殊詐欺について会話があった人は18.8%、見ずに会話があった人は8.3%であった。

チラシやパンフレットを見た人で特殊詐欺について会話があった人は22.6%で、見ずに会話があった人は8.7%であった。

屋外の広告や交通広告を見た人で特殊詐欺について会話があった人は22.0%、見ずに会話があった人は9.4%であった。

テレビやラジオのCM・雑誌や新聞、ネットの広告を見た人で特殊詐欺について会話があった人は18.8%、見ずに会話があった人は7.6%であった。

テレビやラジオのニュースを見た人で特殊詐欺について会話があった人は19.5%、見ずに会話があった人は7.5%であった。

新聞・雑誌・書籍を見た人で特殊詐欺について会話があった人は26.9%、見ずに特殊詐欺について会話があった人は9.5%であった。

防災無線を聞いた人で特殊詐欺について会話があった人は20.6%、聞かずに会話のあった人は8.6%であった。

人から聞いた(口コミ)人で特殊詐欺について会話があった人は28.3%、聞かずに特殊詐欺について会話があった人は9.3%であった。

すべての項目において0.1%水準で有意差が見られた。特殊詐欺についての注意の呼びかけは、同居家族内におけるリスクコミュニケーションに効果があるということがわかった。

第8章 前兆電話経験の分析

中村達哉

1. 前兆電話経験の単純集計

特殊詐欺に関する前兆電話経験の有無をたずねた質問項目は、以下の3項目である。

SQ7_1 あなたの子や孫を装った人間からの、様子を探ったり「お金が必要だ」などの電話、SQ7_2 金融機関を装った人間からの「口座やキャッシュカードが悪用されている」などの電話、SQ7_3 公的機関を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話。

それぞれの項目は、「なかった」「自分が受けた/対応した」「家族が受けた/対応した」「自分と家族の両方が受けた/対応した」の4件法で尋ねた。分析では、「なかった」を「経験なし」に変え、「自分が受けた/対応した」「家族が受けた/対応した」「自分と家族の両方が受けた/対応した」を「経験あり」に統合した。

特殊詐欺に関する前兆電話経験の有無をたずねた質問項目の単純集計を行った。結果は以下の図表8-1である。

図表8-1 前兆電話経験の単純集計 (N=11326)

		(%)	
		経験あり	経験なし
SQ7_1	オレオレ詐欺	3.9	96.1
SQ7_2	預貯金詐欺	2.8	97.2
SQ7_3	還付金詐欺	3.1	96.9

この表を見てみると、オレオレ詐欺の前兆電話を経験した人の割合は3.9%、預貯金詐欺は2.8%、還付金詐欺は3.1%だった。

2. 65歳以上の同居家族の有無と前兆電話経験の有無

特殊詐欺に関する前兆電話の経験の有無をたずねた3項目を、65歳以上の同居家族の存否別でクロス集計を行った。その結果が以下の図表8-2ある。

図表8-2 65歳以上の同居家族の存否と前兆電話経験の有無

		(%)	
		経験あり	経験なし
SQ7_1	オレオレ詐欺 65歳以上同居 (n=3220)	5.3	94.7
	65歳未満のみ (n=8106)	3.4	96.6
SQ7_2	預貯金詐欺 65歳以上同居 (n=3220)	2.6	97.4
	65歳未満のみ (n=8106)	2.9	97.1
SQ7_3	還付金詐欺 65歳以上同居 (n=3220)	3.4	96.7
	65歳未満のみ (n=8106)	3.0	97.0

この表を見てみると、65 歳以上の同居家族のいる人のオレオレ詐欺の前兆電話経験が最も多く、5.3%であった。65 歳未満のみの家庭のオレオレ詐欺の前兆電話経験は 3.4%だった。

また、65 歳以上の同居家族のいる人の預貯金詐欺の前兆電話経験は 2.6%、65 歳未満のみの家庭の預貯金詐欺の前兆電話経験は 2.9%だった。

さらに、65 歳以上の同居家族のいる人の還付金詐欺の前兆電話経験は 3.4%、65 歳未満のみの家庭の預貯金詐欺の前兆電話経験は 3.0%だった。

3. 千葉県内 4 地域別の分析

特殊詐欺に関する前兆電話経験の有無をたずねた 3 項目と、千葉県内の 4 地域をクロス集計して分析を行った。オレオレ詐欺の前兆電話経験の有無を 4 地域別でクロス集計した結果は以下の図表 8-3 である。

図表 8-3 4 地域別オレオレ詐欺の前兆電話経験の有無

						(%)
SQ7_1	オレオレ詐欺	経験あり	経験なし	χ^2 値	p 値	
	千葉市 (n=1900)	5.1	95.0	12.30	0.006	**
	東葛 (n=6316)	4.0	96.0			
	内房 (n=2093)	3.1	96.9			
	外房 (n=1017)	3.1	97.0			

** : $p < 0.01$

この表をみると、千葉県内では千葉市が最もオレオレ詐欺の前兆電話経験が多く、5.1%であった。東葛地域が 4.0%、内房地域が 3.1%、外房地域が 3.1%であった。千葉県内のオレオレ詐欺の前兆電話経験の有無に大きな差はみられなかったが、千葉市が最も多いことが分かった。

預貯金詐欺の前兆電話経験の有無を 4 地域別でクロス集計した結果は以下の図表 8-4 である。

図表 8-4 預貯金詐欺の前兆電話経験の有無

						(%)
SQ7_2	預貯金詐欺	経験あり	経験なし	χ^2 値	p 値	
	千葉市 (n=1900)	3.6	96.4	12.93	0.005	**
	東葛 (n=6316)	3.0	97.0			
	内房 (n=2093)	1.9	98.1			
	外房 (n=1017)	2.3	97.7			

** : $p < 0.01$

この表をみると、千葉県内では千葉市が最も預貯金詐欺の前兆電話経験が多く、3.6%であった。東葛地域が 3.0%、内房地域が 1.9%、外房地域が 2.3%であった。

還付金の前兆電話経験の有無を4地域別でクロス集計した結果は以下の図表8-5である。

図表8-5 還付金詐欺の前兆電話経験の有無

		(%)			
SQ7_3	還付金詐欺	経験あり	経験なし	χ^2 値	p 値
千葉市	(n=1900)	4.4	95.6	17.42	0.001 ***
東葛	(n=6316)	3.2	96.9		
内房	(n=2093)	2.2	97.9		
外房	(n=1017)	2.6	97.4		

***: $p < 0.001$

この表をみると、千葉県内では千葉市が最も還付金詐欺の前兆電話経験が多く、4.4%だった。東葛地域が3.2%、内房地域が2.2%、外房地域が2.6%だった。

4. 65歳以上の同居家族のいる人のみを対象とした分析

高齢者が特殊詐欺の被害者になりやすいことから、65歳以上の同居家族のいる人のみを対象として、特殊詐欺に関する前兆電話経験の有無と千葉県内の4地域別でクロス集計を行った。

65歳以上の同居家族のいる人のみを対象として、オレオレ詐欺の前兆電話経験の有無と千葉県内の4地域別でクロス集計を行った結果は以下の図表8-6である。

図表8-6 65歳以上の同居家族のいる人のみ対象、オレオレ詐欺の前兆電話経験

		(%)			
SQ7_1	オレオレ詐欺	経験あり	経験なし	χ^2 値	p 値
千葉市	(n=496)	7.7	92.3	11.91	0.008 **
東葛	(n=1621)	5.7	94.3		
内房	(n=687)	4.1	95.9		
外房	(n=416)	3.1	96.9		

** : $p < 0.01$

この表をみると、千葉県内に住む65歳以上の同居家族のいる人でオレオレ詐欺の前兆電話経験が最も高かったのは千葉市で、7.7%だった。東葛地域が5.7%、内房地域が4.1%、外房地域が3.1%だった。

65歳以上の同居家族のいる人のみを対象として、預貯金詐欺の前兆電話経験の有無と千葉県内の4地域別でクロス集計を行った結果は以下の図表8-7である。

図表 8-7 65 歳以上の同居家族のいる人のみ対象、預貯金詐欺の前兆電話経験

(%)					
SQ7_2 預貯金詐欺	経験あり	経験なし	x ² 値	p 値	
千葉市 (n=496)	3.2	96.8	6.34	0.096	†
東葛 (n=1621)	3.1	96.9			
内房 (n=687)	1.6	98.4			
外房 (n=416)	1.7	98.3			

†: $p < 0.1$

この表をみると、千葉県内に住む 65 歳以上の同居家族のいる人でオレオレ詐欺の前兆電話の経験率が最も高かったのは千葉市で、3.2%であった。東葛地域が 3.1%、内房地域が 1.6%、外房地域が 1.7%であった。

65 歳以上の同居家族のいる人のみを対象として、還付金詐欺の前兆電話経験の有無と千葉県内の 4 地域別でクロス集計を行った結果は以下の図表 8-8 である。

図表 8-8 65 歳以上の同居家族のいる人のみ対象、還付金詐欺の前兆電話経験

(%)					
SQ7_3 還付金詐欺	経験あり	経験なし	x ² 値	p 値	
千葉市 (n=496)	5.4	94.6	14.54	0.002	**
東葛 (n=1621)	3.7	96.3			
内房 (n=687)	2.0	98.0			
外房 (n=416)	1.7	98.3			

**: $p < 0.01$

この表をみると、千葉県内に住む 65 歳以上の同居家族のいる人で預貯金詐欺の前兆電話の経験率が最も高かったのは千葉市で、5.4%であった。東葛地域が 3.7%、内房地域が 2.0%、外房地域が 1.7%であった。

第9章 固定電話の防犯機能の使用について

戸澤くるみ

この章では、自宅に固定電話がある人を分析対象とし、固定電話の特殊詐欺被害予防機能を使っているかどうかの分析を行う。固定電話のある人のみが分析対象となるため、N=7811 となる。

1. 単純集計

分析する機能は、以下の4つである。

SQ10_1 ナンバーディスプレイ機能

SQ10_2 着信拒否機能や自動録音機能などの迷惑電話防止機能

SQ10_3 留守番電話機能を使って、外出時にかかってきたメッセージを確認する

SQ10_4 留守番電話機能を使って、在宅時にかかってきた電話の相手を確認してから電話に出る

これらに対して、「機能が付いていない、機能がついているかどうか分からない」、「機能があるのは知っているが、使った（行った）ことはない」、「昔使った（行った）ことはあるが、今は使っていない（行って）いない」、「現在、使って（行って）いる」の4件法でたずねた。

「機能が付いていない、機能がついているかどうか分からない」、「機能があるのは知っているが、使った（行った）ことはない」、「昔使った（行った）ことはあるが、今は使っていない（行って）いない」の3つを統合して「未使用」群とし、「現在、使って（行って）いる」を「使用」群とした。

以上を単純集計した結果が、以下の図表9-1である。

図表9-1 固定電話使用行動の単純集計

ナンバーディスプレイ機能	使用 (n=3697)	47.3%
	未使用 (n=4114)	52.7%
着信拒否機能や自動録音機能 などの迷惑電話防止機能	使用 (n=2399)	30.7%
	未使用 (n=5412)	69.3%
留守番電話機能で外出時の メッセージ確認	使用 (n=4106)	52.6%
	未使用 (n=3705)	47.4%
留守番電話機能で相手を 確認後電話に出る	使用 (n=3459)	44.3%
	未使用 (n=4352)	55.7%

単純集計によって得られた結果として、「ナンバーディスプレイ機能」、「着信拒否機能や自動録音機能などの迷惑電話防止機能」、「留守番電話機能で相手を確認後電話に出る」は未使用の割合

の方が高かった。一方、「留守番電話機能で外出時のメッセージを確認」する人は、しない人よりも約5ポイント高かった。

2. 性別のクロス集計

次に、男女間で固定電話の防犯機能の使用状況に有意差があるのかを調べるため、性別と固定電話使用行動のクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

図表9-2 性別にみた固定電話使用行動

		使用	未使用	χ^2 値	p 値	
ナンバーディスプレイ機能	男性(n=4556)	50.1%	49.9%	33.34	<.0001	***
	女性(n=3255)	43.5%	56.5%			
迷惑電話防止機能	男性(n=4556)	31.7%	68.3%	4.95	0.026	**
	女性(n=3255)	29.3%	70.7%			
留守番電話機能で外出時の メッセージ確認	男性(n=4556)	53.8%	46.3%	6.17	0.013	**
	女性(n=3255)	50.9%	49.1%			
留守番電話機能で相手を 確認後電話に出る	男性(n=4556)	45.0%	55.0%	2.25	0.134	—
	女性(n=3255)	43.3%	56.7%			

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$

図表9-2より、「留守番電話機能で相手を確認後電話に出る」という項目以外は男女間で有意な差があった。ただし、サンプルサイズの大きさから、参考程度とすべきであろう。構成比をみると、数パーセントの差であり、大きな違いがあるとはいえない。

3. 年代別のクロス集計

続いて年代別の固定電話使用行動をクロス集計し、年代別で固定電話の防犯機能の使用状況に有意差があるか分析した。その結果を以下の図表9-3にまとめた。

年代別のクロス集計の結果から、SQ10_1「ナンバーディスプレイ機能」からSQ10_4「留守番電話機能で相手を確認後電話に出る」の4項目すべてで、20代から60代にかけて使用率が上がっていていることがわかる。60代の「留守番電話機能で外出時のメッセージを確認する」行動をする人の割合がもっとも高い。4項目の年代別クロス集計のすべてにおいて、0.1%水準で有意な差であった。

ナンバーディスプレイ使用は、20代では3割程度であったが、30代から50代では4割半以上となり、60代で5割となっている。

迷惑電話防止機能は、20代では2割未満であるが、30代以上では3割前後となっている。

留守番電話機能で外出時のメッセージ確認は20代では4割未満であるが、50代で5割強、60代で6割強となっており、年代と直線的な関連がみられた。

留守番電話で相手を確認してから出るという行動は、20代では3割程度であったが、40代、50代で4割前後、60代で5割であった。

図表 9-3 年代別にみた固定電話使用行動

		使用	未使用	χ^2 値	p 値
ナンバーディスプレイ機能	20代 (n=310)	30.7%	69.4%	43.7	<.0001 ***
	30代 (n=586)	45.2%	54.8%		
	40代 (n=2159)	46.6%	53.5%		
	50代 (n=2623)	48.1%	51.9%		
	60代 (n=2133)	50.2%	49.8%		
迷惑電話防止機能	20代 (n=310)	18.7%	81.3%	35.49	<.0001 ***
	30代 (n=586)	27.8%	72.2%		
	40代 (n=2159)	29.7%	70.3%		
	50代 (n=2623)	30.9%	69.1%		
	60代 (n=2133)	34.0%	66.0%		
留守番電話機能で外出時の メッセージ確認	20代 (n=310)	37.7%	62.3%	152.14	<.0001 ***
	30代 (n=586)	43.0%	57.0%		
	40代 (n=2159)	47.2%	52.8%		
	50代 (n=2623)	53.1%	46.9%		
	60代 (n=2133)	62.1%	37.9%		
留守番電話機能で相手を 確認後電話に出る	20代 (n=310)	31.0%	69.0%	104.10	<.0001 ***
	30代 (n=586)	34.6%	65.4%		
	40代 (n=2159)	39.8%	60.2%		
	50代 (n=2623)	46.4%	53.6%		
	60代 (n=2133)	50.9%	49.1%		

***: $p < 0.001$

4. 65 歳以上同居有無別のクロス集計

次に、65 歳以上の高齢者との同居の有無で固定電話の防犯機能の使用状況に有意差があるのかを調べるため、65 歳以上同居有無別の固定電話使用行動のクロス集計を行った。結果は以下の図表 9-4 のとおりである。

65 歳以上同居有無別の固定電話使用行動は、4 項目すべて 65 歳以上の高齢者と同居している家庭の方が 3 ポイントほど高く、固定電話の迷惑電話防止機能を使用していることが分かった。ナンバーディスプレイ使用、外出時留守電使用、在宅時留守電使用行動では 1 %水準で有意な差であった。迷惑電話防止機能では 0.1%水準で有意な差であった。

図表 9-4 65 歳以上同居家族の有無別にみた固定電話使用行動

		使用	未使用	χ^2 値	p 値	
ナンバーディスプレイ機能	65歳以上同居 (n=2926)	49.4%	50.6%	7.92	0.005	**
	65歳未満のみ (n=4885)	46.1%	53.9%			
迷惑電話防止機能	65歳以上同居 (n=2926)	33.3%	66.7%	14.96	0.000	***
	65歳未満のみ (n=4885)	29.2%	70.9%			
留守番電話機能で外出時の メッセージ確認	65歳以上同居 (n=2926)	54.6%	45.4%	7.60	0.006	**
	65歳未満のみ (n=4885)	51.4%	48.6%			
留守番電話機能で相手を 確認後電話に出る	65歳以上同居 (n=2926)	46.4%	53.6%	8.31	0.004	**
	65歳未満のみ (n=4885)	43.0%	57.0%			

***: $p < 0.001$ 、**: $p < 0.01$

5. 地域別にみた固定電話使用行動のクロス集計

最後に、地域別に固定電話使用行動のクロス集計を行った。外出時留守電使用以外は有意な差であったが、サンプルサイズが大きいため、参考程度とすべきであろう。

迷惑電話防止機能の使用において、わずかに内房地域が多かった。

図表 9-5 地域別に見た固定電話使用行動

		使用	未使用	χ^2 値	p 値	
ナンバーディスプレイ機能	千葉市 (n=1325)	44.9%	55.1%	18.18	0.000	***
	東葛 (n=4232)	46.2%	53.8%			
	内房 (n=1515)	51.9%	48.1%			
	外房 (n=739)	48.6%	51.4%			
迷惑電話防止機能	千葉市 (n=1325)	28.5%	71.6%	21.88	<.0001	***
	東葛 (n=4232)	29.5%	70.5%			
	内房 (n=1515)	35.3%	64.6%			
	外房 (n=739)	32.5%	67.5%			
留守番電話機能で外出時の メッセージ確認	千葉市 (n=1325)	52.2%	47.9%	3.36	0.339	—
	東葛 (n=4232)	53.2%	46.8%			
	内房 (n=1515)	52.5%	47.5%			
	外房 (n=739)	49.7%	50.3%			
留守番電話機能で相手を 確認後電話に出る	千葉市 (n=1325)	43.0%	57.0%	11.60	0.009	**
	東葛 (n=4232)	44.9%	55.1%			
	内房 (n=1515)	46.1%	53.9%			
	外房 (n=739)	39.1%	60.9%			

***: $p < 0.001$ 、**: $p < 0.01$

第10章 特殊詐欺対策コールセンターからの荷電経験と対策行動の分析

渡邊清成

千葉県警察による特殊詐欺対策のコールセンターからの架電があった場合、それが対策行動に結びついているのかどうかを分析した。分析するにあたって「警察の特殊詐欺対策コールセンターから電話があった場合、対策行動をとっている」という仮説を立てた。

1. コールセンターについての質問項目

警察の特殊詐欺対策コールセンターから電話があったかの有無を尋ねた。質問項目は、「なかった」「自分が受けた/対応した」「家族が受けた/対応した」「自分と家族の両方が受けた/対応した」の4件法で尋ねた。

分析では、「自分が受けた/対応した」「家族が受けた/対応した」「自分と家族の両方が受けた/対応した」を「架電あり」に統合した。

コールセンターからの架電経験の有無をたずねた質問項目の単純集計を行った。結果は、以下の図表10-1の通りである。

図表 10-1 コールセンターからの架電経験の単純集計 (N=11326) (%)

架電経験なし	94.9
架電経験あり	5.1

また、図表10-1を65歳以上同居家族の有無別でクロス集計を行った。その結果は、以下の図表10-2の通りである。

図表 10-2 65歳以上同居者の有無とコールセンターからの架電経験の有無 (%)

	架電あり	架電なし
65歳以上同居者なし (n=8106)	4.1	95.9
65歳以上同居者あり (n=3220)	7.6	92.4

65歳以上の同居家族のいる回答者では、7.6%にコールセンターからの荷電経験があった。65歳以上の同居家族のいない回答者では4.1%であった。

2. 特殊詐欺対策行動についての質問項目

自宅の固定電話で対策行動をとっているかの有無について尋ねた。尋ねた質問項目は以下の4項目である。なお、この項目は「自宅に固定電話機がある。」(SQ9_3) 人のみが分析対象となるため、N=7811 である。

固定電話機での特殊詐欺対策行動をたずねた設問は、以下のとおりである。

SQ11_2 留守番電話を使って、外出時にかかってきたメッセージを確認している

SQ11_3 留守番電話を使って、在宅時にかかってきた電話の相手を確認している

SQ11_4 電話の近くに特殊詐欺対策のチラシなどを貼っている

SQ11_5 着信拒否機能や自動録音機能などの迷惑電話防止機能を使っている

それぞれの項目は、「はい」「いいえ」の2件法で尋ねた。

3. コールセンターからの架電経験と対策行動のクロス集計

警察接触についての質問項目と、対策行動の4項目をクロス集計して、65歳以上同居者の有無に分けてカイ二乗検定を行った。また、 2×2 のクロス集計表であるため、それぞれのクロス表の ϕ 計数を算出した。

図表 10-3 65歳以上同居者の有無と留守番電話、外出時使用のクロス集計結果

留守番電話、外出時使用				(%)			
		非該当	該当	χ^2 値	p値		ϕ 係数
65歳以上同居者なし	架電なし(n=4656)	41.5	58.5	6.89	0.009	* *	-0.038
	架電あり(n=229)	32.8	67.2				
65歳以上同居者あり	架電なし(n=2702)	45.1	54.9	3.78	0.052	†	-0.036
	架電あり(n=224)	38.4	61.6				

** : $p < 0.01$ 、† : $p < 0.1$

図表 10-4 65歳以上同居者の有無と留守番電話、在宅時使用のクロス集計結果

留守番電話、在宅時使用				(%)			
		非該当	該当	χ^2 値	p値		ϕ 係数
65歳以上同居者なし	架電なし(n=4656)	51.6	48.4	15.23	0.000	* * *	-0.056
	架電あり(n=229)	38.4	61.6				
65歳以上同居者あり	架電なし(n=2702)	53.2	46.8	5.48	0.019	*	-0.043
	架電あり(n=224)	45.1	54.9				

*** : $p < 0.001$ 、* : $p < 0.05$

図表 10-5 65 歳以上同居者の有無と【予備行動】チラシのクロス集計結果

【予備行動】チラシ		非該当	該当	(%)			
				χ^2 値	p 値		ϕ 係数
65歳以上同居者なし	架電なし(n=4656)	92.3	7.7	87.16	0.000	***	-0.134
	架電あり(n=229)	74.7	25.3				
65歳以上同居者あり	架電なし(n=2702)	90.5	9.5	7.54	0.006	**	-0.051
	架電あり(n=224)	84.8	15.2				

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$

図表 10-6 65 歳以上同居者の有無と【予備行動】迷惑電話防止機能のクロス集計結果

【予備行動】迷惑電話防止機能		非該当	該当	(%)			
				χ^2 値	p 値		ϕ 係数
65歳以上同居者なし	架電なし(n=4656)	70.9	29.1	23.63	0.000	***	-0.070
	架電あり(n=229)	55.9	44.1				
65歳以上同居者あり	架電なし(n=2702)	69.3	30.7	1.66	0.198	n.s.	-0.024
	架電あり(n=224)	65.2	34.8				

***: $p < 0.001$

結果は、図表 10-3 から図表 10-6 の通りである。この結果を 65 歳以上同居者ありの場合と、65 歳未満のみの世帯に分けて考えた。

まず、65 歳以上同居者ありの場合、「留守番電話外出時使用」では 10%水準で有意傾向であった。「留守番電話在宅時使用」では、5 %水準で有意な差が見られた。そして「チラシ」では、1 %水準で有意差が見られた。いずれも、コールセンターからの架電の経験がある群の方が留守電使用などの対策行動をとっていることが多かった。

ただし、迷惑電話防止機能では有意な差はなく、コールセンターからの架電は迷惑防止機能の使用を促進するまでにはなっていないことが示唆された。

65 歳未満のみの世帯をみると、「留守番電話外出時使用」は、1 %水準で有意な差があった。「留守番電話在宅時使用」は 0.1%水準で有意な差であった。チラシに関しても 0.1%水準で有意な差であった。「迷惑電話防止機能」については 0.1%水準で有意差が見られた。いずれも、コールセンターからの架電経験がある群の方が、特殊詐欺対策行動をとっている割合が高かった。

ϕ 係数の値をみると、65 歳未満のみの世帯であっても、65 歳以上の同居家族のいる世帯であっても、コールセンターからの架電経験と「チラシ」の関連性がもっとも強かった。電話機の近くにチラシを貼っておくという行動が促進されている可能性が高いことが示唆された。

4. 考察

この章の仮説は、「警察の特殊詐欺対策コールセンターから電話があった場合、対策行動をとっている」である。コールセンターについての質問項目と、特殊詐欺対策行動の4項目をクロス集計した結果、65歳以上同居者の場合と65歳未満のみの場合とで、対策行動に違いが見られた。65歳未満のみの場合は仮説通り、警察や県の特殊詐欺対策コールセンターからの電話に効果があった。しかし、65歳以上同居者ありの場合、迷惑防止機能の使用では有意な差がなかった。

コールセンターからの架電経験の効果に関して、 ϕ 計数をみて考察してみたい。 ϕ 係数は、数値が大きくなるほど関係度が大きくなることを表す。図表 10-3 から図表 10-6 まで、一貫して、65歳未満のみの世帯の方が ϕ 係数の値が高い。となると、コールセンターからの架電は、65歳以上の高齢者と同居していない世帯の方により対策行動を促進しているということになる。しかしながら、高齢者の方が特殊詐欺の被害を受けやすいことが知られている。このことから、65歳以上の高齢者に対して、どのようにして対策行動を促進するかが重要な課題であろう。

第 11 章 スマホ等・PC メール接触行動の分析

鈴木佐和子

本章ではスマホ・PCメールの接触行動について分析する。

1. 単純集計結果

図表 11-1 スマートフォン等・PC所持状況 (N=11326)

		(%)	
		持っている	持っていない
スマートフォン	携帯電話	95.1	4.9
パソコン		75.0	25.0

SQ9 の 3 および 4 の単純集計より、スマートフォン・携帯電話を持っている割合は 95.1%、持っていない割合が 4.9%であった。パソコンを持っている割合は 75.0%、持っていない割合が 25.0%になり、持っている割合の方が大きいことが分かる。

図表 11-2 スマートフォン等・PCメール接触行動

		(%)	
		はい	いいえ
電話をするときは固定電話よりもスマートフォン・携帯電話の方が多い	(n=7532)	76.6	23.4
パソコンにはウイルス対策ソフトをインストールしている	(n=8492)	85.4	14.7
メッセージの差出人は確認するようにしてる	(n=10766)	92.3	7.7
メッセージ中のリンクはすぐに開かないようにしている	(n=10766)	89.7	10.3
身に覚えのないメッセージは、無視するようにしている	(n=10766)	93.3	6.7

SQ11 の 6 ～ 10 の単純集計から以下が分かる。電話をするときは固定電話よりもスマートフォン・携帯電話の方が多いと答えた割合は 76.6%、いいえと答えた割合は 23.4%であった。

パソコンにはウイルス対策ソフトをインストールしていると答えた割合は 85.4%、いいえと答えた割合は 14.7%であった。

メッセージの差出人は確認するようにしていると答えた割合は 92.3%、いいえと答えた割合は 7.7%であった。

メッセージ中のリンクはすぐに開かないようにしていると答えた割合は 89.7%、いいえと答えた割合は 10.3%であった。

身に覚えのないメッセージは、無視するようにしていると答えた割合は 93.3%、いいえと答えた割合は 6.7%であった。

なお、「電話をするときは固定電話よりもスマートフォンや携帯電話の方が多い」という設問の回答者は、自宅に固定電があり、かつスマホ等を持っている人が分析対象であるため、n が異なる。パソコンにはウイルス対策ソフトをインストールしているは個人使用の PC を持っている人

が分析対象であるため n が異なる。

メッセージの差出人は確認するようにしている、メッセージ中のリンクはすぐに開かないようにしている、身に覚えのないメッセージは、無視するようにしているは個人使用のスマホ・携帯を持っている人が分析対象であるため、それぞれ n が異なる。

2. 年代別、性別、年代別かつ性別のクロス集計

SQ11 の 7 ～ 10 の単純集計をもとに年代別、性別別、年代別かつ性別についてのメールの不安全行動を分析し、クロス集計を行った。

なお、サンプルサイズが大きいいため、カイ二乗検定を参照せずに、構成比のみで分析していく。

図表 11-3 年代別にみたメール接触行動

	ウィルス対策ソフト利用	
	非該当	該当
20-29歳 人数	129 27.6%	338 72.4%
30-39歳 人数	217 20.7%	830 79.3%
40-49歳 人数	386 16.3%	1978 83.7%
50-59歳 人数	322 12.9%	2167 87.1%
60-69歳 人数	190 8.9%	1935 91.1%

	メッセージの差出人確認	
	非該当	該当
20-29歳 人数	91 12.8%	621 87.2%
30-39歳 人数	155 9.6%	1452 90.4%
40-49歳 人数	270 8.7%	2835 91.3%
50-59歳 人数	189 6.2%	2849 93.8%
60-69歳 人数	122 5.3%	2182 94.7%

	リンクは開かない	
	非該当	該当
20-29歳 人数	137 19.2%	575 80.8%
30-39歳 人数	200 12.4%	1407 87.6%
40-49歳 人数	331 10.7%	2774 89.3%
50-59歳 人数	252 8.3%	2786 91.7%
60-69歳 人数	189 8.2%	2115 91.8%

	身に覚えのないメッセージは無視	
	非該当	該当
20-29歳 人数	73 10.3%	639 89.7%
30-39歳 人数	133 8.3%	1474 91.7%
40-49歳 人数	227 7.3%	2878 92.7%
50-59歳 人数	171 5.6%	2867 94.4%
60-69歳 人数	114 4.9%	2190 95.1%

年代別にスマホ等・PCメールの接触行動をクロス集計した結果、年代があがるほどメールにおける不安全行動が少なくなっていく傾向が分かった（図表 11-3）。

ウイルス対策ソフトのインストールでは、20代では7割弱、30代・40代で8割前後、50代・60代では9割前後と、直線的な関連がみられた。

メッセージの差出人を確認するというに関しては、年代による違いはあまりみられなかった。どの年代であっても、おおむね9割前後があてはまると回答していた。

メッセージ中のリンクはすぐに開かないという項目では、20代では8割であったが、30代以上ではおおむね9割前後があてはまると回答した。

身に覚えのないメッセージは無視するという項目では、年代差はあまりみられなかった。9割前後があてはまると回答であった。

性別にメール接触行動のクロス集計を行った結果、明瞭な性差はみられなかった（図表 11-4）。

図表 11-4 性別にみたメール接触行動

		ウイルス対策ソフト利用	
		非該当	該当
男性	人数	724	4557
		13.7%	86.3%
女性	人数	520	2691
		16.2%	83.8%

		メッセージの差出人確認	
		非該当	該当
男性	人数	502	5327
		8.6%	91.4%
女性	人数	325	4612
		6.6%	93.4%

		リンクは開かない	
		非該当	該当
男性	人数	635	5194
		10.9%	89.1%
女性	人数	474	4463
		9.6%	90.4%

		身に覚えのないメッセージは無視	
		非該当	該当
男性	人数	452	5377
		7.8%	92.2%
女性	人数	266	4671
		5.4%	94.6%

年代別かつ性別にクロス集計を行った（図表 11-5）。20代男性における不安全行動の多さが析出された。

メッセージの差出人を確認するかどうかという項目において、他の年代・性別では9割前後があてはまると回答であったが、20代男性のみが8割弱であり、特徴的であった。

メッセージ中のリンクはすぐに開かないという項目においても、同様であった。20代男性のみが7割強であった。

身に覚えのないメッセージは無視するという項目においては、他の年代・性別では9割前後があてはまると回答であったが、20代男性においてのみ8割半にとどまった。

20代男性におけるメール接触行動のリスクの高さが析出された。

図表 11-5 年代別かつ性別にみたメール接触行動

	ウィルス対策ソフト利用			メッセージの差出人確認	
	非該当	該当		非該当	該当
20代男性 人数	37 26.4%	103 73.6%	20代男性 人数	39 21.1%	146 78.9%
20代女性 人数	92 28.1%	235 71.9%	20代女性 人数	52 9.9%	475 90.1%
30代男性 人数	103 19.5%	426 80.5%	30代男性 人数	76 11.9%	563 88.1%
30代女性 人数	114 22.0%	404 78.0%	30代女性 人数	79 8.2%	889 91.8%
40代男性 人数	235 16.7%	1173 83.3%	40代男性 人数	166 10.2%	1468 89.8%
40代女性 人数	151 15.8%	805 84.2%	40代女性 人数	104 7.1%	1367 92.9%
50代男性 人数	222 13.1%	1476 86.9%	50代男性 人数	136 7.4%	1698 92.6%
50代女性 人数	100 12.6%	691 87.4%	50代女性 人数	53 4.4%	1151 95.6%
60代男性 人数	127 8.4%	1379 91.6%	60代男性 人数	85 5.5%	1452 94.5%
60代女性 人数	63 10.2%	556 89.8%	60代女性 人数	37 4.8%	730 95.2%

	リンクは開かない			身に覚えのないメッセージは無視	
	非該当	該当		非該当	該当
20代男性 人数	47 25.4%	138 74.6%	20代男性 人数	27 14.6%	158 85.4%
20代女性 人数	90 17.1%	437 82.9%	20代女性 人数	46 8.7%	481 91.3%
30代男性 人数	97 15.2%	542 84.8%	30代男性 人数	68 10.6%	571 89.4%
30代女性 人数	103 10.6%	865 89.4%	30代女性 人数	65 6.7%	903 93.3%
40代男性 人数	199 12.2%	1435 87.8%	40代男性 人数	145 8.9%	1489 91.1%
40代女性 人数	132 9.0%	1339 91.0%	40代女性 人数	82 5.6%	1389 94.4%
50代男性 人数	171 9.3%	1663 90.7%	50代男性 人数	130 7.1%	1704 92.9%
50代女性 人数	81 6.7%	1123 93.3%	50代女性 人数	41 3.4%	1163 96.6%
60代男性 人数	121 7.9%	1416 92.1%	60代男性 人数	82 5.3%	1455 94.7%
60代女性 人数	68 8.9%	699 91.1%	60代女性 人数	32 4.2%	735 95.8%

第 12 章 SNS 利用と特殊詐欺知識との関連

飯島華恋

本章では、SNS の利用が、特殊詐欺についての知識量とどのような関連をもっているのかについて述べていく。SNS については、Twitter・Facebook・LINE の 3 つとし、特殊詐欺知識については第 3 章で作成した特殊詐欺知識の 3 群（多知識群、中知識群、少知識群）を分析に用いる。

SNS の利用により、日ごろからインターネットを閲覧する人は、利用しない人々に比べ、特殊詐欺について多くの知識を有しているのではないかと考えた。そこで、「SNS を利用する人は、特殊詐欺知識が多い」という仮説を立てた。以下、各 SNS 別に、多知識群に注目して分析していく。

1. Twitter の利用と特殊詐欺知識

仮説を検証するために、男女別・年代別の Twitter 利用と特殊詐欺知識とのクロス集計を行った。

図表 12-1 性別・年代別の Twitter 利用と特殊詐欺知識とのクロス集計

	Twitter	多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
20代男性	利用群 (n=122)	19.7%	40.2%	40.2%	12.45	0.002	**
	非利用群 (n=71)	2.8%	39.4%	57.8%			
30代男性	利用群 (n=273)	24.2%	46.2%	29.7%	13.52	0.001	**
	非利用群 (n=407)	16.5%	40.8%	42.8%			
40代男性	利用群 (n=543)	26.2%	41.4%	32.4%	9.10	0.011	*
	非利用群 (n=1202)	19.9%	43.3%	36.9%			
50代男性	利用群 (n=411)	31.4%	40.6%	28.0%	7.87	0.020	*
	非利用群 (n=1542)	24.7%	46.1%	29.2%			
60代男性	利用群 (n=224)	34.4%	42.4%	23.2%	9.73	0.008	**
	非利用群 (n=1386)	25.8%	52.9%	21.4%			
20代女性	利用群 (n=398)	12.3%	55.3%	32.4%	11.20	0.004	**
	非利用群 (n=166)	7.8%	45.2%	47.0%			
30代女性	利用群 (n=415)	20.2%	54.5%	25.3%	7.95	0.019	*
	非利用群 (n=592)	14.7%	53.6%	31.8%			
40代女性	利用群 (n=406)	29.1%	50.7%	20.2%	9.30	0.010	*
	非利用群 (n=1108)	21.6%	55.6%	22.8%			
50代女性	利用群 (n=252)	29.8%	55.6%	14.7%	1.60	0.448	—
	非利用群 (n=1002)	32.8%	51.1%	16.1%			
60代女性	利用群 (n=96)	34.4%	53.1%	12.5%	0.35	0.838	—
	非利用群 (n=710)	32.0%	56.3%	11.7%			

** : $p < 0.01$ 、* : $p < 0.05$

図表 12-1 の多知識群に注目すると、男性はどの年代も Twitter を利用している人のほうが、特殊詐欺知識が多い。カイ二乗検定の結果は、全年代において有意な差であった。

女性は、50 代と 60 代では違いが見られなかったが、20 代から 40 代までは Twitter を利用している人のほうが、特殊詐欺知識が有意に多かった。

2. Facebook の利用と特殊詐欺知識

ついで Facebook 利用と特殊詐欺知識とのクロス集計を行なった。

表 12-2 の多知識群に注目して分析する。20 代、30 代の男性は Facebook を利用している人のほうが、特殊詐欺知識が多かった。同様に 20 代、30 代の女性も Facebook を利用している人のほうが、特殊詐欺知識が多かった。ただし、40 代以上では男女ともに、有意な知識差はなかった。

図表 12-2 性別・年代別の Facebook 利用と特殊詐欺知識とのクロス集計

Facebook		多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
20代男性	利用群 (n=45)	20.0%	26.7%	53.3%	5.00	0.082	†
	非利用群 (n=148)	11.5%	43.9%	44.6%			
30代男性	利用群 (n=179)	27.4%	44.1%	28.5%	12.93	0.002	**
	非利用群 (n=501)	16.8%	42.5%	40.7%			
40代男性	利用群 (n=381)	23.1%	39.9%	37.0%	1.57	0.455	—
	非利用群 (n=1364)	21.5%	43.5%	35.0%			
50代男性	利用群 (n=381)	29.9%	43.0%	27.0%	3.60	0.165	—
	非利用群 (n=1572)	25.2%	45.4%	29.4%			
60代男性	利用群 (n=340)	30.0%	47.7%	22.4%	2.79	0.248	—
	非利用群 (n=1270)	26.1%	52.4%	21.4%			
20代女性	利用群 (n=133)	16.5%	47.4%	36.1%	5.70	0.058	†
	非利用群 (n=431)	9.3%	53.8%	36.9%			
30代女性	利用群 (n=261)	21.8%	49.4%	28.7%	6.23	0.044	*
	非利用群 (n=746)	15.3%	55.5%	29.2%			
40代女性	利用群 (n=278)	23.0%	51.1%	25.9%	2.88	0.237	—
	非利用群 (n=1236)	23.7%	55.0%	21.3%			
50代女性	利用群 (n=174)	37.9%	48.9%	13.2%	3.28	0.194	—
	非利用群 (n=1080)	31.3%	52.5%	16.2%			
60代女性	利用群 (n=105)	41.0%	49.5%	9.5%	4.25	0.120	—
	非利用群 (n=701)	31.0%	56.9%	12.1%			

**: $p < 0.01$ 、*: $p < 0.05$ 、†: $p < 0.1$

3. LINE の利用と特殊詐欺知識

性別・年代別の LINE 利用と特殊詐欺知識とのクロス集計を行なった。

表 12-3 の多知識群に注目して分析する。男性はどの年代も LINE を利用している人のほうが、特殊詐欺知識が多かった。全年代において有意な差であった。

女性もどの年代であっても LINE を利用している人のほうが、特殊詐欺知識が多いことがわかる。ただし、40 代女性の多知識群における差は 0.2%と同程度であるが、少知識群に注目すると 8 ポイント程度、非利用群が高くなっている。全年代において有意な差であった。

図表 12-3 性別・年代別の LINE 利用と特殊詐欺知識とのクロス集計

	LINE	多知識群	中知識群	少知識群	χ^2 値	p 値	
20代男性	利用群 (n=148)	16.2%	43.9%	39.9%	12.36	0.002	**
	非利用群 (n=45)	4.4%	26.7%	68.9%			
30代男性	利用群 (n=494)	22.1%	45.3%	32.6%	19.83	<.0001	***
	非利用群 (n=186)	12.9%	36.6%	50.5%			
40代男性	利用群 (n=1082)	23.8%	45.4%	30.8%	27.79	<.0001	***
	非利用群 (n=663)	18.6%	38.3%	43.1%			
50代男性	利用群 (n=1107)	29.0%	46.7%	24.3%	28.81	<.0001	***
	非利用群 (n=846)	22.3%	42.7%	35.0%			
60代男性	利用群 (n=930)	29.4%	52.3%	18.4%	15.61	0.000	***
	非利用群 (n=680)	23.7%	50.3%	26.0%			
20代女性	利用群 (n=508)	12.0%	55.1%	32.9%	32.96	<.0001	***
	非利用群 (n=56)	1.8%	26.8%	71.4%			
30代女性	利用群 (n=863)	17.3%	55.9%	26.9%	14.61	0.001	**
	非利用群 (n=144)	15.3%	42.4%	42.4%			
40代女性	利用群 (n=1151)	23.5%	56.4%	20.1%	13.06	0.002	**
	非利用群 (n=363)	23.7%	47.7%	28.7%			
50代女性	利用群 (n=901)	33.2%	54.2%	12.7%	23.77	<.0001	***
	非利用群 (n=353)	29.8%	46.5%	23.8%			
60代女性	利用群 (n=548)	35.0%	55.1%	9.9%	9.74	0.008	**
	非利用群 (n=258)	26.4%	57.8%	15.9%			

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$

4. 考察

本章の仮説は、「SNS を利用する人は、特殊詐欺知識が多い」であり、性別・年代別の各 SNS の利用と特殊詐欺知識とのクロス集計を行なった。

表 12-1 の Twitter 利用について、男性は全年代に有意な差があり、女性は 20～40 代に有意な差があることがわかった。よって、全年代の男性と 20～40 代女性は Twitter を利用する人は特殊詐欺知識が多いのに対し、50～60 代女性には Twitter の利用と特殊詐欺知識の多さには関わりがなかった。

表 12-2 の Facebook 利用については、男性と女性のどちらも 30 代のみ有意な差であった。20 代では有意傾向にとどまった。よって、30 代の男女は Facebook を利用する人は特殊詐欺知識が多いのに対し、それ以外の年代においては Facebook の利用と特殊詐欺知識の多さには関わりがないといえる。年代によって Facebook のもつ効果が異なっていた。

表 12-3 の LINE 利用について、男性と女性のどちらも全年代に有意な差があった。全年代の男女ともに LINE を利用する人は特殊詐欺知識が多かった。

以上の 3 種類の SNS の分析結果を踏まえると、それぞれの SNS の特性と、性別、年代によってその SNS を利用する人の特性とが異なることが示唆される。そもそも利用者の特性が異なっている可能性と、それぞれの SNS がもたらす情報伝達内容が異なる可能性の両方が考えられる。

特殊詐欺対策に限らず、広報啓発活動の設計にあたって、SNS の特性とターゲットとなる性別、年代との関係を考慮する必要があるであろう。

第 13 章 新聞購読と特殊詐欺知識の関連性

三浦結里菜

本章では、特殊詐欺の知識と新聞を購読していることがどのような関連をもっているかを分析する。新聞を購読している割合の単純集計と、特殊詐欺知識とのクロス集計を行い、さらに年代別や 65 歳以上同居家族有無別にも分析する。

1. 単純集計結果

問 11 の 14、15 において、「全国紙(朝日、読売、毎日、日経等)を購読している」かどうかと、「地元紙を購読している」かどうかを尋ねた。全国紙(朝日、読売、毎日、日経等)または地元紙、もしくはその両方を購読している割合は 42.2%になり、購読していない人の割合の方が大きい。

図表 13-1 新聞購読の単純集計

	構成比 (%)	度数
購読あり	42.2	4784
購読なし	57.8	6542

2. 新聞購読と特殊詐欺知識のクロス集計

特殊詐欺知識について尋ねた設問 2 の 13 項目を、新聞購読と関連しているかクロス集計したところ、図表 13-2 の結果となった。

すべての設問において、新聞を購読している方が特殊詐欺の知識があった。すべての項目において、0.1%水準で有意な差であった。

「知っている」という回答比率の、購読あり群と購読なし群との差をとり、差の大きな項目をみると、以下ようになった。

「特殊詐欺の被害を防ぐには、在宅時も留守番電話機能を使うとよい」では、購読あり群 61.1% 購読なし群 46.7%であり、14.4 ポイント購読あり群が高かった。ついで、「固定電話には、自動通話録音などがあること」では 14.3 ポイント、購読あり群が高かった。「自宅にキャッシュカードを取りに来るタイプの詐欺がある」では、11.6 ポイント、購読あり群が高かった。「ありもしない架空の請求をはがきで送る詐欺があること」では、10.6 ポイント、購読あり群が高かった。これらの項目に関しては、新聞購読の有無によって 10 ポイント以上の差がみられた。

他方、統計的に有意ではあるが、新聞購読の有無によるちがいの小さかったのは、以下の項目であった。「ショートメールによる架空請求詐欺を「スミッシング」という」では、購読あり群と購読なし群の差は 3.0 ポイントであった。「スマホのショートメール (SMS) を使った架空請求詐欺」では、4.8 ポイントの差であった。概して、スマホのショートメールに関しては、新聞購読の有無による差は小さいと見てよいであろう。

図表 13-2 新聞購読と特殊詐欺知識

	新聞購読	知っている	知らない	χ^2 値	p値
子や孫を装った人間からの、電話	購読あり (n=4784)	85.1	14.9	76.84	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	78.6	21.4		
自宅にキャッシュカードを取りに来るタイプの詐欺がある	購読あり (n=4784)	77.3	22.7	178.51	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	65.7	34.3		
ありもしない架空の請求をはがきで送る詐欺があること	購読あり (n=4784)	73.1	26.9	140.60	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	62.5	37.5		
スマホのショートメール(SNS)を使った架空請求詐欺	購読あり (n=4784)	73.1	26.9	30.14	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	68.3	31.7		
ショートメールによる架空請求詐欺を「スミッシング」という	購読あり (n=4784)	30.7	69.3	12.11	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	27.7	72.3		
架空請求詐欺は、どの年代でも被害にあう可能性があること	購読あり (n=4784)	69.2	30.8	81.33	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	61.0	39.0		
詐欺は、心理学的な特徴に付け込んで行われていること	購読あり (n=4784)	66.0	34.0	110.74	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	56.2	43.8		
電話に出ると、犯人に騙されてしまうこと	購読あり (n=4784)	46.5	53.5	80.95	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	38.0	62.0		
いったん言うことを信じて行動すると、その後気づくのは難しい	購読あり (n=4784)	52.2	47.8	55.26	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	45.1	54.9		
固定電話には、自動通話録音などがあること	購読あり (n=4784)	57.9	42.1	227.02	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	43.6	56.5		
特殊詐欺の被害を防ぐには、在宅時も留守番電話機能を使うとよい	購読あり (n=4784)	61.1	38.9	229.47	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	46.7	53.3		
特殊詐欺を防ぐには、何か一つでも自主的に対策することが重要	購読あり (n=4784)	44.2	55.8	95.86	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	35.1	64.9		
誰かに相談できるようにしておくことが被害防止には重要なこと	購読あり (n=4784)	58.1	41.9	79.08	<.001 ***
	購読なし (n=6542)	49.7	50.4		

***: $p < 0.001$

3. 年代別の分析

上の分析に加え、さらに年代別に三重クロス集計を行った。

全般的に、年代別にみても、新聞購読あり群は、なし群に比べて特殊詐欺の知識のある割合が有意に高かった。

ただし、年代別に分析することで、有意な差がみられなくなった年代もある。「スマホのショートメール (SMS) を使った架空請求詐欺」では、20 代、30 代、そして 60 代で有意な差がみられなくなった。「ショートメールによる架空請求詐欺を「スミッシング」という」では、30 代から 60 代まで、有意な差が見られなくなった。

スマホのショートメールを使った特殊詐欺に関しては、年代が高くなると新聞購読の効果があまりないことが示唆された。

図表 13-3 年代別にみた新聞購読と特殊詐欺知識

		新聞購読		知っている	知らない	χ^2 値	p値				新聞購読		知っている	知らない	χ^2 値	p値	
子や孫を装った人間からの電話	20代	購読あり (n=160)	72.5	27.5	0.01	0.9267	-	まうこと 電話に出ると、 犯人に騙されてし るのは難しい 行いったん犯人の 言つたことを信じて は動ずると、その 後自分で気づく	20代	購読あり (n=160)	36.3	63.8	3.30	0.0692	-		
		購読なし (n=597)	72.9	27.1						購読なし (n=597)	28.8	71.2					
	30代	購読あり (n=415)	79.5	20.5	0.48	0.4898	-		30代	購読あり (n=415)	46.0	54.0	16.72	<.0001	***		
		購読なし (n=1272)	77.9	22.1						購読なし (n=1272)	34.8	65.2					
	40代	購読あり (n=1193)	83.7	16.4	14.08	0.0002	***		40代	購読あり (n=1193)	43.1	56.9	14.44	0.0001	***		
		購読なし (n=2066)	78.2	21.8						購読なし (n=2066)	36.4	63.7					
	50代	購読あり (n=1550)	85.0	15.0	15.49	<.001	***		50代	購読あり (n=1550)	47.5	52.5	8.28	0.004	**		
		購読なし (n=1657)	79.7	20.3						購読なし (n=1657)	42.4	57.6					
	60代	購読あり (n=1466)	89.3	10.7	26.11	<.001	***		60代	購読あり (n=1466)	49.4	50.6	6.45	0.0111	*		
		購読なし (n=950)	82.0	18.0						購読なし (n=950)	44.1	55.9					
キャッシュカードを取りに来るタ イプの詐欺	20代	購読あり (n=160)	61.3	38.8	4.57	0.0325	*		が固定電話には、 自動通話録音など 被害を防ぐには、 在宅時も留守番 も自主的に詐欺を 防ぐには、何か一 つで誰かが相談 防止には重要なこ と	20代	購読あり (n=160)	36.9	63.1	0.04	0.8404	-	
		購読なし (n=597)	51.8	48.2							購読なし (n=597)	36.0	64.0				
	30代	購読あり (n=415)	66.5	33.5	3.81	0.051	-			30代	購読あり (n=415)	45.8	54.2	2.70	0.1004	-	
		購読なし (n=1272)	61.2	38.8							購読なし (n=1272)	41.2	58.8				
	40代	購読あり (n=1193)	73.2	26.8	31.42	<.0001	***			40代	購読あり (n=1193)	49.0	51.0	7.15	0.0075	**	
		購読なし (n=2066)	63.6	36.4							購読なし (n=2066)	44.2	55.8				
	50代	購読あり (n=1550)	79.0	21.0	27.65	<.0001	***			50代	購読あり (n=1550)	52.8	47.2	5.96	0.0146	*	
		購読なし (n=1657)	71.0	29.0							購読なし (n=1657)	48.5	51.5				
	60代	購読あり (n=1466)	83.7	16.3	20.79	<.0001	***			60代	購読あり (n=1466)	57.6	42.4	6.71	0.0096	**	
		購読なし (n=950)	76.2	23.8							購読なし (n=950)	52.2	47.8				
で送る詐欺があること	20代	購読あり (n=160)	53.8	46.3	3.26	0.0712	-			20代	購読あり (n=160)	37.5	62.5	5.66	0.0173	*	
		購読なし (n=597)	45.7	54.3							購読なし (n=597)	27.8	72.2				
	30代	購読あり (n=415)	65.8	34.2	13.78	0.0002	***			30代	購読あり (n=415)	45.8	54.2	25.07	<.0001	***	
		購読なし (n=1272)	55.4	44.6							購読なし (n=1272)	32.2	67.8				
	40代	購読あり (n=1193)	68.9	31.1	12.86	0.0003	***			40代	購読あり (n=1193)	50.7	49.3	21.32	<.0001	***	
		購読なし (n=2066)	62.7	37.3							購読なし (n=2066)	42.4	57.7				
	50代	購読あり (n=1550)	74.5	25.6	12.57	0.0004	***			50代	購読あり (n=1550)	59.8	40.2	22.17	<.0001	***	
		購読なし (n=1657)	68.8	31.2							購読なし (n=1657)	51.5	48.5				
	60代	購読あり (n=1466)	79.4	20.6	20.53	<.0001	***			60代	購読あり (n=1466)	67.3	32.7	25.15	<.0001	***	
		購読なし (n=950)	71.4	28.6							購読なし (n=950)	57.3	42.7				
たショートメール（SNS）を使っ た架空請求詐欺	20代	購読あり (n=160)	60.6	39.4	0.04	0.8448	-	電話被害を防ぐには、 在宅時も留守番 も自主的に詐欺を 防ぐには、何か一 つで誰かが相談 防止には重要なこ と	20代	購読あり (n=160)	36.3	63.8	8.10	0.0044	**		
		購読なし (n=597)	61.5	38.5						購読なし (n=597)	25.0	75.0					
	30代	購読あり (n=415)	69.2	30.8	0.68	0.4112	-		30代	購読あり (n=415)	46.5	53.5	19.21	<.0001	***		
		購読なし (n=1272)	67.0	33.0						購読なし (n=1272)	34.5	65.5					
	40代	購読あり (n=1193)	73.3	26.7	9.58	0.002	**		40代	購読あり (n=1193)	55.2	44.8	23.61	<.0001	***		
		購読なし (n=2066)	68.1	31.9						購読なし (n=2066)	46.3	53.7					
	50代	購読あり (n=1550)	75.0	25.0	8.33	0.0039	**		50代	購読あり (n=1550)	63.8	36.2	22.49	<.0001	***		
		購読なし (n=1657)	70.5	29.5						購読なし (n=1657)	55.6	44.4					
	60代	購読あり (n=1466)	73.4	26.6	1.45	0.2285	-		60代	購読あり (n=1466)	69.9	30.1	15.88	<.0001	***		
		購読なし (n=950)	71.2	28.8						購読なし (n=950)	62.1	37.9					
欺を「スミッシング」という ショートメールによる架空請求詐 欺	20代	購読あり (n=160)	32.5	67.5	10.05	0.0015	**		も特殊詐欺を防ぐ には、何か一つで 誰かが相談防止に は重要なこと	20代	購読あり (n=160)	35.0	65.0	10.90	0.001	**	
		購読なし (n=597)	20.6	79.4							購読なし (n=597)	22.3	77.7				
	30代	購読あり (n=415)	28.4	71.6	1.27	0.2599	-			30代	購読あり (n=415)	39.3	60.7	13.59	0.0002	***	
		購読なし (n=1272)	25.6	74.4							購読なし (n=1272)	29.6	70.4				
	40代	購読あり (n=1193)	27.4	72.6	0.05	0.8274	-			40代	購読あり (n=1193)	40.3	59.7	12.34	0.0004	***	
		購読なし (n=2066)	27.1	72.9							購読なし (n=2066)	34.2	65.8				
	50代	購読あり (n=1550)	32.5	67.6	0.96	0.3263	-			50代	購読あり (n=1550)	45.6	54.4	6.83	0.009	**	
		購読なし (n=1657)	30.8	69.2							購読なし (n=1657)	41.0	59.0				
	60代	購読あり (n=1466)	31.9	68.1	0.38	0.5395	-			60代	購読あり (n=1466)	48.3	51.7	8.01	0.0047	**	
		購読なし (n=950)	30.7	69.3							購読なし (n=950)	42.4	57.6				
害にあらう可能性は、どの年代でも被 る架空請求詐欺は、	20代	購読あり (n=160)	52.5	47.5	0.26	0.6134	-	こ誰かが相談防止 には重要なこと		20代	購読あり (n=160)	44.4	55.6	1.14	0.2849	-	
		購読なし (n=597)	50.3	49.8							購読なし (n=597)	39.7	60.3				
	30代	購読あり (n=415)	61.0	39.0	2.10	0.1472	-			30代	購読あり (n=415)	52.3	47.7	6.03	0.0141	*	
		購読なし (n=1272)	56.9	43.1							購読なし (n=1272)	45.4	54.6				
	40代	購読あり (n=1193)	65.2	34.8	8.97	0.0027	**			40代	購読あり (n=1193)	53.3	46.7	4.03	0.0447	*	
		購読なし (n=2066)	59.9	40.1							購読なし (n=2066)	49.7	50.3				
	50代	購読あり (n=1550)	71.1	28.9	10.69	0.0011	**			50代	購読あり (n=1550)	60.3	39.7	16.39	<.0001	***	
		購読なし (n=1657)	65.7	34.3							購読なし (n=1657)	53.2	46.8				
	60代	購読あり (n=1466)	74.7	25.3	14.86	0.0001	***			60代	購読あり (n=1466)	62.8	37.2	12.97	0.0003	***	
		購読なし (n=950)	67.5	32.5							購読なし (n=950)	55.5	44.5				
んで行われている心理学的な特徴に付け込 む詐欺は、	20代	購読あり (n=160)	51.9	48.1	2.36	0.1247	-			20代	購読あり (n=160)	51.9	48.1	2.36	0.1247	-	
		購読なし (n=597)	45.1	54.9							購読なし (n=597)	4					
	30代	購読あり (n=415)	58.8	41.2	6.70	0.0096	**			30代	購読あり (n=415)	58.8	41.2	6.70	0.0096	**	
		購読なし (n=1272)	51.5	48.5							購読なし (n=1272)	51.5	48.5				
	40代	購読あり (n=1193)	61.7	38.3	11.28	0.0008	***			40代	購読あり (n=1193)	61.7	38.3	11.28	0.0008	***	
		購読なし (n=2066)	55.7	44.3							購読なし (n=2066)	55.7	44.3				
	50代	購読あり (n=1550)	68.7	31.4	25.75	<.0001	***			50代	購読あり (n=1550)	68.7	31.4	25.75	<.0001	***	
		購読なし (n=1657)	60.1	40.0							購読なし (n=1657)	60.1	40.0				
	60代	購読あり (n=1466)	70.2	29.8	10.80	0.001	***			60代	購読あり (n=1466)	70.2	29.8	10.80	0.001	***	
		購読なし (n=950)	63.8	36.2							購読なし (n=950)	63.8	36.2				

4. 65 歳以上の同居家族のいる対象者に限定した分析

最後に、65 歳以上の方と同居している（自分含む）人に限定して分析した。

図表 13-4 の結果が得られた。65 歳以上の同居家族のいる対象者だけに限定しても同様の結果であった。おおむね、新聞購読のある群の方が、特殊詐欺の知識をもっているという結果であった。唯一の例外は「ショートメールによる架空請求詐欺を「スミッシング」という」という知識であり、これに関しては新聞購読の有無による有意な差はみられなかった。

図表 13-4 65 歳以上の同居家族のいる対象者に限定した新聞購読と特殊詐欺知識

	新聞購読	知っている	知らない	χ^2 値	p値
子や孫を装った人間からの、電話	購読あり (n=2007)	88.1	11.9	28.76	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	81.3	18.7		
自宅にキャッシュカードを取りに来るタイプの詐欺がある	購読あり (n=2007)	81.8	18.2	51.46	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	70.9	29.1		
ありもしない架空の請求をはがきで送る詐欺があること	購読あり (n=2007)	78.4	21.6	38.3	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	68.6	31.4		
スマホのショートメール(SNS)を使った架空請求詐欺	購読あり (n=2007)	73.9	26.1	7.28	0.007 **
	購読なし (n=1213)	69.5	30.5		
ショートメールによる架空請求詐欺を「スミッシング」という	購読あり (n=2007)	29.8	70.3	1.42	0.23 -
	購読なし (n=1213)	27.8	72.2		
架空請求詐欺は、どの年代でも被害にあう可能性があること	購読あり (n=2007)	74.5	25.5	34.94	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	64.7	35.3		
詐欺は、心理学的な特徴に付け込んで行われていること	購読あり (n=2007)	69.1	30.9	26.27	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	60.3	39.7		
電話に出ると、犯人に騙されてしまうこと	購読あり (n=2007)	50.0	50.0	14.47	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	43.1	56.9		
いったん言うことを信じて行動すると、その後気づくのは難しい	購読あり (n=2007)	57.2	42.8	18.23	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	49.5	50.5		
固定電話には、自動通話録音などがあること	購読あり (n=2007)	63.7	36.3	56.31	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	50.3	49.7		
特殊詐欺の被害を防ぐには、在宅時も留守番電話機能を使うとよい	購読あり (n=2007)	67.4	32.6	44.5	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	55.7	44.4		
特殊詐欺を防ぐには、何か一つでも自主的に対策することが重要	購読あり (n=2007)	48.4	51.6	21.95	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	39.9	60.1		
誰かに相談できるようにしておくことが被害防止には重要なこと	購読あり (n=2007)	63.0	37.0	21.63	<.001 ***
	購読なし (n=1213)	54.7	45.3		

***: $p < 0.001$ 、**: $p < 0.01$

第14章 千葉県の4地域別の集合的効力感の分析

関 奈央

本章では、千葉県を千葉市・東葛・内房・外房の4地域に分け、地域別の集合効力感の違いについて分析する。「集合的効力感」とは、「共通善 (common good)」のために介入するための意欲と結び付けられる近隣住民間の社会的凝集性 (social cohesion)」である (Sampson, 1997: 918)。

1. 集合的効力感の測定

集合的効力感を測定するために、本調査では、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の5件法で、以下の5項目を尋ねた。

- SQ14_1 この地区の住民は、考え方や暮らしぶりが似ている
- SQ14_2 この地区の住民は、みなお互い顔見知りだ
- SQ14_3 この地区の住民は、お互いに良い関係を保っている
- SQ14_4 この地区で問題が起きても、住民で解決できる
- SQ14_5 災害が起きた時には、近所の人は団結して行動するだろう

「とてもそう思う」と「そう思う」を合体し「そう思う」とした。「あまりそう思わない」と「全く思わない」を合体して「そう思わない」とした。以上を3群化し分析に用いた。その結果が、以下の図表14-1である。

図表14-1 集合的効力感を測定した各項目の単純集計

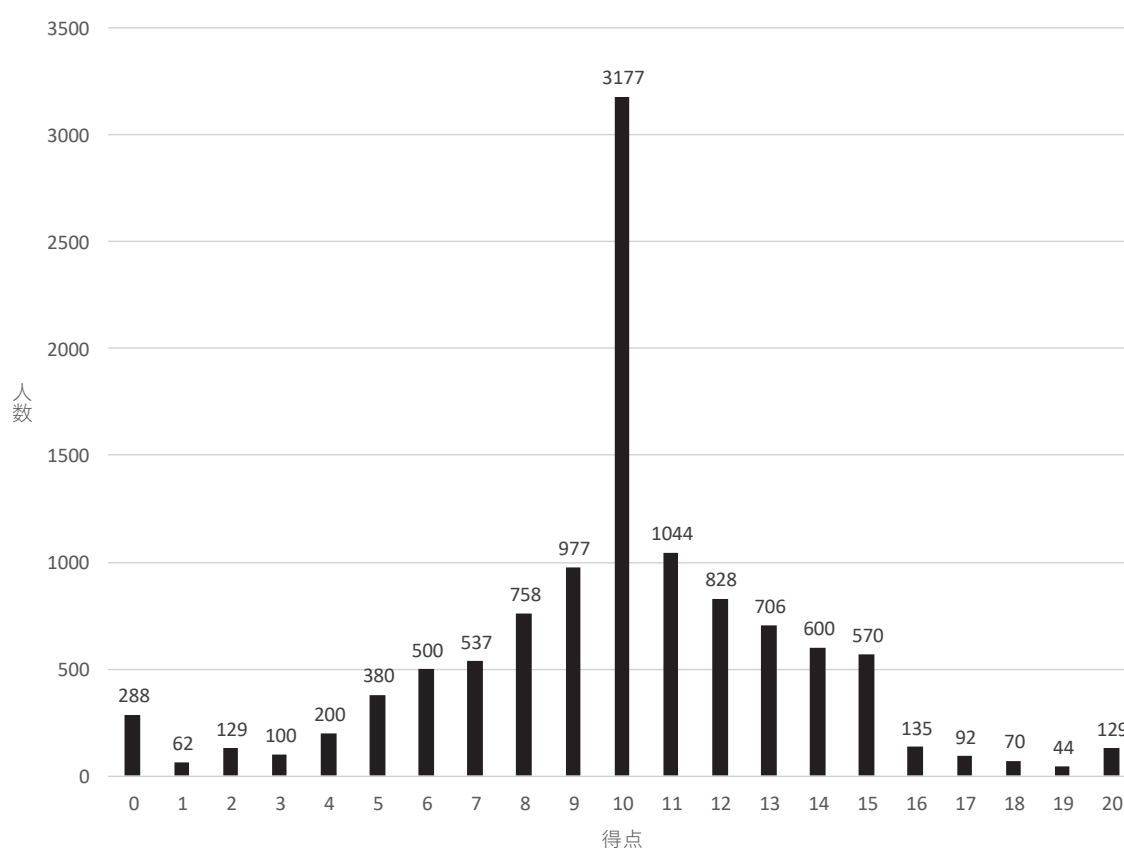
		そう思う	どちらでもない	そう思わない	合計
住民は考え方や暮らしぶりが似ている	(n=11326)	24.7%	57.9%	17.5%	100.0%
住民は、みなお互い顔見知りだ	(n=11326)	24.2%	41.7%	34.1%	100.0%
住民は、お互いに良い関係を保っている	(n=11326)	27.6%	55.8%	16.6%	100.0%
問題が起きても、住民で解決できる	(n=11326)	17.3%	56.9%	25.9%	100.0%
災害が起きた時には、近所の人は団結して行動するだろう	(n=11326)	33.2%	48.7%	18.2%	100.0%

2. 集合的効力感尺度の作成

次に、SQ14_1 から SQ14_5 の5項目について、因子分析を行ったところ、一因子構造に収まることを確認した。また、信頼性係数は $\alpha=0.84$ であった。内的一貫性があると判断した。そして、SQ14_1～SQ14_5を逆転処理して、「とてもそう思う」を4点、「全く思わない」を0点とし、総和を算出した。これを「集合的効力感尺度」とする。

この尺度の最高得点は20点、最低得点は0点となる。つまり、この尺度は高得点ほど地域のつながりが強く、低得点ほど地域のつながりが弱いことを指す。図表 14-2 に、集合的効力感尺度得点の分布をヒストグラムにして示す。

図表 14-2 集合的効力感尺度得点の分布



3. 基本属性と集合的効力感のクロス集計

尺度の低い順から四分位をとったところ、第1四分位が0～8点、中央値10、第3四分位が13点～20点であった。第2四分位と第3四分位を統合して「効力感中群（ $n=6026$ 、53.2%）」とした。第1四分位を「効力感弱群（ $n=2954$ 、26.1%）」、第4四分位を「効力感強群（ $n=2346$ 、20.7%）」とし、全体を3群化して基本属性（性別、年代別、自治会・町内会加入別、地域団体別、近隣の子供認知別）によるクロス集計を行った。その結果を図表 14-3 に示す。

図表 14-3 基本属性と集合的効力感のクロス集計

基本属性			集合的効力感 3 分割			χ^2 値	p 値	
			弱群	中群	強群			
性別	男性	(n=6181)	25.7%	55.2%	19.1%	27.49	0.000	***
	女性	(n=5145)	26.5%	50.8%	22.6%			
年代	20代	(n=757)	29.7%	49.1%	21.1%	61.58	0.000	***
	30代	(n=1687)	30.0%	50.3%	19.7%			
	40代	(n=3259)	26.0%	55.2%	18.8%			
	50代	(n=3207)	25.5%	54.7%	19.8%			
	60代	(n=2416)	23.1%	51.8%	25.0%			
自治会・町内会	加入あり	(n=6172)	18.6%	53.0%	28.4%	671.30	0.000	***
	加入なし	(n=5154)	35.0%	53.5%	11.5%			
地域団体	加入あり	(n=1006)	15.5%	44.4%	40.1%	262.80	0.000	***
	加入なし	(n=10320)	27.1%	54.1%	18.8%			
近隣の子供	認知あり	(n=8852)	10.8%	48.8%	40.4%	888.83	0.000	***
	認知なし	(n=2474)	30.4%	54.4%	15.2%			

***: $p < 0.001$

図表 14-3 について、「強群」に注目して分析していく。

性別にみると、0.1%水準で有意な結果ではあるが、サンプルサイズが大きいため、カイ二乗検定の結果は参考程度とすべきであろう。構成比をみる限り、性別で違いがあるようにはみえない。

年代別では、60代において集合的効力感の強群が25.0%と、20代～60代の中で最も高かった。弱群をみても、60代がもっとも少なく、60代において集合的効力感がやや強い傾向であった。

自治会・町内会の加入別では、加入している人は集合的効力感の強群が28.4%と、加入していない人の11.5%に比べて、集合的効力感の強群の割合が有意に高かった。加入者は、強群の構成比が2倍以上となっている。

地域団体の加入別では、加入している人は集合的効力感の強群が40.1%と、加入していない人の割合18.8%よりも大幅に高かった。このことから、自治会・町内会の加入別の結果と関連付けると、自治体・町内会の加入による集合的効力感の効果よりも、地域団体への加入のほうが集合的効力感の高まりに影響することが示唆される。

近隣の子供認知別では、近隣の子供を認知していない人の集合的効力感の強群が15.2%と低い割合に対し、認知している人の集合的効力感の強群が40.4%と高かった。

4. 年代別かつ地域別の集合的効力感の分析

続いて、千葉県内のそれぞれの地域において、年代をコントロールしたうえでどの地域が集合的効力感が強いのか測定するため、年代別かつ地域別に集合的効力感とのクロス集計を行った。結果は、以下の図表 14-4 に示す。

図表 14-4 年代別かつ地域別にみた集合的効力感

		集合的効力感			χ^2 値	p 値	
	地域	弱群	中群	強群			
20代	千葉市 (n=117)	29.9%	47.0%	23.1%	13.20	0.040	*
	東葛 (n=437)	33.4%	48.7%	17.9%			
	内房 (n=140)	22.9%	51.4%	25.7%			
	外房 (n=63)	19.1%	50.8%	30.2%			
30代	千葉市 (n=268)	27.6%	51.5%	20.9%	2.83	0.8053	
	東葛 (n=1003)	31.3%	49.5%	19.2%			
	内房 (n=283)	28.6%	52.3%	19.1%			
	外房 (n=133)	27.8%	49.6%	22.6%			
40代	千葉市 (n=552)	27.5%	55.4%	17.0%	8.05	0.234	
	東葛 (n=1918)	26.8%	54.6%	18.6%			
	内房 (n=549)	23.0%	57.2%	19.9%			
	外房 (n=240)	22.5%	54.6%	22.9%			
50代	千葉市 (n=561)	26.4%	57.4%	16.2%	70.58	0.000	***
	東葛 (n=1723)	27.6%	54.9%	17.5%			
	内房 (n=596)	22.8%	56.4%	20.8%			
	外房 (n=327)	17.7%	46.2%	36.1%			
60代	千葉市 (n=402)	27.4%	52.5%	20.2%	43.69	0.000	***
	東葛 (n=1235)	26.2%	51.0%	22.8%			
	内房 (n=525)	17.3%	52.6%	30.1%			
	外房 (n=254)	13.8%	53.2%	33.1%			

***: $p < 0.001$ *: $p < 0.05$

図表 14-4 について、「強群」に注目して分析していく。

20代を地区別にみると、外房において集合的効力感の強群が 30.2%と 4 地域の中で最も多かった。ついで、内房の 25.7%であった。東葛が最も少なく、5%水準で有意な差であった。

30代ではいずれの地区も 20%前後であり、有意的な差はなかった。40代も同様であり、有意な差はなかった。

50代では、外房が 36.1%と他の 3 地域が 2 割程度であるのに対してとび抜けて高かった。0.1%水準で有意な差であった。

60代では、外房 33.1%、内房 30.1%とほぼ同じであったが、千葉市と東葛では 2 割程度であり、房総半島の南北での違いがみられた。0.1%水準で有意な差であった。

【文献】

Sampson, Robert J. & Stephen Raudenbush and Felton Earls, 1997, Neighborhoods and Violent Crime: A Multilevel Study of Collective Efficacy, *Science* 277:918-924.

第 15 章 メディア接触と特殊詐欺対策への関心の分析

石島 奨

本章では特殊詐欺対策の関心の有無を規定する要因について分析する。特殊詐欺対策への関心は、以下のように測定された。設問は、「防犯対策(特殊詐欺)に関心があるほうだ」であり、回答はとてもそう思う、そう思う、どちらでもない、あまり思わない、思わないの 5 件法とした。

前二者を統合して「関心あり」とし、後二者を統合して「関心なし」とし、3 群化して分析対象とした。

1. 基本属性と特殊詐欺対策への関心のクロス分析

まずは、性別、年代別、65 歳以上同居家族の有無別、千葉県内 4 地域別に特殊詐欺対策への関心の有無を分析した。図表 15-1 にその結果を示した。

性別にみると、女性の方が関心ありとする回答比率がわずかに高い。関心ありという回答比率が、男性 39.5%、女性 45.1%と、5.6 ポイント女性の方が高かった。関心なしという回答比率は男性 11.8%、女性 10.9%と同水準であった。

年代別にみると、年代があがるほど関心ありという回答比率が高くなっていく傾向にあった。20 代、30 代では 3 割半程度、40 代、50 代では 4 割前後、60 代では 5 割が関心ありという回答であった。カイ二乗検定では 0.1%水準で有意な差であった。

65 歳以上同居家族の有無別の分析では、65 歳以上の同居家族がいる回答者の方が、特殊詐欺対策への関心のある割合が高かった。65 歳以上同居家族ありでは 48.1%が、いない場合には 39.6%であり、8.5 ポイントの差があった。

千葉県内 4 地域別の分析では、千葉市、東葛、内房、外房のいずれであっても関心ありという回答比率は 4 割程度であり、違いはみられなかった。カイ二乗検定においても有意な差はなかった。

図表 15-1 基本属性と特殊詐欺対策への関心のクロス分析

		関心あり	どちら でもない	関心なし	χ^2 値	p値	
性別	男性(n=6181)	39.5%	48.7%	11.8%	35.604	p<0.001	***
	女性(n=5145)	45.1%	44.0%	10.9%			
年代別	20-29歳(n=757)	35.9%	45.6%	18.5%	214.192	p<0.001	***
	30-39歳(n=1687)	35.2%	49.7%	15.1%			
	40-49歳(n=3259)	39.1%	48.8%	12.1%			
	50-59歳(n=3207)	42.5%	47.2%	10.3%			
	60-69歳(n=2416)	52.2%	40.6%	7.2%			
65歳以上 同居家族	なし(n=8106)	39.6%	47.8%	12.6%	82.624	p<0.001	***
	あり(n=3220)	48.1%	43.4%	8.5%			
地域別	千葉市(n=1900)	42.1%	46.6%	11.4%	8.710	0.191	
	東葛(n=6316)	41.4%	46.6%	12.0%			
	内房(n=2093)	43.4%	46.0%	10.6%			
	外房(n=1017)	43.3%	47.3%	9.4%			

***: $p < 0.001$

2. メディア接触と特殊詐欺対策への関心のクロス分析

ついで、メディア接触の有無別に特殊詐欺対策への関心の有無を分析した。図表 15-2 にその結果を示した。

新聞購読については、調査票 sq11 において「全国紙（朝日、読売、毎日、日経等）を購読している」かどうかと、「地元紙を購読している」かどうかを、「はい」「いいえ」の2件法でたずねた。全国紙か地元紙のどちらか一方でも購読していれば購読あり群とした。

関心ありという回答比率が、購読あり群では 50.4%、購読なし群では 36.0%であり、14.4 ポイントの差で購読あり群が高かった。カイ二乗検定においても 0.1%水準で有意な差であった。

テレビのニュース番組に関しては、番組名をあげて複数回答で視聴しているものをチェックする方法でたずねた。

夕方6時台のNHKのニュース番組（首都圏ニュース）についてみると、関心ありという回答比率が、視聴あり群で 55.9%、視聴なし群では 38.6%であった。視聴あり群野方が 17.3 ポイント高かった。カイ二乗検定においても 0.1%水準で有意な差であった。

夕方6時台の民放のニュース番組について、「民放のニュース番組（news every、スーパーJチャンネル、Nスタ、News イット！ など）」と番組名を例示してたずねた。関心ありという回答比率が、視聴あり群で 50.0%、視聴なし群では 36.7%であった。視聴あり群の方が 13.3 ポイント高かった。カイ二乗検定においても 0.1%水準で有意な差であった。

図表 15-2 メディア接触と特殊詐欺対策への関心のクロス分析

		関心あり	どちらでもない	関心なし	χ^2 値	p値	
新聞購読	購読なし (n=6542)	36.0%	50.2%	13.9%	263.987	p<0.001	***
	購読あり (n=4784)	50.4%	41.6%	8.0%			
NHK 首都圏ニュース	視聴なし (n=9086)	38.6%	49.1%	12.3%	223.661	p<0.001	***
	視聴あり (n=2240)	55.9%	36.3%	7.8%			
民放ニュース (news every, スーパーJ, Nスタ, News イット！等)	視聴なし (n=6769)	36.7%	50.4%	12.9%	200.986	p<0.001	***
	視聴あり (n=4557)	50.0%	40.8%	9.2%			

***: $p < 0.001$

以上の3つのクロス分析をみると、メディア接触は特殊詐欺対策への関心と関連しており、メディア接触していると関心が高い方向での関連であった。

なお、テレビニュースについてはここで取り上げた2種類以外に、夕方7時台のNHK「ニュース7」、夜9時から11時台のNHK「ニュースウォッチ9」、民放のニュース番組（news zero、報道ステーション、NEWS23、FNN Live News など）についても調査したが、同様の方向での関連がみられた。

3. 年代別かつ性別にみた新聞購読と特殊詐欺対策への関心のクロス分析

図表 15-1 でみたように、特殊詐欺対策への関心は、性別、年代別によって異なっていた。新聞やテレビニュースの視聴といったメディア接触のあり方も、性別や年齢によって異なっている可能性がある。また、テレビニュースの視聴は、そのニュースの放送時刻が決まっていることにかんがみると、雇用形態や生活時間などによってある程度限定されてしまうことが考えられる。

さらにいえば、テレビニュースの視聴は個人レベルの行動である場合も世帯構成員に共通する行動である場合の両方が考えられるが、新聞の購読についてはその世帯の行動とみなしてよいであろう。

そこで、新聞購読の有無をとりあげ、年代別かつ性別に、新聞購読の有無と特殊詐欺対策への関心についてクロス分析を行った。これによって、年代と性別の影響を除去した新聞購読の効果を析出することができる。分析結果を図表 15-3 に示した。

図表 15-3 年代別かつ性別にみた新聞購読と特殊詐欺対策への関心のクロス分析

		関心あり	どちらでもない	関心なし	χ^2 値	p値	
20代男性	購読なし (n=139)	28.8%	49.6%	21.6%	2.562	0.278	
	購読あり (n=54)	40.7%	40.7%	18.5%			
20代女性	購読なし (n=458)	34.9%	46.5%	18.6%	5.575	0.062	†
	購読あり (n=106)	47.2%	38.7%	14.2%			
30代男性	購読なし (n=492)	28.3%	53.3%	18.5%	24.447	0.000	***
	購読あり (n=188)	46.3%	45.7%	8.0%			
30代女性	購読なし (n=780)	32.3%	51.5%	16.2%	26.043	0.000	***
	購読あり (n=227)	50.7%	39.2%	10.1%			
40代男性	購読なし (n=1071)	32.0%	53.0%	14.9%	17.391	0.000	***
	購読あり (n=674)	41.5%	47.2%	11.3%			
40代女性	購読なし (n=995)	40.5%	48.1%	11.4%	8.350	0.015	*
	購読あり (n=519)	47.8%	43.7%	8.5%			
50代男性	購読なし (n=1005)	30.0%	55.9%	14.0%	54.398	0.000	***
	購読あり (n=948)	45.9%	45.1%	9.0%			
50代女性	購読なし (n=652)	44.9%	44.8%	10.3%	15.344	0.000	***
	購読あり (n=602)	55.1%	38.5%	6.3%			
60代男性	購読なし (n=621)	40.9%	48.8%	10.3%	32.405	0.000	***
	購読あり (n=989)	54.7%	39.4%	5.9%			
60代女性	購読なし (n=329)	50.5%	39.8%	9.7%	17.792	0.000	***
	購読あり (n=477)	62.9%	33.1%	4.0%			

***: $p < 0.001$ 、*: $p < 0.05$ 、†: $p < 0.1$

20代男性では、新聞購読と特殊詐欺対策への関心は有意な差を検出できなかった。関心ありの回答比率をみると、購読なし群では28.8%、購読あり群では40.7%となっており、購読あり群の方が11.9ポイント、関心のある割合が高い。ただ、購読あり群の人数が54人と少なく、統計的分析に耐えられなかったものと思える。

20代女性では、10%水準の有意傾向であった。関心ありの割合が、購読あり群で47.2%、購読なし群で34.9%となっており、購読あり群が12.3ポイント高かった。

30 代男性、30 代女性、40 代男性では、いずれもカイ二乗検定の結果 0.1%水準で有意な差がみられた。いずれも、購読あり群の方が特殊詐欺対策への関心があるという回答比率が高かった。購読あり群と購読なし群の差をみると、30 代男性では 18.0 ポイント、30 代女性では 18.4 ポイント、40 代男性では 9.5 ポイントの差であった。

40 代女性は、5 %水準で有意な差であった。関心があるという回答比率が購読なし群では 40.5%、購読あり群では 47.8%と、7.3 ポイントの差であった。

50 代男性、50 代女性、60 代男性、60 代女性ではいずれもカイ二乗検定の結果 0.1%水準で有意な差がみられた。いずれも、購読あり群の方が特殊詐欺対策への関心があるという回答比率が高かった。購読あり群と購読なし群の差をみると、50 代男性 15.9 ポイント、50 代女性 10.2 ポイント、60 代男性 13.8 ポイント、60 代女性 12.4 ポイントの差であった。

以上の分析結果からすると、年代と性別をコントロールしても、新聞の購読は特殊詐欺対策への関心を高める方向での関連であった。ただし、因果関係は、新聞購読が特殊詐欺対策への関心を高めているという因果と、逆に、特殊詐欺に限らず、社会問題への関心が強い人びとが新聞を購読しているという因果の両方が考えられる。本調査のデータからは因果の方向を特定することはできないということを付言しておく。

第 16 章 何が特殊詐欺対策への対策意図を規定しているか

東條文哉

本章では、特殊詐欺の対策のうち、何が対策意図を規定しているかについて探索的な分析をする。

特殊詐欺に対して何らかの対策意図のある人やない人、どちらでもない人に分けた場合、性別や世代など、属性によって関連があると考えた。

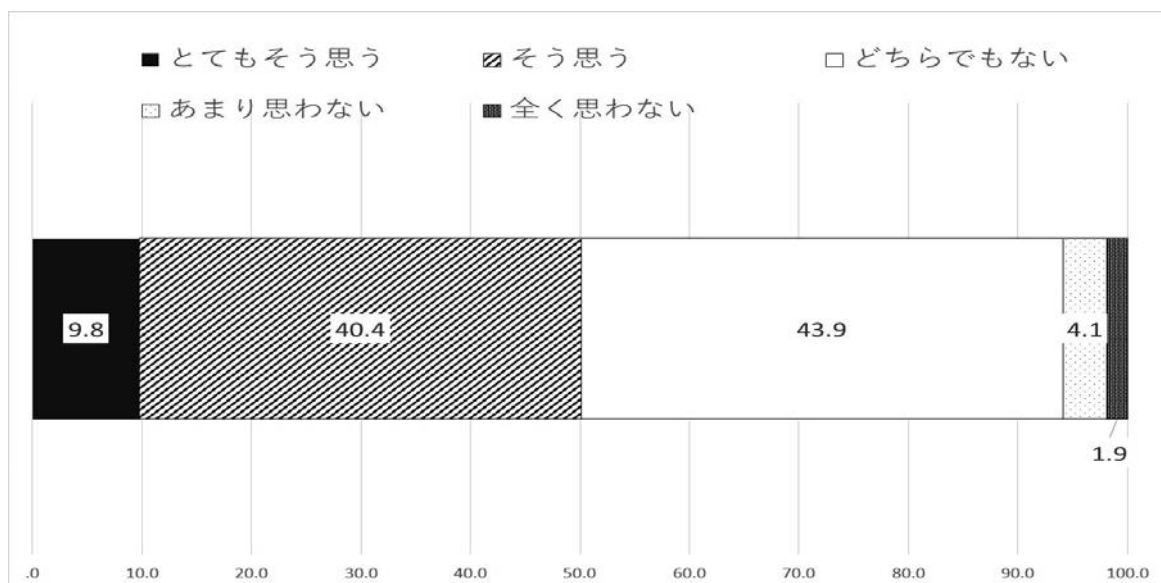
「特殊詐欺の対策意図の有無」を従属変数とした分析を行う。

1. 特殊詐欺対策意図の有無

特殊詐欺に関する対策の有無について尋ねた。尋ねた項目は以下の 1 項目である。また、以下が単純集計の結果である（図表 16-1）。

図表 16-1 特殊詐欺対策意図の単純集計（N=11326）（%）

SQ15_14 自分ができる対策を何か一つしようと思う



上図に示されているように、「自分ができる対策を何か一つしようと思う」という設問に対して、「とてもそう思う」が 9.8%、「そう思う」が 40.4%であった。回答者のおおむね半数が何らかの対策意図があるという回答であった。

「どちらでもない」という中間的な回答は 43.9%と 4 割程度であった。

「あまり思わない」は 4.1%、「全く思わない」は 1.9%であり、否定的な回答は 6%であった。

以下の分析では、「とてもそう思う」「そう思う」を「対策意図あり」に統合し、「あまり思わない」「まったく思わない」を「対策意図なし」に統合して従属変数とした。

2. 特殊詐欺対策意図のクロス分析

独立変数についての質問項目は、以下の9項目である。

- SC1 あなたの性別をお知らせください
- SC2 あなたの年齢をお知らせください
- SC3_1 あなたのお住まいの市区町村をお知らせください
- SC4 あなたは結婚していらっしゃいますか
- SQ7_1 あなたの子や孫を装った人間からの、様子を探ったり「お金が必要だ」などの電話
- SQ7_2 金融機関を装った人間からの「講座やキャッシュカードが悪用されている」などの電話
- SQ7_3 公的機関を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話
- SQ8_1 同居している、ご家族の人数（あなたを含めて）
- SQ8_3 同居している、65-74 歳の高齢者の人数（ご自身を含めて。いない場合は0と記入してください）
- SQ8_4 同居している、75 歳以上の高齢者の人数（いない場合は0と記入してください）

SC1 の質問は、「男性」「女性」の2件法。

SC2、SQ8_1、SQ8_3、SQ8_4 の質問は自由回答。

SC3_1 の質問は千葉県の市区町村すべてを列挙し、59 件法。

SC4 の質問は「既婚」「未婚」「離別・死別」の3件法。

SQ7_1、SQ7_2、SQ7_3 の質問は「なかった」「自分が受けた／対応した」「家族が受けた／対応した」「自分と家族の両方が受けた／対応した」の4件法で尋ねた。

分析では、SC2 の自由回答の項目で 20～29 歳を「20 代」、30～39 歳を「30 代」、40～49 歳を「40 代」、50～59 歳を「50 代」、60～69 歳を「60 代」と統合した。

SC3_1 の項目は1の千葉市中央区から6の千葉市美浜区までを「千葉市」、7の市川市から17の鎌ヶ谷市までを「東葛」、18の市原市から31の袖ヶ浦市までを「内房」、32の香取市から59の鋸南町までを「外房」とエリア別に統合した。

SQ7_1、SQ7_2、SQ7_3 の項目は「自分が受けた／対応した」「家族が受けた／対応した」「自分と家族の両方が受けた／対応した」を「前兆電話あり」と統合し、「なかった」を「前兆電話なし」とした。

SQ8_1 の自由回答の項目で「2」以上と答えた人を「2人以上」と統合し、「1」と答えた人を「単身」とした。

SQ8_3、SQ8_4 の自由回答の項目でいずれかに「1」以上で回答した人を「65 歳以上同居」と統合し、どちらも「0」と答えた人を「65 歳未満のみ」と統合した。

3. 特殊詐欺の対策の有無と属性のクロス集計

特殊詐欺対策意図の有無を従属変数、独立変数9項目のクロス集計を行った。以下がクロス集計の結果である（図表16-2）。

性別をみると、「対策意図あり」の構成比が男性43.4%、女性58.3%と、女性の方が高かった。

年代をみると、60代の「対策意図あり」の構成比が54.6%であり、より若い年代よりわずかに高かった。 χ^2 検定では0.1%水準で有意な差であった。

配偶者の有無別にみると、既婚と離死別の場合に、未婚よりも「対策意図あり」の構成比がわずかに高かった。

千葉県内のエリア別で対策意図の違いはみられなかった。統計的有意差もなかった。

世帯類型別にみると、「対策意図あり」の構成比が単身世帯43.4%、2人以上世帯51.6%と、2人以上世帯の方がやや高かった。

同居高齢者の有無別にみると、「対策意図あり」の構成比が65歳以上同居53.0%、65歳未満のみ49.0%と、65歳以上同居の方がわずかに高かった。

前兆電話の有無別にみると、「対策意図あり」の構成比が前兆電話あり54.0%、前兆電話なし49.9%と、前兆電話ありの方がわずかに高かった。 χ^2 検定では0.1%水準で有意な差であった。

図表16-2 特殊詐欺への対策意図を従属変数としたクロス集計

		対策意図あり	どちらでもない	対策意図なし	χ^2 値	p 値		
性別	男性	(n=6181)	43. 4%	49. 5%	7. 1%	250. 73	<. 001	***
	女性	(n=5145)	58. 3%	37. 2%	4. 5%			
年代	20代	(n=757)	50. 7%	40. 2%	9. 1%	57. 02	<. 001	***
	30代	(n=1687)	48. 3%	44. 3%	7. 4%			
	40代	(n=3259)	48. 5%	45. 1%	6. 4%			
	50代	(n=3207)	49. 3%	45. 7%	5. 1%			
	60代	(n=2416)	54. 6%	41. 0%	4. 4%			
配偶者の有無	未婚	(n=3270)	46. 2%	46. 7%	7. 2%	40. 24	<. 001	***
	既婚	(n=7210)	51. 8%	43. 1%	5. 2%			
	離死別	(n=846)	52. 0%	41. 0%	7. 0%			
千葉県内のエリア	千葉市	(n=1900)	50. 5%	43. 8%	5. 7%	0. 66	0. 996	—
	東葛	(n=6316)	50. 1%	43. 8%	6. 0%			
	内房	(n=2097)	49. 7%	44. 4%	5. 9%			
	外房	(n=1017)	50. 4%	43. 9%	5. 7%			
世帯	単身	(n=1993)	43. 4%	48. 1%	8. 5%	59. 31	<. 001	***
	2人以上	(n=9333)	51. 6%	43. 1%	5. 4%			
同居高齢者の有無	65歳以上同居	(n=3220)	53. 0%	42. 5%	4. 4%	26. 11	<. 001	***
	65歳未満のみ	(n=8106)	49. 0%	44. 5%	6. 5%			
前兆電話の有無	前兆電話あり	(n=600)	54. 0%	36. 5%	9. 5%	23. 60	<. 001	***
	前兆電話なし	(n=10726)	49. 9%	44. 4%	5. 7%			

***: $p < 0.001$

年代で 60 代のみ「対策意図あり」の構成比が高かった理由として、俗に言う「オレオレ詐欺」など、高齢者を対象とした特殊詐欺が知られていることが考えられる。

千葉県内のエリアでは違いがみられなかったが、違いがみられなかったということにも意味があり、千葉市や東葛は内房・外房に比べ都会と考えられるが、特殊詐欺の対策意図について地域差は無いという結果が得られた。

世帯で 2 人以上世帯の「対策意図あり」の構成比がやや高かったのは、ひとつには、年齢が交絡していることが考えられる。2 人以上世帯の方が世帯構成員の年齢が高いという可能性である。いまひとつは、2 人以上世帯である場合、自身の犯罪不安・犯罪リスク認知に加え、同居家族にかかる犯罪不安・犯罪リスク認知の効果があることが考えられる。自分以外の家族の存在が考えられ、自分は大丈夫だと思っているが自分以外の家族は特殊詐欺にかかるかもしれないといった不信感や不安感などが作用して約 8.2 ポイントもの違いが表れているのではないだろうか。

65 歳以上同居家族の有無別では、対策意図ありは 65 歳以上同居家族のいる場合 53.0%、いない場合 49.0%と 4 ポイントの違いしかなかった。 χ^2 検定では 0.1%水準で有意な差ではあるが、サンプルサイズの大きさから有意な結果となっているものと考えられる。65 歳以上同居家族の有無別ではあまり大きな違いはなかったとみるべきであろう。

前兆電話の有無別では、対策意図ありという構成比が前兆電話ありで 54.0%、前兆電話なしで 49.9%であった。前兆電話ありが 4.1 ポイント多かったが、対策意図なしという回答に注目すると、こちらも前兆電話ありが 3.8 ポイント多い。「どちらでもない」という回答をみると、前兆電話ありが 36.5%、前兆電話なしが 44.4%と、7.9 ポイント後者が多い。

以上の結果からすると、前兆電話を受けた経験は直線的に対策意図をもたらすというわけではなく、対策の必要性を感じさせない方向の効果もある可能性がある。「どちらでもない」という中間的な態度から、対策の必要性を感じさせる方向と、感じさせない方向の両方へ押しやる効果が示唆された。

基礎集計表

都道府県

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	千葉	11326	100.0	100.0	100.0

SC1 性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	6181	54.6	54.6	54.6
	女性	5145	45.4	45.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

地域

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	千葉	1900	16.8	16.8	16.8
	東葛	6316	55.8	55.8	72.5
	内房	2093	18.5	18.5	91.0
	外房	1017	9.0	9.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SC2 年齢

世代別	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
20代	757	6.7		6.7
30代	1687	14.9		21.6
40代	3259	28.8		50.4
50代	3207	28.3		78.7
60代	2416	21.3		100.0
合計	11326			

各年齢別	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 20.0	54	0.5	0.5	0.5
21.0	58	0.5	0.5	1.0
22.0	71	0.6	0.6	1.6
23.0	50	0.4	0.4	2.1
24.0	76	0.7	0.7	2.7
25.0	66	0.6	0.6	3.3
26.0	84	0.7	0.7	4.1
27.0	86	0.8	0.8	4.8
28.0	100	0.9	0.9	5.7
29.0	112	1.0	1.0	6.7
30.0	123	1.1	1.1	7.8
31.0	126	1.1	1.1	8.9
32.0	122	1.1	1.1	10.0
33.0	158	1.4	1.4	11.4
34.0	170	1.5	1.5	12.9
35.0	191	1.7	1.7	14.5
36.0	184	1.6	1.6	16.2
37.0	180	1.6	1.6	17.8
38.0	204	1.8	1.8	19.6
39.0	229	2.0	2.0	21.6
40.0	231	2.0	2.0	23.6
41.0	249	2.2	2.2	25.8
42.0	258	2.3	2.3	28.1
43.0	316	2.8	2.8	30.9
44.0	309	2.7	2.7	33.6
45.0	343	3.0	3.0	36.6
46.0	361	3.2	3.2	39.8
47.0	392	3.5	3.5	43.3
48.0	390	3.4	3.4	46.7
49.0	410	3.6	3.6	50.4
50.0	381	3.4	3.4	53.7
51.0	314	2.8	2.8	56.5
52.0	350	3.1	3.1	59.6

53.0	364	3.2	3.2	62.8
54.0	263	2.3	2.3	65.1
55.0	357	3.2	3.2	68.3
56.0	310	2.7	2.7	71.0
57.0	300	2.6	2.6	73.7
58.0	303	2.7	2.7	76.3
59.0	265	2.3	2.3	78.7
60.0	338	3.0	3.0	81.7
61.0	287	2.5	2.5	84.2
62.0	288	2.5	2.5	86.7
63.0	230	2.0	2.0	88.8
64.0	225	2.0	2.0	90.7
65.0	229	2.0	2.0	92.8
66.0	220	1.9	1.9	94.7
67.0	199	1.8	1.8	96.5
68.0	203	1.8	1.8	98.3
69.0	197	1.7	1.7	100.0
合計	11326	100.0	100.0	

SC3_1 市区町村

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	千葉市中央区	425	3.8	3.8
	千葉市花見川区	347	3.1	6.8
	千葉市稲毛区	326	2.9	9.7
	千葉市若葉区	264	2.3	12.0
	千葉市緑区	209	1.8	13.9
	千葉市美浜区	329	2.9	16.8
	市川市	1032	9.1	25.9
	船橋市	1333	11.8	37.7
	習志野市	381	3.4	41.0
	八千代市	402	3.5	44.6
	浦安市	374	3.3	47.9
	松戸市	983	8.7	56.6
	野田市	208	1.8	58.4
	柏市	822	7.3	65.6
	流山市	343	3.0	68.7
	我孫子市	243	2.1	70.8
	鎌ヶ谷市	195	1.7	72.5
	市原市	373	3.3	75.8
	成田市	222	2.0	77.8
	佐倉市	341	3.0	80.8
	四街道市	157	1.4	82.2
	八街市	91	0.8	83.0
	印西市	215	1.9	84.9
	白井市	117	1.0	85.9
	富里市	68	0.6	86.5
	酒々井町	27	0.2	86.8
	栄町	28	0.2	87.0
	木更津市	210	1.9	88.9
	君津市	97	0.9	89.7
	富津市	51	0.5	90.2
	袖ヶ浦市	96	0.8	91.0
	香取市	62	0.5	91.6
	神崎町	7	0.1	91.6
	多古町	12	0.1	91.7
	東庄町	7	0.1	91.8
	銚子市	75	0.7	92.5
	旭市	86	0.8	93.2
	匝瑳市	39	0.3	93.6
	東金市	100	0.9	94.4
	山武市	59	0.5	95.0

大網白里市	70	0.6	0.6	95.6
九十九里町	25	0.2	0.2	95.8
芝山町	5	0.0	0.0	95.9
横芝光町	19	0.2	0.2	96.0
茂原市	143	1.3	1.3	97.3
一宮町	9	0.1	0.1	97.4
睦沢町	2	0.0	0.0	97.4
長生村	20	0.2	0.2	97.6
白子町	10	0.1	0.1	97.6
長柄町	7	0.1	0.1	97.7
長南町	9	0.1	0.1	97.8
勝浦市	20	0.2	0.2	98.0
いすみ市	56	0.5	0.5	98.5
大多喜町	11	0.1	0.1	98.6
御宿町	16	0.1	0.1	98.7
館山市	55	0.5	0.5	99.2
鴨川市	40	0.4	0.4	99.5
南房総市	42	0.4	0.4	99.9
鋸南町	11	0.1	0.1	100.0
合計	11326	100.0	100.0	

SC4 未婚既婚

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 未婚	3270	28.9	28.9	28.9
既婚	7210	63.7	63.7	92.5
離別・死別	846	7.5	7.5	100.0
合計	11326	100.0	100.0	

SQ1 あなたは、同じ性別の同じ年代の人に比べて、以下のような犯罪の被害にあう可能性が高いと思いますか、低いと思いますか、それとも同じ程度でしょうか。
(それぞれひとつずつ)

SQ1_1 オレオレ詐欺(子や孫を装った人間の電話)でお金をだまし取られること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 とても低い	4744	41.9	41.9	41.9
低い	3347	29.6	29.6	71.4
同じ程度	2907	25.7	25.7	97.1
高い	219	1.9	1.9	99.0
とても高い	109	1.0	1.0	100.0
合計	11326	100.0	100.0	

SQ1_2 還付金等詐欺(役所を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話)

でお金をだまし取られること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 とても低い	4517	39.9	39.9	39.9
低い	3505	30.9	30.9	70.8
同じ程度	2937	25.9	25.9	96.8
高い	259	2.3	2.3	99.0
とても高い	108	1.0	1.0	100.0
合計	11326	100.0	100.0	

**SQ1_3 架空請求詐欺(スマートフォン・携帯電話のショートメール(SMS))で
お金をだまし取られること**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても低い	4153	36.7	36.7	36.7
	低い	3336	29.5	29.5	66.1
	同じ程度	3274	28.9	28.9	95.0
	高い	428	3.8	3.8	98.8
	とても高い	135	1.2	1.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ1_4 この項目は「高い」を選択してください

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても低い	438	3.9	3.9	3.9
	低い	320	2.8	2.8	6.7
	同じ程度	852	7.5	7.5	14.2
	高い	9092	80.3	80.3	94.5
	とても高い	624	5.5	5.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ1_5 自宅への泥棒(空き巣など)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても低い	1945	17.2	17.2	17.2
	低い	2615	23.1	23.1	40.3
	同じ程度	5867	51.8	51.8	92.1
	高い	735	6.5	6.5	98.6
	とても高い	164	1.4	1.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ1_6 自宅や自動車などが落書きされる・壊される

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても低い	2124	18.8	18.8	18.8
	低い	2481	21.9	21.9	40.7
	同じ程度	5712	50.4	50.4	91.1
	高い	788	7.0	7.0	98.0
	とても高い	221	2.0	2.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ1_7 自分の乗り物や持ち物が盗まれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても低い	1852	16.4	16.4	16.4
	低い	2513	22.2	22.2	38.5
	同じ程度	6031	53.2	53.2	91.8
	高い	726	6.4	6.4	98.2
	とても高い	204	1.8	1.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ1_8 屋外での犯罪(ひったくり、恐喝、ちかんなど)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても低い	2032	17.9	17.9	17.9
	低い	2756	24.3	24.3	42.3
	同じ程度	5770	50.9	50.9	93.2
	高い	603	5.3	5.3	98.5
	とても高い	165	1.5	1.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ1_9 生命にかかわる犯罪(殺人や放火、テロなど)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても低い	2463	21.7	21.7	21.7
	低い	2600	23.0	23.0	44.7
	同じ程度	5823	51.4	51.4	96.1
	高い	317	2.8	2.8	98.9
	とても高い	123	1.1	1.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ2 あなたは、特殊詐欺(オレオレ詐欺や還付金等詐欺、架空請求等)に関して、次の中で知っていることはありますか。(いくつでも)

子や孫を装った人間からの、様子を探ったり「お金が必要だ」などの電話があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	2113	18.7	18.7	18.7
	知っている	9213	81.3	81.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

自宅にキャッシュカードを取りに来るタイプの詐欺があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	3326	29.4	29.4	29.4
	知っている	8000	70.6	70.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

ありもしない架空の請求をハガキで送る詐欺があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	3736	33.0	33.0	33.0
	知っている	7590	67.0	67.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

スマートフォン・携帯電話のショートメール(SMS)を使った架空請求詐欺があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	3359	29.7	29.7	29.7
	知っている	7967	70.3	70.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

スマートフォン・携帯電話のショートメール(SMS)による架空請求詐欺を「スミッシング」ということ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	8047	71.0	71.0	71.0
	知っている	3279	29.0	29.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

架空請求詐欺は、どの年代でも被害にあう可能性があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	4022	35.5	35.5	35.5
	知っている	7304	64.5	64.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

詐欺は、心理学的な特徴につけ込んで行われていること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	4495	39.7	39.7	39.7
	知っている	6831	60.3	60.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

電話に出ると、犯人に騙されてしまうこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	6615	58.4	58.4	58.4
	知っている	4711	41.6	41.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

いったん犯人の言うことを信じて行動すると、その後自分で気づくのは難しいこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	5879	51.9	51.9	51.9
	知っている	5447	48.1	48.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

固定電話には、迷惑電話を防ぐための機能(自動通話録音など)があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	5708	50.4	50.4	50.4
	知っている	5618	49.6	49.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

特殊詐欺の被害を防ぐには、在宅時も留守番電話機能を使うとよいこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	5347	47.2	47.2	47.2
	知っている	5979	52.8	52.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

特殊詐欺を防ぐには、何か一つでも自主的に対策することが重要なこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	6913	61.0	61.0	61.0
	知っている	4413	39.0	39.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

誰かに相談できるようにしておくことが被害防止には重要なこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	5299	46.8	46.8	46.8
	知っている	6027	53.2	53.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

上記いずれも知らない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	9951	87.9	87.9	87.9
	知っている	1375	12.1	12.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ3 あなたは、防犯や防災に関して次のような広報や対策が行われていることを知っていますか。(いくつでも)

県・市町村など自治体の広報紙があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	5189	45.8	45.8	45.8
	知っている	6137	54.2	54.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察の広報紙(交番だより,県警だより)があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	6775	59.8	59.8	59.8
	知っている	4551	40.2	40.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察が、ツイッターで情報発信をしていること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	9405	83.0	83.0	83.0
	知っている	1921	17.0	17.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察が、メールで防犯情報を発信していること(ちば安全・安心メール)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	9000	79.5	79.5	79.5
	知っている	2326	20.5	20.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

市区町村によっては、特殊詐欺対策の電話機を購入すると、補助金が支給されること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	9904	87.4	87.4	87.4
	知っている	1422	12.6	12.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察や自治体で詐欺電話の通報を受け付けていること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	8157	72.0	72.0	72.0
	知っている	3169	28.0	28.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察・県のコールセンターが、高齢者の世帯に電話をかけていること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	10276	90.7	90.7	90.7
	知っている	1050	9.3	9.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察官が、特殊詐欺について、高齢者の世帯を訪問していること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	10236	90.4	90.4	90.4
	知っている	1090	9.6	9.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

千葉県では特殊詐欺のことを「電話de詐欺」と呼んで注意をよびかけていること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	8039	71.0	71.0	71.0
	知っている	3287	29.0	29.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

県内の小学校5年生から、祖父母などに対して、注意喚起のはがきを発送する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	10541	93.1	93.1	93.1
	知っている	785	6.9	6.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

上記いずれも知らない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	8277	73.1	73.1	73.1
	知っている	3049	26.9	26.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

**SQ4 過去の1年間に、特殊詐欺(オレオレ詐欺や還付金等詐欺、架空請求等)の注意
の
呼びかけで、実際に、あなたが見たり聞いたりしたものは何ですか。(いくつでも)**

県・市町村など自治体の広報紙

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	6538	57.7	57.7	57.7
	あてはまる	4788	42.3	42.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察の広報紙(交番だより、県警だより)など

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	9006	79.5	79.5	79.5
	あてはまる	2320	20.5	20.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察のツイート

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10885	96.1	96.1	96.1
	あてはまる	441	3.9	3.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察による防犯情報メール(ちば安全・安心メール)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10520	92.9	92.9	92.9
	あてはまる	806	7.1	7.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察のホームページ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10443	92.2	92.2	92.2
	あてはまる	883	7.8	7.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(千葉のみ)カクニンダーはがき

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	11093	97.9	97.9	97.9
	あてはまる	233	2.1	2.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

ATM(金融機関)の入出金画面

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	7822	69.1	69.1	69.1
	あてはまる	3504	30.9	30.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

チラシやパンフレット

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	9097	80.3	80.3	80.3
	あてはまる	2229	19.7	19.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

屋外の広告や交通広告

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	9383	82.8	82.8	82.8
	あてはまる	1943	17.2	17.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

テレビやラジオのCM、新聞・雑誌・ネットの広告

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	7419	65.5	65.5	65.5
	あてはまる	3907	34.5	34.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

テレビやラジオのニュース・番組(広告を除いてください)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	7588	67.0	67.0	67.0
	あてはまる	3738	33.0	33.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

新聞・雑誌・書籍(広告を除いてください)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10047	88.7	88.7	88.7
	あてはまる	1279	11.3	11.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

防災無線

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	8690	76.7	76.7	76.7
	あてはまる	2636	23.3	23.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

人から聞いた(ロコミ)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10059	88.8	88.8	88.8
	あてはまる	1267	11.2	11.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10919	96.4	96.4	96.4
	あてはまる	407	3.6	3.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

見たことや聞いたことはない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	9107	80.4	80.4	80.4
	あてはまる	2219	19.6	19.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ5 あなたは特殊詐欺の防止について、次のようなポスターを見たことはありますか。

共通1

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	見ていない	9153	80.8	80.8	80.8
	見た	2173	19.2	19.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

共通2

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	見ていない	9581	84.6	84.6	84.6
	見た	1745	15.4	15.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

千葉1

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	見ていない	10333	91.2	91.2	91.2
	見た	993	8.8	8.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

千葉2

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	見ていない	9716	85.8	85.8	85.8
	見た	1610	14.2	14.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

千葉3

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	見ていない	8081	71.3	71.3	71.3
	見た	3245	28.7	28.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

上記いずれも見なかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	見ていない	5440	48.0	48.0	48.0
	見た	5886	52.0	52.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ6 あなたは、過去1年間(または過去1か月間)に次のようなことはありましたか。
あてはまるもの全てを選んで下さい。(いくつでも)

(過去1年間に)自分用のスマートフォン・携帯電話を購入・買い替えた

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	8600	75.9	75.9	75.9
	あった	2726	24.1	24.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1年間に)自宅用の固定電話機を購入・買い替えた

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	11092	97.9	97.9	97.9
	あった	234	2.1	2.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1年間に)自分用のパソコンを購入した

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10315	91.1	91.1	91.1
	あった	1011	8.9	8.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)同居の家族と特殊詐欺について話した

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10222	90.3	90.3	90.3
	あった	1104	9.7	9.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)別居の家族・親せきと特殊詐欺について話した

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10761	95.0	95.0	95.0
	あった	565	5.0	5.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)隣近所の知り合いと特殊詐欺について話した

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	11097	98.0	98.0	98.0
	あった	229	2.0	2.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)相手を確認せずに電話に出たことがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	9316	82.3	82.3	82.3
	あった	2010	17.7	17.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)メールのタイトルを確認せずに中身を開けたことがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10752	94.9	94.9	94.9
	あった	574	5.1	5.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)リンク先をよく確認せずに、リンクを開いたことがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10802	95.4	95.4	95.4
	あった	524	4.6	4.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)窓を無施錠のまま、家族全員が外出したことがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10530	93.0	93.0	93.0
	あった	796	7.0	7.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

(過去1か月間に)玄関を無施錠のまま、家族全員が外出したことがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10908	96.3	96.3	96.3
	あった	418	3.7	3.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

上記いずれもない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	5921	52.3	52.3	52.3
	あった	5405	47.7	47.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ7 あなたのお宅では、過去1年間に、次のような、不審な連絡や、防犯対策についての働きかけを受けたことはありますか。(それぞれひとつずつ)

不審な連絡について

あなたの子や孫を装った人間からの、様子を探ったり「お金が必要だ」などの電話

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10881	96.1	96.1	96.1
	自分が受けた／対応した	157	1.4	1.4	97.5
	家族が受けた／対応した	229	2.0	2.0	99.5
	自分と家族の両方が受けた／対応した	59	0.5	0.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

金融機関を装った人間からの「口座やキャッシュカードが悪用されている」などの電話

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	11006	97.2	97.2	97.2
	自分が受けた／対応した	172	1.5	1.5	98.7
	家族が受けた／対応した	120	1.1	1.1	99.8
	自分と家族の両方が受けた／対応した	28	0.2	0.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

公的機関を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10973	96.9	96.9	96.9
	自分が受けた／対応した	180	1.6	1.6	98.5
	家族が受けた／対応した	127	1.1	1.1	99.6
	自分と家族の両方が受けた／対応した	46	0.4	0.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

あなたが覚えのない、未払い料金を要求するハガキ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10460	92.4	92.4	92.4
	自分が受けた／対応した	548	4.8	4.8	97.2
	家族が受けた／対応した	231	2.0	2.0	99.2
	自分と家族の両方が受けた／対応した	87	0.8	0.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

あなたが覚えのない、「料金が未納です」といった不審な電子メールやメッセージ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	8870	78.3	78.3	78.3
	自分が受けた／対応した	2025	17.9	17.9	96.2
	家族が受けた／対応した	193	1.7	1.7	97.9
	自分と家族の両方が受けた／対応した	238	2.1	2.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

しつこいセールス電話

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	9041	79.8	79.8	79.8
	自分が受けた／対応した	1590	14.0	14.0	93.9
	家族が受けた／対応した	395	3.5	3.5	97.4
	自分と家族の両方が受けた／対応した	300	2.6	2.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

防犯対策について

警察・県の特設詐欺対策コールセンターから電話があった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10747	94.9	94.9	94.9
	自分が受けた／対応した	325	2.9	2.9	97.8
	家族が受けた／対応した	188	1.7	1.7	99.4
	自分と家族の両方が受けた／対応した	66	0.6	0.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

特殊詐欺被害を呼び掛けるために警察官が訪問してきた

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10850	95.8	95.8	95.8
	自分が受けた／対応した	279	2.5	2.5	98.3
	家族が受けた／対応した	152	1.3	1.3	99.6
	自分と家族の両方が受けた／対応した	45	0.4	0.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

特殊詐欺についての講演会や防犯教室に出席した

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	11036	97.4	97.4	97.4
	自分が受けた／対応した	132	1.2	1.2	98.6
	家族が受けた／対応した	121	1.1	1.1	99.7
	自分と家族の両方が受けた／対応した	37	0.3	0.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

特殊詐欺の被害を呼び掛けるイベントに参加した／通りかかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なかった	10973	96.9	96.9	96.9
	自分が受けた／対応した	194	1.7	1.7	98.6
	家族が受けた／対応した	107	0.9	0.9	99.5
	自分と家族の両方が受けた／対応した	52	0.5	0.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ8 ご家族とお住まいについてお聞きます。
以下にあてはまる数字・文字をご記入ください。

同居している、ご家族の人数(あなたを含めて)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1人	1993	17.6	17.6	17.6
	2人	3380	29.8	29.8	47.4
	3人	3038	26.8	26.8	74.3
	4人	2144	18.9	18.9	93.2
	5人	549	4.8	4.8	98.0
	6人	146	1.3	1.3	99.3
	7人	35	0.3	0.3	99.6
	8人	12	0.1	0.1	99.7
	9人	3	0.0	0.0	99.8
	10人以上	26	0.2	0.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	100.0

世帯人員

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	単身世帯	1993	17.6	17.6	17.6
	2名世帯	3380	29.8	29.8	47.4
	3名以上世帯	5953	52.6	52.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

同居している、高校生以下の子ども的人数(いない場合は0と記入してください)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0人	8629	76.2	76.2	76.2
	1人	1430	12.6	12.6	88.8
	2人	1025	9.0	9.0	97.9
	3人	218	1.9	1.9	99.8
	4人	20	0.2	0.2	100.0
	5人	3	0.0	0.0	100.0
	7人	1	0.0	0.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

同居している、65-74歳の高齢者的人数
(ご自分を含めて。いない場合は0と記入してください)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0人	9094	80.3	80.3	80.3
	1人	1351	11.9	11.9	92.2
	2人	870	7.7	7.7	99.9
	3人	10	0.1	0.1	100.0
	4人	1	0.0	0.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

同居している、75歳以上の高齢者的人数(いない場合は0と記入してください)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0人	10008	88.4	88.4	88.4
	1人	945	8.3	8.3	96.7
	2人	371	3.3	3.3	100.0
	3人	1	0.0	0.0	100.0
	4人	1	0.0	0.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

現在のお住まいに住まわれてからの年数(四捨五入してご記入ください。半年未満は0年としてください)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	5年未満	2540	22.4	22.4	22.4
	5～9年	1640	14.5	14.5	36.9
	10～19年	2915	25.7	25.7	62.6
	20～29年	2383	21.0	21.0	83.7
	30年以上	1848	16.3	16.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	100.0

SQ9 次の質問に「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれひとつずつ)

持ち家に住んでいる(分譲マンションを含む、家族所有も可)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	3589	31.7	31.7	31.7
	はい	7737	68.3	68.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

一戸建てに住んでいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	5229	46.2	46.2	46.2
	はい	6097	53.8	53.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

自宅には固定電話機がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	3515	31.0	31.0	31.0
	はい	7811	69.0	69.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

個人使用のスマートフォン・携帯電話を持っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	560	4.9	4.9	4.9
	はい	10766	95.1	95.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

個人使用のパソコンを持っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	2834	25.0	25.0	25.0
	はい	8492	75.0	75.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

高校を卒業している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	536	4.7	4.7	4.7
	はい	10790	95.3	95.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

短大・高専、専門学校を卒業している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	7721	68.2	68.2	68.2
	はい	3605	31.8	31.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

大学・大学院を卒業している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	5944	52.5	52.5	52.5
	はい	5382	47.5	47.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

就業状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非就業	3293	29.1	29.1	29.1
	パートタイム	1850	16.3	16.3	45.4
	フルタイム	6183	54.6	54.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

現在、フルタイムで仕事をしている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	5143	45.4	45.4	45.4
	はい	6183	54.6	54.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

現在、パートタイムで仕事をしている(アルバイトを含む)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	9220	81.4	81.4	81.4
	はい	2106	18.6	18.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

自治会・町内会に加入している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	5154	45.5	45.5	45.5
	はい	6172	54.5	54.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

地域のスポーツ団体、ボランティア団体などに参加している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	10320	91.1	91.1	91.1
	はい	1006	8.9	8.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

近隣の小中学生がどこの子どもか知っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	8852	78.2	78.2	78.2
	はい	2474	21.8	21.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ10 あなたのご自宅の固定電話では、現在、次のような機能を使っていますか。
(それぞれひとつずつ)

ナンバーディスプレイ機能

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	機能がついていない、機能がついてい るかどうか分からない	2536	22.4	32.5	32.5
	機能があるのは知っ ているが、使ったこと はない	1057	9.3	13.5	46.0
	昔使ったことはある が、今は使っていな い	521	4.6	6.7	52.7
	現在、使っている	3697	32.6	47.3	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

着信拒否機能や自動録音機能などの迷惑電話防止機能

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	機能がついていない、機能がついてい るかどうか分からない	3597	31.8	46.1	46.1
	機能があるのは知っ ているが、使ったこと はない	1391	12.3	17.8	63.9
	昔使ったことはある が、今は使っていな い	424	3.7	5.4	69.3
	現在、使っている	2399	21.2	30.7	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

留守番電話機能を使って、外出時にかかってきたメッセージを確認する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	機能がついていない、機能がついていないかどうか分からない	1990	17.6	25.5	25.5
	機能があるのは知っているが、使ったことはない	1019	9.0	13.0	38.5
	昔使ったことはあるが、今は使っていない	696	6.1	8.9	47.4
	現在、使っている	4106	36.3	52.6	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

留守番電話機能を使って、在宅時にかかってきた電話の相手を確認してから電話に出る

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	機能がついていない、機能がついていないかどうか分からない	2293	20.2	29.4	29.4
	機能があるのは知っているが、使ったことはない	1402	12.4	17.9	47.3
	昔使ったことはあるが、今は使っていない	657	5.8	8.4	55.7
	現在、使っている	3459	30.5	44.3	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

SQ11 次の質問に「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれひとつずつ)

自宅の固定電話について

在宅時にかかってきた電話は、自分が取ることが多い

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	はい	3973	35.1	50.9	50.9
	いいえ	3838	33.9	49.1	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

留守番電話機能を使って、外出時にかかってきたメッセージを確認している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	はい	4499	39.7	57.6	57.6
	いいえ	3312	29.2	42.4	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

留守番電話機能を使って、在宅時にかかってきた電話の相手を確認してから電話に出ている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	はい	3780	33.4	48.4	48.4
	いいえ	4031	35.6	51.6	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

電話の近くに特殊詐欺対策のチラシなどを貼っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	7105	62.7	91.0	91.0
	はい	706	6.2	9.0	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

着信拒否機能や自動録音機能などの迷惑電話防止機能を使っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	5450	48.1	69.8	69.8
	はい	2361	20.8	30.2	100.0
	合計	7811	69.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	3515	31.0		
合計		11326	100.0		

スマートフォンや携帯電話について

電話をするときは、固定電話よりもスマートフォン・携帯電話の方が多い

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	1765	15.6	23.4	23.4
	はい	5767	50.9	76.6	100.0
	合計	7532	66.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	3794	33.5		
合計		11326	100.0		

パソコンにはウィルス対策ソフトをインストールしている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	1244	11.0	14.6	14.6
	はい	7248	64.0	85.4	100.0
	合計	8492	75.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	2834	25.0		
合計		11326	100.0		

メッセージの差出人は確認するようにしている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	827	7.3	7.7	7.7
	はい	9939	87.8	92.3	100.0
	合計	10766	95.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	560	4.9		
合計		11326	100.0		

メッセージの中のリンクはすぐには開かないようにしている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	1109	9.8	10.3	10.3
	はい	9657	85.3	89.7	100.0
	合計	10766	95.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	560	4.9		
合計		11326	100.0		

身に覚えのないメッセージは、無視するようにしている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	718	6.3	6.7	6.7
	はい	10048	88.7	93.3	100.0
	合計	10766	95.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	560	4.9		
合計		11326	100.0		

ネットや新聞,日常生活について

日常的にtwitterを利用している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	8186	72.3	72.3	72.3
	はい	3140	27.7	27.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

日常的にFacebookを利用している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	9049	79.9	79.9	79.9
	はい	2277	20.1	20.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

日常的にLINEを利用している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	3594	31.7	31.7	31.7
	はい	7732	68.3	68.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

全国紙(朝日、読売、毎日、日経等)を購読している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	6918	61.1	61.1	61.1
	はい	4408	38.9	38.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

地元紙を購読している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	10415	92.0	92.0	92.0
	はい	911	8.0	8.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ12 あなたはふだん、次の時間帯に次のテレビ番組を見ていますか。(いくつでも)

夕方6時台

NHKのニュース番組(首都圏ニュース、ほっと関西など)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	9086	80.2	80.2	80.2
	はい	2240	19.8	19.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

民放のニュース番組

(news every、スーパーJチャンネル、Nスタ、News イット! など)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	6769	59.8	59.8	59.8
	はい	4557	40.2	40.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

夕方7時台

NHK(1ch)「ニュース7」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	8867	78.3	78.3	78.3
	はい	2459	21.7	21.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

夜9-11時台

NHK(1ch)「ニュースウオッチ9」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	8917	78.7	78.7	78.7
	はい	2409	21.3	21.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

民放のニュース番組
(news zero、報道ステーション、NEWS23、FNN Live Newsなど)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	6942	61.3	61.3	61.3
	はい	4384	38.7	38.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

上記いずれも見していない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	7860	69.4	69.4	69.4
	はい	3466	30.6	30.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ13 それでは、11月18日(水)には、次のテレビ番組を見ましたか。(いくつでも)

夕方6時台

NHKのニュース番組(首都圏ニュース、ほっと関西など)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	9848	87.0	87.0	87.0
	はい	1478	13.0	13.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

民放のニュース番組(news every、スーパーJチャンネル、Nスタ、News イット！など)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	.0	7795	68.8	68.8	68.8
	1.0	3531	31.2	31.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

夕方7時台

NHK(1ch)「ニュース7」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	9557	84.4	84.4	84.4
	はい	1769	15.6	15.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

夜9-11時台

NHK(1ch)「ニュースウオッチ9」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	9719	85.8	85.8	85.8
	はい	1607	14.2	14.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

民放のニュース番組(news zero、報道ステーション、NEWS23、FNN Live Newsなど)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	7867	69.5	69.5	69.5
	はい	3459	30.5	30.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

上記いずれも見っていない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	6709	59.2	59.2	59.2
	はい	4617	40.8	40.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ14 あなたは、次のことについてどのようにお考えでしょうか。それぞれについて、あてはまるものをお選びください。(それぞれひとつずつ)

お住まいの地区や自治会について
この地区の住民は、考え方や暮らしぶりが似ている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	610	5.4	5.4	5.4
	あまり思わない	1371	12.1	12.1	17.5
	どちらでもない	6552	57.8	57.8	75.3
	そう思う	2414	21.3	21.3	96.7
	とてもそう思う	379	3.3	3.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

この地区の住民は、みなお互い顔見知りだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	1364	12.0	12.0	12.0
	あまり思わない	2502	22.1	22.1	34.1
	どちらでもない	4722	41.7	41.7	75.8
	そう思う	2326	20.5	20.5	96.4
	とてもそう思う	412	3.6	3.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

この地区の住民は、お互いに良い関係を保っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	640	5.7	5.7	5.7
	あまり思わない	1238	10.9	10.9	16.6
	どちらでもない	6320	55.8	55.8	72.4
	そう思う	2772	24.5	24.5	96.9
	とてもそう思う	356	3.1	3.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

この地区で問題が起きても、住民で解決できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	893	7.9	7.9	7.9
	あまり思わない	2035	18.0	18.0	25.9
	どちらでもない	6443	56.9	56.9	82.7
	そう思う	1697	15.0	15.0	97.7
	とてもそう思う	258	2.3	2.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

災害が起きた時には、近所の人は団結して行動するだろう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	626	5.5	5.5	5.5
	あまり思わない	1431	12.6	12.6	18.2
	どちらでもない	5512	48.7	48.7	66.8
	そう思う	3296	29.1	29.1	95.9
	とてもそう思う	461	4.1	4.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

犯罪を見かけたら、近所の人は警察に通報するだろう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	370	3.3	3.3	3.3
	あまり思わない	678	6.0	6.0	9.3
	どちらでもない	4581	40.4	40.4	49.7
	そう思う	4852	42.8	42.8	92.5
	とてもそう思う	845	7.5	7.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

困っている子供を見かけたら、近所の人はその子を助けるだろう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	388	3.4	3.4	3.4
	あまり思わない	695	6.1	6.1	9.6
	どちらでもない	4808	42.5	42.5	52.0
	そう思う	4698	41.5	41.5	93.5
	とてもそう思う	737	6.5	6.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

ほとんどの人は、信頼できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	820	7.2	7.2	7.2
	あまり思わない	1363	12.0	12.0	19.3
	どちらでもない	5758	50.8	50.8	70.1
	そう思う	2997	26.5	26.5	96.6
	とてもそう思う	388	3.4	3.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

警察官は信頼できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	603	5.3	5.3	5.3
	あまり思わない	1011	8.9	8.9	14.3
	どちらでもない	5228	46.2	46.2	60.4
	そう思う	3842	33.9	33.9	94.3
	とてもそう思う	642	5.7	5.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

あなたの関心について

防災対策(地震や洪水)に関心があるほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	349	3.1	3.1	3.1
	あまり思わない	866	7.6	7.6	10.7
	どちらでもない	4570	40.3	40.3	51.1
	そう思う	4553	40.2	40.2	91.3
	とてもそう思う	988	8.7	8.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

防犯対策(特殊詐欺)に関心があるほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	360	3.2	3.2	3.2
	あまり思わない	932	8.2	8.2	11.4
	どちらでもない	5272	46.5	46.5	58.0
	そう思う	3997	35.3	35.3	93.2
	とてもそう思う	765	6.8	6.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

ニュースや新聞はよく見ているほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	430	3.8	3.8	3.8
	あまり思わない	916	8.1	8.1	11.9
	どちらでもない	4105	36.2	36.2	48.1
	そう思う	4422	39.0	39.0	87.2
	とてもそう思う	1453	12.8	12.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

自治体の広報紙はよく読んでいるほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	1154	10.2	10.2	10.2
	あまり思わない	1784	15.8	15.8	25.9
	どちらでもない	4720	41.7	41.7	67.6
	そう思う	2944	26.0	26.0	93.6
	とてもそう思う	724	6.4	6.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

あなたの物事の決め方について

高い買い物や契約のときでも、細かい内容まで確認するのは苦手なほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	1011	8.9	8.9	8.9
	あまり思わない	2477	21.9	21.9	30.8
	どちらでもない	4642	41.0	41.0	71.8
	そう思う	2616	23.1	23.1	94.9
	とてもそう思う	580	5.1	5.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

判断が難しいことは我慢せずにすぐに決めてしまいたいほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	1125	9.9	9.9	9.9
	あまり思わない	2898	25.6	25.6	35.5
	どちらでもない	5304	46.8	46.8	82.4
	そう思う	1665	14.7	14.7	97.1
	とてもそう思う	334	2.9	2.9	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

理屈で考えるよりも直感や経験によって行動するほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	812	7.2	7.2	7.2
	あまり思わない	2304	20.3	20.3	27.5
	どちらでもない	5684	50.2	50.2	77.7
	そう思う	2124	18.8	18.8	96.5
	とてもそう思う	402	3.5	3.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

SQ15 特殊詐欺に関する次のような意見に対して、あなたは、どう思いますか。
それぞれの項目について、あてはまるものをお選びください。(それぞれひとつずつ)

私も詐欺の被害にあうかもしれない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	752	6.6	6.6	6.6
	あまり思わない	2094	18.5	18.5	25.1
	どちらでもない	3908	34.5	34.5	59.6
	そう思う	3924	34.6	34.6	94.3
	とてもそう思う	648	5.7	5.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

気をつけていても、だまされてしまう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	626	5.5	5.5	5.5
	あまり思わない	1895	16.7	16.7	22.3
	どちらでもない	4080	36.0	36.0	58.3
	そう思う	4094	36.1	36.1	94.4
	とてもそう思う	631	5.6	5.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

詐欺でお金を取られたら、大変なことになる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	219	1.9	1.9	1.9
	あまり思わない	363	3.2	3.2	5.1
	どちらでもない	2194	19.4	19.4	24.5
	そう思う	4617	40.8	40.8	65.3
	とてもそう思う	3933	34.7	34.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

被害にあわないよう対策をするのは良いことだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	179	1.6	1.6	1.6
	あまり思わない	263	2.3	2.3	3.9
	どちらでもない	2072	18.3	18.3	22.2
	そう思う	4567	40.3	40.3	62.5
	とてもそう思う	4245	37.5	37.5	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

私の大事な人も、私が対策をすることを望んでいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	288	2.5	2.5	2.5
	あまり思わない	394	3.5	3.5	6.0
	どちらでもない	4125	36.4	36.4	42.4
	そう思う	4362	38.5	38.5	81.0
	とてもそう思う	2157	19.0	19.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

対策をするかしないかは、私が決めることができる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	228	2.0	2.0	2.0
	あまり思わない	464	4.1	4.1	6.1
	どちらでもない	3590	31.7	31.7	37.8
	そう思う	4701	41.5	41.5	79.3
	とてもそう思う	2343	20.7	20.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

私は詐欺の手口について、よく知っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	424	3.7	3.7	3.7
	あまり思わない	1551	13.7	13.7	17.4
	どちらでもない	5939	52.4	52.4	69.9
	そう思う	2734	24.1	24.1	94.0
	とてもそう思う	678	6.0	6.0	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

詐欺電話がかかってきても、私は撃退できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	339	3.0	3.0	3.0
	あまり思わない	967	8.5	8.5	11.5
	どちらでもない	5577	49.2	49.2	60.8
	そう思う	3355	29.6	29.6	90.4
	とてもそう思う	1088	9.6	9.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

私は気をつけているので、詐欺の被害にあわない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	514	4.5	4.5	4.5
	あまり思わない	1573	13.9	13.9	18.4
	どちらでもない	6024	53.2	53.2	71.6
	そう思う	2504	22.1	22.1	93.7
	とてもそう思う	711	6.3	6.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

自分の家には詐欺の電話はかかってこない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	1352	11.9	11.9	11.9
	あまり思わない	2572	22.7	22.7	34.6
	どちらでもない	5428	47.9	47.9	82.6
	そう思う	1385	12.2	12.2	94.8
	とてもそう思う	589	5.2	5.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

対策をしてもしなくても、どのみち詐欺の被害にはあわない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	1058	9.3	9.3	9.3
	あまり思わない	3022	26.7	26.7	36.0
	どちらでもない	5791	51.1	51.1	87.2
	そう思う	1095	9.7	9.7	96.8
	とてもそう思う	360	3.2	3.2	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

忙しくて詐欺の対策をする余裕はない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	914	8.1	8.1	8.1
	あまり思わない	2826	25.0	25.0	33.0
	どちらでもない	5877	51.9	51.9	84.9
	そう思う	1404	12.4	12.4	97.3
	とてもそう思う	305	2.7	2.7	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

親しい人であってもお金の話(相談)はできない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	350	3.1	3.1	3.1
	あまり思わない	1030	9.1	9.1	12.2
	どちらでもない	4541	40.1	40.1	52.3
	そう思う	3891	34.4	34.4	86.6
	とてもそう思う	1514	13.4	13.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

自分ができる対策を何か一つしようと思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	210	1.9	1.9	1.9
	あまり思わない	460	4.1	4.1	5.9
	どちらでもない	4976	43.9	43.9	49.8
	そう思う	4573	40.4	40.4	90.2
	とてもそう思う	1107	9.8	9.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

メールのメッセージの差出人は必ず確認しようと思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	168	1.5	1.5	1.5
	あまり思わない	277	2.4	2.4	3.9
	どちらでもない	2557	22.6	22.6	26.5
	そう思う	4802	42.4	42.4	68.9
	とてもそう思う	3522	31.1	31.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

メールのメッセージの中のリンクはすぐに関ないようにしようと思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	156	1.4	1.4	1.4
	あまり思わない	237	2.1	2.1	3.5
	どちらでもない	2509	22.2	22.2	25.6
	そう思う	4397	38.8	38.8	64.4
	とてもそう思う	4027	35.6	35.6	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

身に覚えのないメッセージは無視しようと思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	143	1.3	1.3	1.3
	あまり思わない	230	2.0	2.0	3.3
	どちらでもない	2311	20.4	20.4	23.7
	そう思う	4191	37.0	37.0	60.7
	とてもそう思う	4451	39.3	39.3	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

不審な電話やはがき、メールが来たら無視しようと思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	150	1.3	1.3	1.3
	あまり思わない	223	2.0	2.0	3.3
	どちらでもない	2378	21.0	21.0	24.3
	そう思う	4224	37.3	37.3	61.6
	とてもそう思う	4351	38.4	38.4	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

普段から相談できる相手を作っておこうと思う

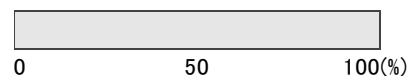
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	235	2.1	2.1	2.1
	あまり思わない	404	3.6	3.6	5.6
	どちらでもない	4139	36.5	36.5	42.2
	そう思う	4536	40.0	40.0	82.2
	とてもそう思う	2012	17.8	17.8	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

不審な連絡が来たら誰かに相談しようと思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く思わない	234	2.1	2.1	2.1
	あまり思わない	415	3.7	3.7	5.7
	どちらでもない	3670	32.4	32.4	38.1
	そう思う	4726	41.7	41.7	79.9
	とてもそう思う	2281	20.1	20.1	100.0
	合計	11326	100.0	100.0	

調 査 画 面

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SC1
あなたの性別をお知らせください。

- 1 ☐ 男性
- 2 ☐ 女性

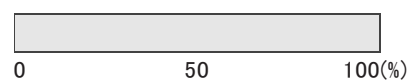
SC2
あなたの年齢をお知らせください。

歳

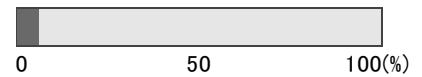
SC3
あなたのお住まい(都道府県)をお知らせください。

--- ▼

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



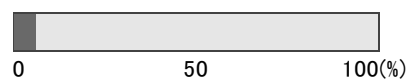
SC3_1

あなたのお住まいの市区町村をお知らせください。

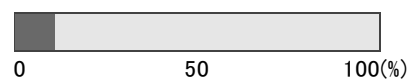
- 1 ☐ 千葉市中央区
- 2 ☐ 千葉市花見川区
- 3 ☐ 千葉市稲毛区
- 4 ☐ 千葉市若葉区
- 5 ☐ 千葉市緑区
- 6 ☐ 千葉市美浜区
- 7 ☐ 市川市
- 8 ☐ 船橋市
- 9 ☐ 習志野市
- 10 ☐ 八千代市
- 11 ☐ 浦安市
- 12 ☐ 松戸市
- 13 ☐ 野田市
- 14 ☐ 柏市
- 15 ☐ 流山市
- 16 ☐ 我孫子市
- 17 ☐ 鎌ヶ谷市
- 18 ☐ 市原市
- 19 ☐ 成田市
- 20 ☐ 佐倉市
- 21 ☐ 四街道市
- 22 ☐ 八街市
- 23 ☐ 印西市
- 24 ☐ 白井市
- 25 ☐ 富里市
- 26 ☐ 酒々井町
- 27 ☐ 栄町
- 28 ☐ 木更津市
- 29 ☐ 君津市
- 30 ☐ 富津市
- 31 ☐ 袖ヶ浦市

- 32 ○ 香取市
- 33 ○ 神崎町
- 34 ○ 多古町
- 35 ○ 東庄町
- 36 ○ 銚子市
- 37 ○ 旭市
- 38 ○ 匝瑳市
- 39 ○ 東金市
- 40 ○ 山武市
- 41 ○ 大網白里市
- 42 ○ 九十九里町
- 43 ○ 芝山町
- 44 ○ 横芝光町
- 45 ○ 茂原市
- 46 ○ 一宮町
- 47 ○ 睦沢町
- 48 ○ 長生村
- 49 ○ 白子町
- 50 ○ 長柄町
- 51 ○ 長南町
- 52 ○ 勝浦市
- 53 ○ いすみ市
- 54 ○ 大多喜町
- 55 ○ 御宿町
- 56 ○ 館山市
- 57 ○ 鴨川市
- 58 ○ 南房総市
- 59 ○ 鋸南町

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

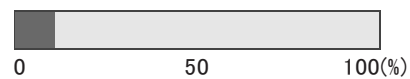


SC4

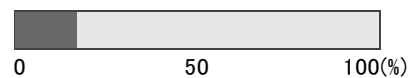
あなたは結婚していच्छやいますか。

- 1 ☐ 未婚
- 2 ☐ 既婚
- 3 ☐ 離別・死別

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

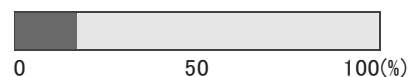


SQ1

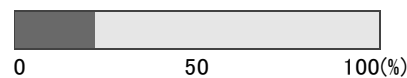
あなたは、同じ性別の同じ年代の人に比べて、以下のような犯罪の被害にあう可能性が高いと思いますか、低いと思いますか、それとも同じ程度でしょうか。(それぞれひとつずつ)

 回答方向		とても低い	低い	同じ程度	高い	とても高い
1	オレオレ詐欺(子や孫を装った人間の電話)でお金をだまし取られること	1○	2○	3○	4○	5○
2	還付金等詐欺(役所を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話)でお金をだまし取られること	1○	2○	3○	4○	5○
3	架空請求詐欺(スマートフォン・携帯電話のショートメール(SMS))でお金をだまし取られること	1○	2○	3○	4○	5○
4	この項目は「高い」を選択してください	1○	2○	3○	4○	5○
5	自宅への泥棒(空き巣など)	1○	2○	3○	4○	5○
6	自宅や自動車などが落書きされる・壊される	1○	2○	3○	4○	5○
7	自分の乗り物や持ち物が盗まれる	1○	2○	3○	4○	5○
8	屋外での犯罪(ひったくり、恐喝、ちかんなど)	1○	2○	3○	4○	5○
9	生命にかかわる犯罪(殺人や放火、テロなど)	1○	2○	3○	4○	5○

次へ



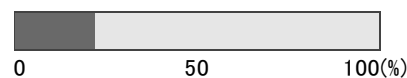
※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

**SQ2**

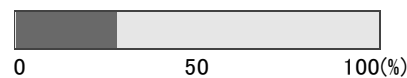
あなたは、特殊詐欺(オレオレ詐欺や還付金等詐欺、架空請求等)に関して、次の中で知っていることはありますか。(いくつでも)

- 1 ☐ 子や孫を装った人間からの、様子を探ったり「お金が必要だ」などの電話があること
- 2 ☐ 自宅にキャッシュカードを取りに来るタイプの詐欺があること
- 3 ☐ ありもしない架空の請求をハガキで送る詐欺があること
- 4 ☐ スマートフォン・携帯電話のショートメール(SMS)を使った架空請求詐欺があること
- 5 ☐ スマートフォン・携帯電話のショートメール(SMS)による架空請求詐欺を「スミッシング」ということ
- 6 ☐ 架空請求詐欺は、どの年代でも被害にあう可能性があること
- 7 ☐ 詐欺は、心理学的な特徴につけ込んで行われていること
- 8 ☐ 電話に出ると、犯人に騙されてしまうこと
- 9 ☐ いったん犯人の言うことを信じて行動すると、その後自分で気づくのは難しいこと
- 10 ☐ 固定電話には、迷惑電話を防ぐための機能(自動通話録音など)があること
- 11 ☐ 特殊詐欺の被害を防ぐには、在宅時も留守番電話機能を使うとよいこと
- 12 ☐ 特殊詐欺を防ぐには、何か一つでも自主的に対策することが重要なこと
- 13 ☐ 誰かに相談できるようにしておくことが被害防止には重要なこと
- 14 ☐ 上記いずれも知らない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

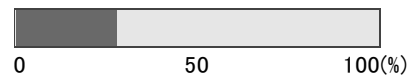


SQ3

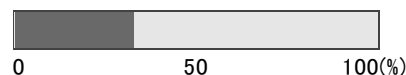
あなたは、防犯や防災に関して次のような広報や対策が行われていることを知っていますか。(いくつでも)

- 1 ☐ 県・市町村など自治体の広報紙があること
- 2 ☐ 警察の広報紙(交番だより, 県警だより)があること
- 3 ☐ 警察が、ツイッターで情報発信をしていること
- 4 ☐ 警察が、メールで防犯情報を発信していること(やまがた110ネットワーク)
- 5 ☐ 警察が、メールで防犯情報を発信していること(ちば安全・安心メール)
- 6 ☐ 県・警察が、メールで防犯情報を発信していること(しらがメール、けいたくん防犯・交通安全情報)
- 7 ☐ 県・警察が、LINEで、安全・安心情報を発信していること(しらがLINE)
- 8 ☐ 警察が、メールで防犯情報を発信していること(ナポくんメール)
- 9 ☐ 市区町村によっては、特殊詐欺対策の電話機を購入すると、補助金が支給されること
- 10 ☐ 警察や自治体で詐欺電話の通報を受け付けていること
- 11 ☐ 警察・県のコールセンターが、高齢者の世帯に電話をかけていること
- 12 ☐ 警察官が、特殊詐欺について、高齢者の世帯を訪問していること
- 13 ☐ 千葉県では特殊詐欺のことを「電話de詐欺」と呼んで注意をよびかけていること
- 14 ☐ 県内の小学校5年生から、祖父母などに対して、注意喚起のはがきを発送する「STOP!電話de詐欺カクニンダーはがき大作戦」が行われていること
- 15 ☐ 上記いずれも知らない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

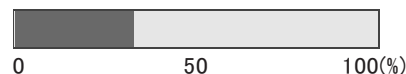


SQ4

過去の1年間に、特殊詐欺(オレオレ詐欺や還付金等詐欺、架空請求等)の注意の呼びかけで、実際に、あなたが見たり聞いたりしたものは何ですか。(いくつでも)

- 1 ☐ 県・市町村など自治体の広報紙
- 2 ☐ 警察の広報紙(交番だより、県警だより)など
- 3 ☐ 警察のツイート
- 4 ☐ 警察のホームページ
- 5 ☐ 警察による防犯情報メール(やまがた110ネットワーク)
- 6 ☐ 警察による防犯情報メール(ちば安全・安心メール)
- 7 ☐ 県・警察による防犯情報メール(しらしがメール、けいたくん防犯・交通安全情報)
- 8 ☐ 県・警察による安全・安心情報LINE(しらしがLINE)
- 9 ☐ 警察による防犯情報メール(ナポくんメール)
- 10 ☐ 「STOP!電話de詐欺カクニンダー」のはがき
- 11 ☐ ATM(金融機関)の入出金画面
- 12 ☐ チラシやパンフレット
- 13 ☐ 屋外の広告や交通広告
- 14 ☐ テレビやラジオのCM、新聞・雑誌・ネットの広告
- 15 ☐ テレビやラジオのニュース・番組(広告は除いてください)
- 16 ☐ 新聞・雑誌・書籍(広告は除いてください)
- 17 ☐ 防災無線
- 18 ☐ 人から聞いた(口コミ)
- 19 ☐ その他
- 20 ☐ 見たことや聞いたことはない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

0 50 100(%)

SQ5

あなたは特殊詐欺の防止について、次のようなポスターを見たことはありますか。
見たことがあるものを選択して下さい。(いくつでも)



1 ☐



2 ☐



3 ☐



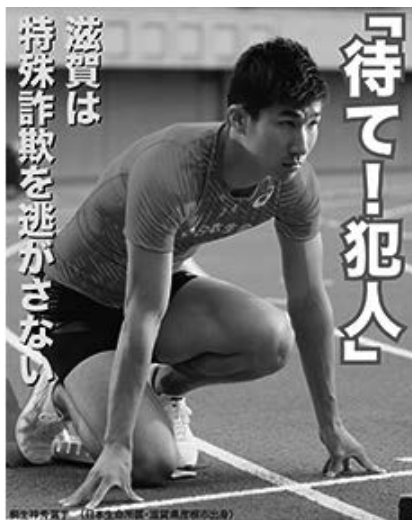
4 ☐



5 ☐



6 ☐



滋賀県警察 滋賀県大型小売店防犯・暴力等排除対策協議会

7 ☐



電話で口座や銀行番号などを聞かれたら答えず、一旦電話を切り、ご家族や、近所の警察にご相談ください。 滋賀県警察

8 ☐



奈良県金融機関防犯協議会・奈良県警察

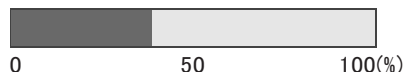
9 ☐



10 ☐

11 ☐ 上記いずれも見ることがない

次へ

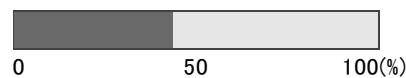


0

50

100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SQ6

あなたは、過去1年間(または過去1か月間)に次のようなことはありましたか。
あてはまるもの全てを選んで下さい。(いくつでも)

過去1年間に

- 1 ☐ 自分用のスマートフォン・携帯電話を購入・買い替えた
- 2 ☐ 自宅用の固定電話機を購入・買い替えた
- 3 ☐ 自分用のパソコンを購入した

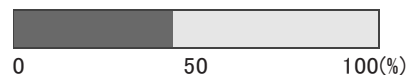
過去1か月間に

- 4 ☐ 同居の家族と特殊詐欺について話した
- 5 ☐ 別居の家族・親せきと特殊詐欺について話した
- 6 ☐ 隣近所の知り合いと特殊詐欺について話した

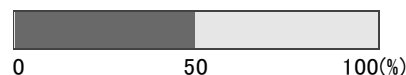
過去1か月間に

- 7 ☐ 相手を確認せずに電話に出たことがある
- 8 ☐ メールタイトルを確認せずに中身を開けたことがある
- 9 ☐ リンク先をよく確認せずに、リンクを開いたことがある
- 10 ☐ 窓を無施錠のまま、家族全員が外出したことがある
- 11 ☐ 玄関を無施錠のまま、家族全員が外出したことがある
- 12 ☐ 上記いずれもない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

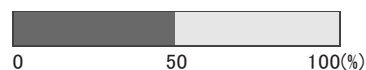


SQ7

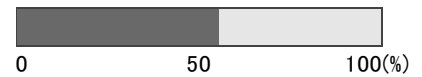
あなたのお宅では、過去1年間に、次のような、不審な連絡や、防犯対策についての働きかけを受けたことはありますか。(それぞれひとつずつ)

 回答方向		なかった	自分が受けた / 対応した	家族が受けた / 対応した	自分と家族の両方が受けた
不審な連絡について					
1	あなたの子や孫を装った人間からの、様子を探ったり「お金が必要だ」などの電話	1○	2○	3○	4○
2	金融機関を装った人間からの「口座やキャッシュカードが悪用されている」などの電話	1○	2○	3○	4○
3	公的機関を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話	1○	2○	3○	4○
4	あなたが覚えのない、未払い料金を要求するハガキ	1○	2○	3○	4○
5	あなたが覚えのない、「料金が未納です」といった不審な電子メールやメッセージ	1○	2○	3○	4○
6	しつこいセールス電話	1○	2○	3○	4○
防犯対策について					
7	警察・県の特殊詐欺対策コールセンターから電話があった	1○	2○	3○	4○
8	特殊詐欺被害を呼び掛けるために警察官が訪問してきた	1○	2○	3○	4○
9	特殊詐欺についての講演会や防犯教室に出席した	1○	2○	3○	4○
10	特殊詐欺の被害を呼び掛けるイベントに参加した/通りかかった	1○	2○	3○	4○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

**SQ8**

ご家族とお住まいについてお聞きます。
以下にあてはまる数字・文字をご記入ください。

同居している、ご家族の人数(あなたを含めて) 人

同居している、高校生以下の子どもの人数(いない場合は0と記入してください) 人

同居している、65-74歳の高齢者の人数(ご自分を含めて。いない場合は0と記入してください) 人

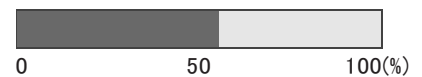
同居している、75歳以上の高齢者の人数(いない場合は0と記入してください) 人

現在のお住まいに住まわれてからの年数(四捨五入してご記入ください。半年未満は0年としてください) 年

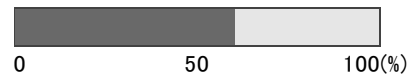
現在のお住まいの郵便番号※ハイフンは除く

現在のお住まいの近所で、最もよく使っている駅名

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

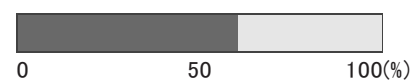


SQ9

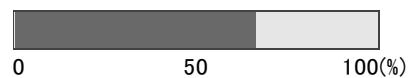
次の質問に「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれひとつずつ)

 回答方向		はい	いいえ
1	持ち家に住んでいる(分譲マンションを含む、家族所有も可)	1○	2○
2	一戸建てに住んでいる	1○	2○
3	自宅には固定電話機がある	1○	2○
4	個人使用のスマートフォン・携帯電話を持っている	1○	2○
5	個人使用のパソコンを持っている	1○	2○
6	高校を卒業している	1○	2○
 回答方向		はい	いいえ
7	短大・高専、専門学校を卒業している	1○	2○
8	大学・大学院を卒業している	1○	2○
9	現在、フルタイムで仕事をしている	1○	2○
10	現在、パートタイムで仕事をしている(アルバイトを含む)	1○	2○
11	自治会・町内会に加入している	1○	2○
12	地域のスポーツ団体、ボランティア団体などに参加している	1○	2○
13	近隣の小中学生がどこの子どもか知っている	1○	2○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

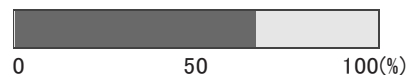


SQ10

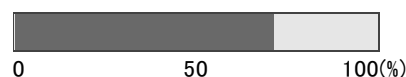
あなたのご自宅の固定電話では、現在、次のような機能を使っていますか。
(それぞれひとつずつ)

 回答方向		機能 が つ い て い る か ど う か 分 か ら な い	機 能 が あ る の は 知 っ て い る が 、 使 っ た （ 行 っ た ） こ と は な い	昔 使 っ た （ 行 っ た ） こ と は あ る が 、 今 は 使 っ て （ 行 っ て ） こ と は な い	現 在 、 使 っ て （ 行 っ て ） い る
1	ナンバーディスプレイ機能	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
2	着信拒否機能や自動録音機能などの迷惑電話防止機能	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
3	留守番電話機能を使って、外出時にかかってきたメッセージを確認する	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
4	留守番電話機能を使って、在宅時にかかってきた電話の相手を確認してから電話に出る	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



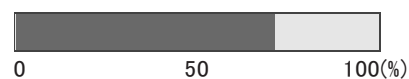
SQ11

次の質問に「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれひとつずつ)

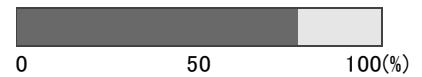
 回答方向		はい	いいえ
自宅の固定電話について			
1	在宅時にかかってきた電話は、自分が取ることが多い	1○	2○
2	留守番電話機能を使って、 <u>外出時</u> にかかってきたメッセージを確認している	1○	2○
3	留守番電話機能を使って、 <u>在宅時</u> にかかってきた電話の相手を確認してから電話に出ている	1○	2○
4	電話の近くに特殊詐欺対策のチラシなどを貼っている	1○	2○
5	着信拒否機能や自動録音機能などの迷惑電話防止機能を使っている	1○	2○
スマートフォンや携帯電話について			
6	電話をするときは、固定電話よりもスマートフォン・携帯電話の方が多い	1○	2○
7	パソコンにはウィルス対策ソフトをインストールしている	1○	2○
8	メッセージの差出人は確認するようにしている	1○	2○
9	メッセージの中のリンクはすぐに開かないようにしている	1○	2○
10	身に覚えのないメッセージは、無視するようにしている	1○	2○
ネットや新聞, 日常生活について			
11	日常的にtwitterを利用している	1○	2○
12	日常的にFacebookを利用している	1○	2○

 回答方向		はい	いいえ
13	日常的にLINEを利用している	1○	2○
14	全国紙(朝日、読売、毎日、日経等)を購読している	1○	2○
15	地元紙を購読している	1○	2○
16	山形新聞を購読している	1○	2○
17	南都銀行の口座を持っている	1○	2○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SQ12

あなたはふだん、次の時間帯に次のテレビ番組を見ていますか。(いくつでも)

夕方6時台

- 1 ☐ NHKのニュース番組(やままる)
- 2 ☐ NHKのニュース番組(首都圏ニュース、ほっと関西など)
- 3 ☐ 民放のニュース番組(news every、スーパーJチャンネル、Nスタ、News イット! など)

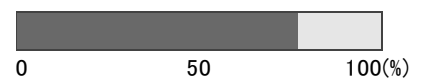
夕方7時台

- 4 ☐ NHK(1ch)「ニュース7」

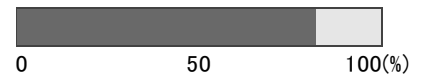
夜9-11時台

- 5 ☐ NHK(1ch)「ニュースウオッチ9」
- 6 ☐ 民放のニュース番組(news zero、報道ステーション、NEWS23、FNN Live Newsなど)
- 7 ☐ 上記いずれも見えていない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



SQ13

それでは、11月18日(水)には、次のテレビ番組を見ましたか。(いくつでも)

夕方6時台

- 1 ☐ NHKのニュース番組(やままる)
- 2 ☐ NHKのニュース番組(首都圏ニュース、ほっと関西など)
- 3 ☐ 民放のニュース番組(news every、スーパーJチャンネル、Nスタ、News イット! など)

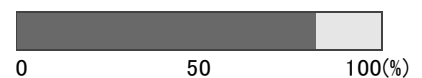
夕方7時台

- 4 ☐ NHK(1ch)「ニュース7」

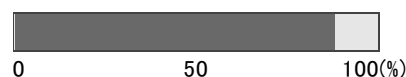
夜9-11時台

- 5 ☐ NHK(1ch)「ニュースウオッチ9」
- 6 ☐ 民放のニュース番組(news zero、報道ステーション、NEWS23、FNN Live Newsなど)
- 7 ☐ 上記いずれも見えていない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



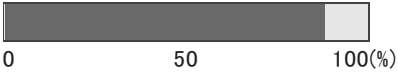
SQ14

あなたは、次のことについてどのようにお考えでしょうか。
それぞれについて、あてはまるものをお選びください。(それぞれひとつずつ)

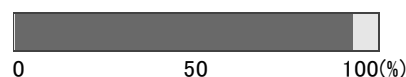
 回答方向		とても そう 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり 思わない	全く 思わない
お住まいの地区や自治会について						
1	この地区の住民は、考え方や暮らしぶりが似ている	1○	2○	3○	4○	5○
2	この地区の住民は、みなお互い顔見知りだ	1○	2○	3○	4○	5○
3	この地区の住民は、お互いに良い関係を保っている	1○	2○	3○	4○	5○
4	この地区で問題が起きても、住民で解決できる	1○	2○	3○	4○	5○
5	災害が起きた時には、近所の人は団結して行動するだろう	1○	2○	3○	4○	5○
6	犯罪を見かけたら、近所の人は警察に通報するだろう	1○	2○	3○	4○	5○
7	困っている子供を見かけたら、近所の人はその子を助けるだろう	1○	2○	3○	4○	5○
8	ほとんどの人は、信頼できる	1○	2○	3○	4○	5○
9	警察官は信頼できる	1○	2○	3○	4○	5○
あなたの関心について						
10	防災対策(地震や洪水)に関心があるほうだ	1○	2○	3○	4○	5○
11	防犯対策(特殊詐欺)に関心があるほうだ	1○	2○	3○	4○	5○
12	ニュースや新聞はよく見ているほうだ	1○	2○	3○	4○	5○
13	自治体の広報紙はよく読んでいるほうだ	1○	2○	3○	4○	5○

 回答方向		とても 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり 思わない	全く 思わない
あなたの物事の決め方について						
14	高い買い物や契約のときでも、細かい内容まで確認するのは苦手なほうだ	1○	2○	3○	4○	5○
15	判断が難しいことは我慢せずにすぐに決めてしまいたいほうだ	1○	2○	3○	4○	5○
16	理屈で考えるよりも直感や経験によって行動するほうだ	1○	2○	3○	4○	5○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



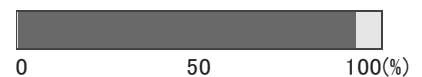
SQ15

特殊詐欺に関する次のような意見に対して、あなたは、どう思いますか。
それぞれの項目について、あてはまるものをお選びください。(それぞれひとつずつ)

 回答方向		とても そう 思う	そう 思う	どちら でも ない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない
1	私も詐欺の被害にあうかもしれない	1○	2○	3○	4○	5○
2	気をつけていても、だまされてしまう	1○	2○	3○	4○	5○
3	詐欺でお金を取られたら、大変なことになる	1○	2○	3○	4○	5○
4	被害にあわないよう対策をするのは良いことだ	1○	2○	3○	4○	5○
5	私の大事な人も、私が対策をすることを望んでいる	1○	2○	3○	4○	5○
6	対策をするかしないかは、私が決めることができる	1○	2○	3○	4○	5○
7	私は詐欺の手口について、よく知っている	1○	2○	3○	4○	5○
8	詐欺電話がかかってきても、私は撃退できる	1○	2○	3○	4○	5○
9	私は気をつけているので、詐欺の被害にあわない	1○	2○	3○	4○	5○
10	自分の家には詐欺の電話はかかってこない	1○	2○	3○	4○	5○

 回答方向		とても そう思う	そう 思う	どちら でもない	あまり 思わない	全く 思わない
11	対策をしてもしなくても、どのみち詐欺の被害にはあわない	1○	2○	3○	4○	5○
12	忙しくて詐欺の対策をする余裕はない	1○	2○	3○	4○	5○
13	親しい人であってもお金の話(相談)はできない	1○	2○	3○	4○	5○
14	自分ができる対策を何か一つしようと思う	1○	2○	3○	4○	5○
15	メールのメッセージの差出人は必ず確認しようと思う	1○	2○	3○	4○	5○
16	メールのメッセージの中のリンクはすぐに開かないようにしようと思う	1○	2○	3○	4○	5○
17	身に覚えのないメッセージは無視しようと思う	1○	2○	3○	4○	5○
18	不審な電話やはがき、メールが来たら無視しようと思う	1○	2○	3○	4○	5○
19	普段から相談できる相手を作っておこうと思う	1○	2○	3○	4○	5○
20	不審な連絡が来たら誰かに相談しようと思う	1○	2○	3○	4○	5○

次へ



令和2年度 社会調査実習報告書 第9号

発行：2021年3月31日

発行者：淑徳大学コミュニティ政策学部

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7331

印刷：株式会社 正文社